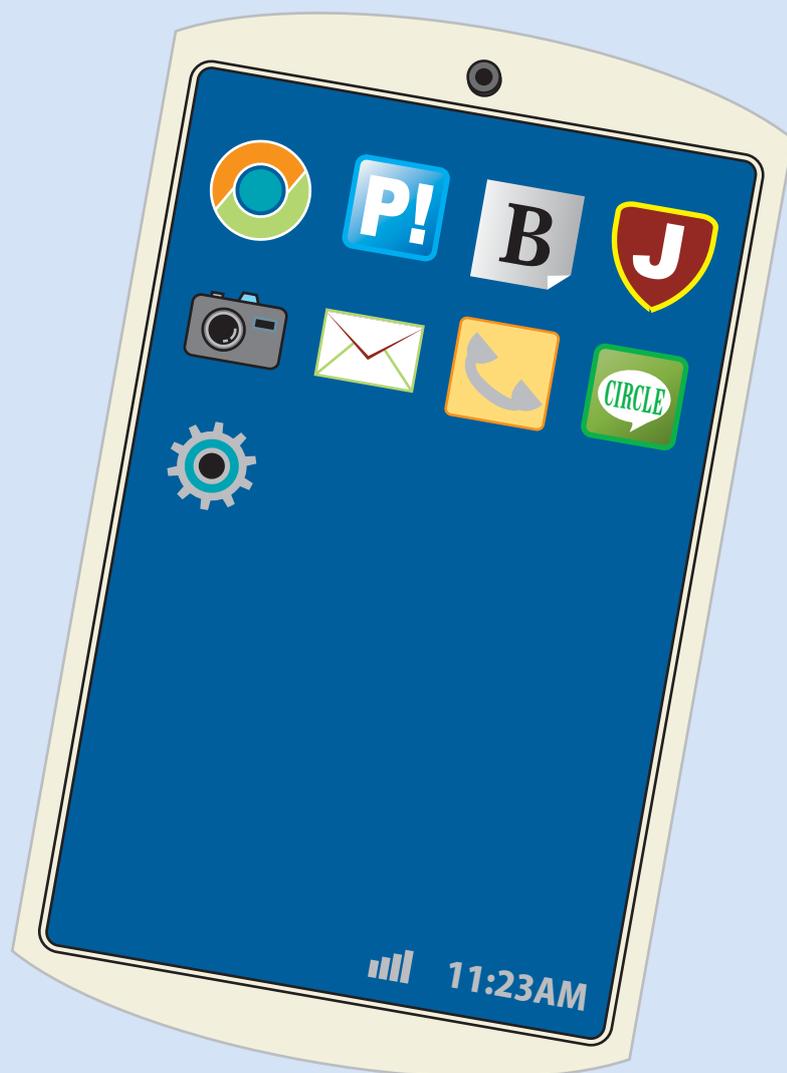


文部科学省委託 情報モラル教育推進事業  
「情報モラルに関する指導の充実に資する調査研究」

# 情報化社会の新たな問題を 考えるための教材

～安全なインターネットの使い方を考える～

## 指導の手引き



株式会社 エフ・エー・ブイ



## \* はじめに \*

■近年のスマートフォン等の急速な普及に伴い、高い利便性を得る一方、児童生徒が、無料通話アプリや SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、オンラインゲーム等の利用などを通じて、長時間利用による生活習慣の乱れや不適切な利用によるいわゆる「ネット依存」や、ネット詐欺・不正請求などの「ネット被害」、SNS によるトラブルなど、情報化の進展に伴う新たな問題が生じています。

文部科学省では、こうした状況を踏まえ平成 25 年度に「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」を作成したところですが、その後に生じた情報化の進展に伴う新たな課題に対応するため、このたび動画教材を追加するなど内容を一層充実するとともに、保護者に対する啓発教材も作成しました。こうした一連の資料が授業における指導実践や保護者をはじめ幅広く情報モラルに関係する方々に積極的に活用されることなどにより、児童生徒が適切に ICT（情報通信技術）を活用し、情報社会を安心・安全に生き抜くための能力や態度が育成されることを願っています。

最後に、調査研究委員会座長として事業遂行を主導いただいた原克彦教授（目白大学）をはじめ、事業実施に御尽力いただいたすべての関係者の方々に感謝申し上げます。

文部科学省生涯学習政策局情報教育課

■スマートフォンをはじめとする様々な携帯型情報端末の普及とともに、児童生徒の SNS や無料アプリ、無料ゲーム等の利用が増加しています。その特性を理解しながら有効に活用している反面、ネット依存や SNS でのトラブル、ネット詐欺や不正請求等の被害も多くなっています。先の 2013 年度の本委託事業では、児童生徒が携帯型情報端末等でインターネットを利用した場合に生じる具体的なトラブル事例等を収集・分析するとともに、教員の「情報モラル」に関する指導の実態や教材作成上の問題点をつかむための調査を実施し、「ネット依存」に関する内容をはじめ、「ネット被害」、「SNS 等のトラブル」、「適切なコミュニケーション」の 4 テーマに関して、8 本の動画教材とモデル指導案を作成し公開しました。

その後わずか 2 年間に児童生徒の携帯型情報端末の所有率が増加し、新たな課題が発生しています。その解決には流行に左右されない不易の内容を児童生徒に正しく伝えることが必要であることがわかってきました。そこで、前回の 4 つのテーマに「情報セキュリティ」を加え、実践授業の実施と検証を踏まえて 14 本の動画教材とモデル指導案を作成しました。検証授業は、「特別活動」や教科「情報」、「道徳」を中心に進めましたが、「国語」や「技術・家庭」等でも実施できる教材も含まれています。

また、前回の調査では、保護者がインターネットの特性や子供の利用傾向に対して正しく把握し、学校と家庭が一体となって情報モラル教育を推進することの必要性が明らかになっていました。そこで、児童生徒がワークシートを家庭に持ち帰り、家族が学校で学んでいることを把握する仕組みとともに、家庭でのルール作りの方法などを保護者が把握するための動画教材とパンフレット、講習会のための手引きなども開発しました。

これらの教材群を有効に活用いただき、児童生徒がインターネットや携帯情報端末などを適切に活用できる力と態度を育成していただければ幸いです。

目白大学 原 克彦

# もくじ

5つの課題と14の動画教材	4
---------------	---

## 第1部

1. 児童生徒を取り巻く ICT の現状	8
2. 情報モラル教育の必要性	18
3. 教材と情報モラル指導モデルカリキュラムや教科等との関連	20
情報モラル指導モデルカリキュラム	22
4. 情報モラル教育の進め方	24
5. 情報モラル指導モデル教材	28

## 第2部

6. 教材の概要／シナリオ・スライド	34
動画教材のポイントと指導案	
教材1 [ネット依存] ネットゲームに夢中になると…	48
教材2 [ネット依存] 身近にひそむネット依存	60
教材3 [ネット被害] そのページ, 確認しなくて大丈夫?	66
教材4 [ネット被害] ネット詐欺などに巻き込まれないようにするために	72
教材5 [ネット被害] 軽い気持ちの ID 交換から…	78
教材6 [ネット被害] 写真や動画が流出する怖さを知ろう	84
教材7 [SNS 等のトラブル] ひとりよがりの使い方にならないように	90
教材8 [SNS 等のトラブル] 情報の記録性、公開性の重大さ	100
教材9 [SNS 等のトラブル] SNS への書き込みの影響	106
教材10 [SNS 等のトラブル] 軽はずみな SNS への投稿	112
教材11 [情報セキュリティ] パスワードについて考えよう	118
教材12 [情報セキュリティ] 大切な情報を守るために	124
教材13 [適切なコミュニケーション] うまく伝わったかな?	130
教材14 [適切なコミュニケーション] コミュニケーションの取り方を見直そう	140

## コラム

・ ネット依存 .....	57
・ コンピュータウイルス .....	99
・ パスワード .....	139
・ 情報セキュリティ .....	146
・ 児童会や生徒会の自治と情報モラル .....	147

## 第3部

7. 保護者への啓発 .....	148
8. レファレンス	
関連図書・関連サイト .....	154
9. 作成委員 .....	156



# 5つの課題と14の動画教材

5つの課題（テーマ）について、それぞれ2～4つの動画教材が用意されている。

テーマ

## ネット依存

過度なインターネットの利用（コンテンツ視聴やゲーム、SNS等）により、生活習慣が乱れ、日常生活に大きな支障を来す。

## ネット被害

ネット詐欺・不正請求、コンピュータウイルスへの感染等、インターネットの利用を通じて、児童生徒がこれまでにない被害に巻き込まれている。

教材

① ネットゲームに夢中になると…



→ p.48

② 身近にひそむネット依存



→ p.60

③ そのページ、確認しなくて大丈夫？



→ p.66

④ ネット詐欺などに巻き込まれないようにするために



→ p.72

⑤ 軽い気持ちのID交換から…



→ p.78

⑥ 写真や動画が流出する怖さを知ろう



→ p.84

関連する資料

- 児童生徒の ICT の利用状況 ⇨ p.8
- 児童生徒のインターネット利用 ⇨ p.9
- ネット依存 ⇨ p.11
- コラム「ネット依存」 ⇨ p.57



インターネットの特性を理解することが大切

## SNS等のトラブル

スマートフォンやSNS等の新たな情報通信技術の利用を通じたトラブルについて、相手とのやりとりの中で発生する問題について考える。

### ⑦ひとりよがりの使い方にならないように



→ p.90

### ⑧情報の記録性、公開性の重大さ



→ p.100

### ⑨SNSへの書き込みの影響



→ p.106

### ⑩軽はずみなSNSへの投稿



→ p.112

- 児童生徒のインターネット利用 ⇨ p.9
- ネットトラブル ⇨ p.13
- コラム「コンピュータウイルス」 ⇨ p.99

## 情報セキュリティ

IDとパスワードをはじめ、インターネット上で自身や他者の情報を守る時に必要となる情報セキュリティの問題について考える。

### ⑪パスワードについて考えよう



→ p.118

### ⑫大切な情報を守るために



→ p.124

## 適切なコミュニケーション

相手や状況に応じて、コミュニケーション手段を適切に選ぶことや相手への思いやりが必要であることを理解し、よりよい関係のあり方を考える。

### ⑬うまく伝わったかな？



→ p.130

### ⑭コミュニケーションの取り方を見直そう



→ p.140

- 児童生徒のサービス・アプリケーション利用 ⇨ p.11
- コラム「パスワード」 ⇨ p.139
- コラム「情報セキュリティ」 ⇨ p.146
- コラム「児童会や生徒会の自治と情報モラル」 ⇨ p.147

相手のことを考えたり、思いやることが大切



# 「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」

## DVD (動画教材データ)



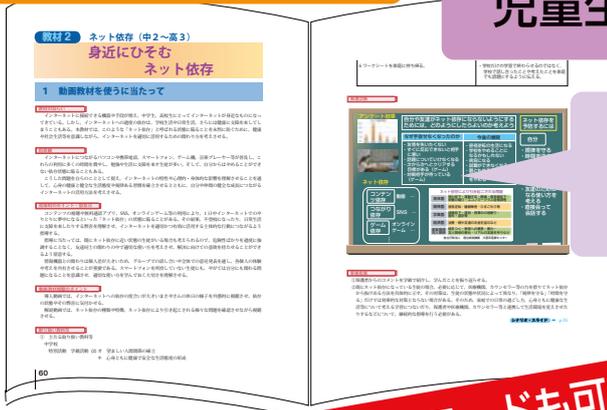
Web サイトからのダウンロードも可能

導入編 + 解説編データ  
場面毎に分割されたデータ  
板書用シーンデータ  
ワークシートデータ

5つの課題  
14本の動画教材

小中学校用 7タイトル  
高等学校用 7タイトル

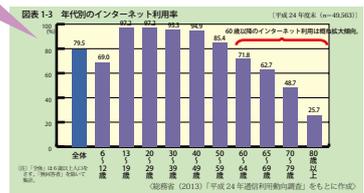
## 手引書 (本書)



5つの課題に関する  
児童生徒の現状

動画教材用モデル  
指導案例

## グラフと解説

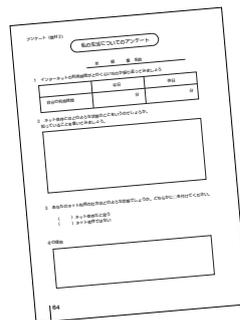


- 動画教材解説
- 授業の展開
- 留意点など

Web サイトからのダウンロードも可能



動画教材の構成



アンケート例



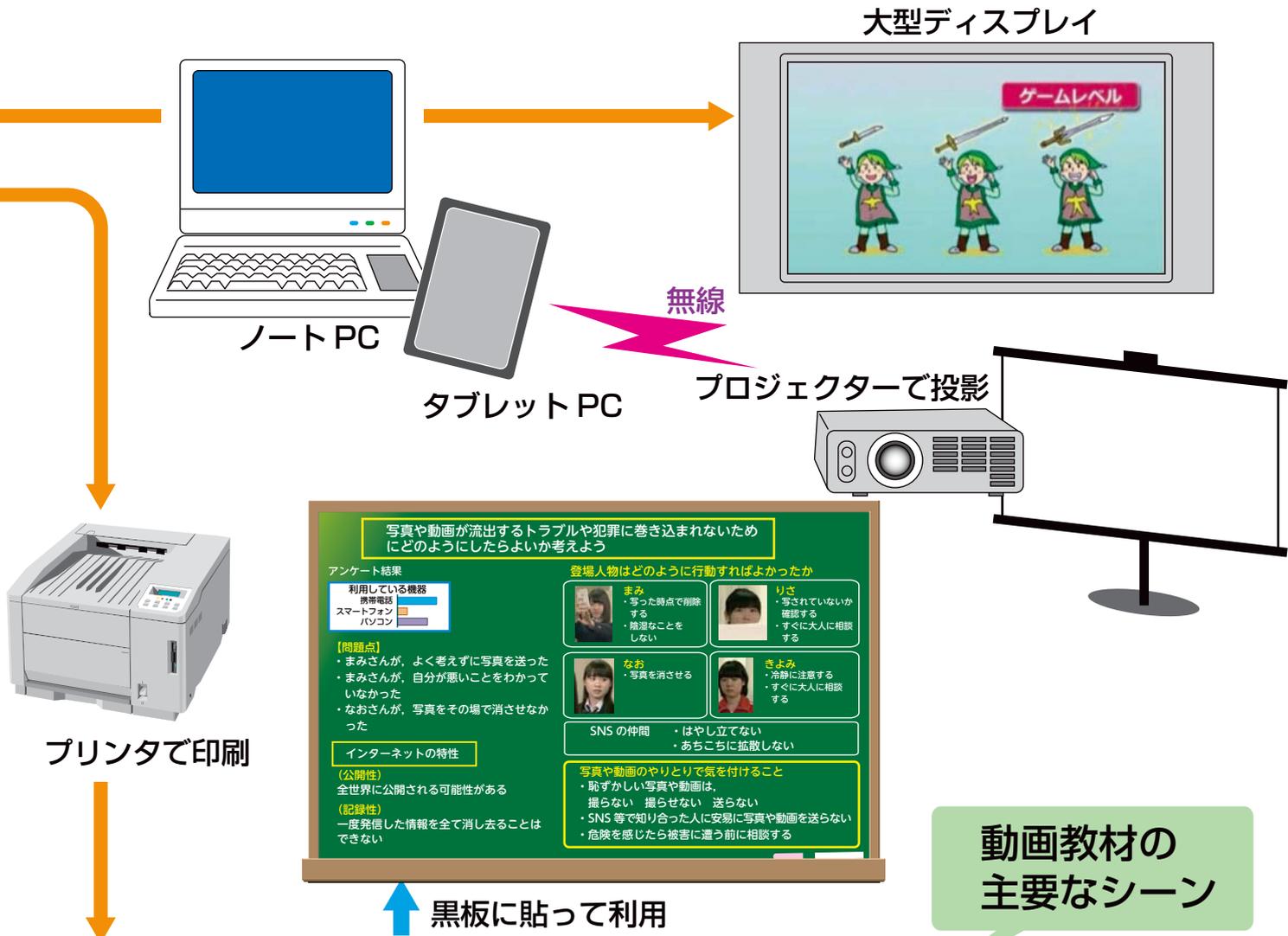
ワークシート例

実践の前に  
読んでおくと  
指導しやすい



[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm) より入手

# と「指導の手引き」の活用



写真や動画が流出するトラブルや犯罪に巻き込まれないためにどのようにしたらよいか考えよう

アンケート結果

利用している機器

携帯電話	スマートフォン	パソコン
------	---------	------

【問題点】

- まみさんが、よく考えずに写真を送った
- まみさんが、自分が悪いことをわかっていなかった
- なおさんが、写真をその場で消さなかった

登場人物はどのように行動すればよかったか

<p>まみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写った時点で削除する</li> <li>陰湿なことをしない</li> </ul>	<p>りさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写されていないか確認する</li> <li>すぐに大人に相談する</li> </ul>
<p>なお</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真を消させる</li> </ul>	<p>きよみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷静に注意する</li> <li>すぐに大人に相談する</li> </ul>

SNSの仲間

- はやし立てない
- あちこちに拡散しない

インターネットの特性

(公開性)  
全世界に公開される可能性がある

(記録性)  
一度発信した情報を全て消し去ることはできない

写真や動画のやりとりで気を付けること

- 恥ずかしい写真や動画は、撮らない 撮らせない 送らない
- SNS等で知り合った人に安易に写真や動画を送らない
- 危険を感じたら被害に遭う前に相談する

ひとつのパスワードがわかると ひそがかく大する

重要な個人情報が多く入っている人もいる

大切な情報をつかう場合は

- パスワードを設定する
- パスワードは他人に知られないようにする
- すい測されにくく、覚えやすいパスワードを設定する
- パスワードは定期的に変えようとする
- パスワードは使い回さない

個人情報がもれると

自分や家族や友達を 危険にさらすことになる

黒板に貼れるように、動画画面をキャプチャしたスライドデータがDVD-ROMに収録されています。

すぐに活用できる  
板書用データ

# 第1部

## 1. 児童生徒を取り巻く

### 1.1 児童生徒のICTの利用状況等

児童生徒の生活の中で、ICT との関係が深まってきている。

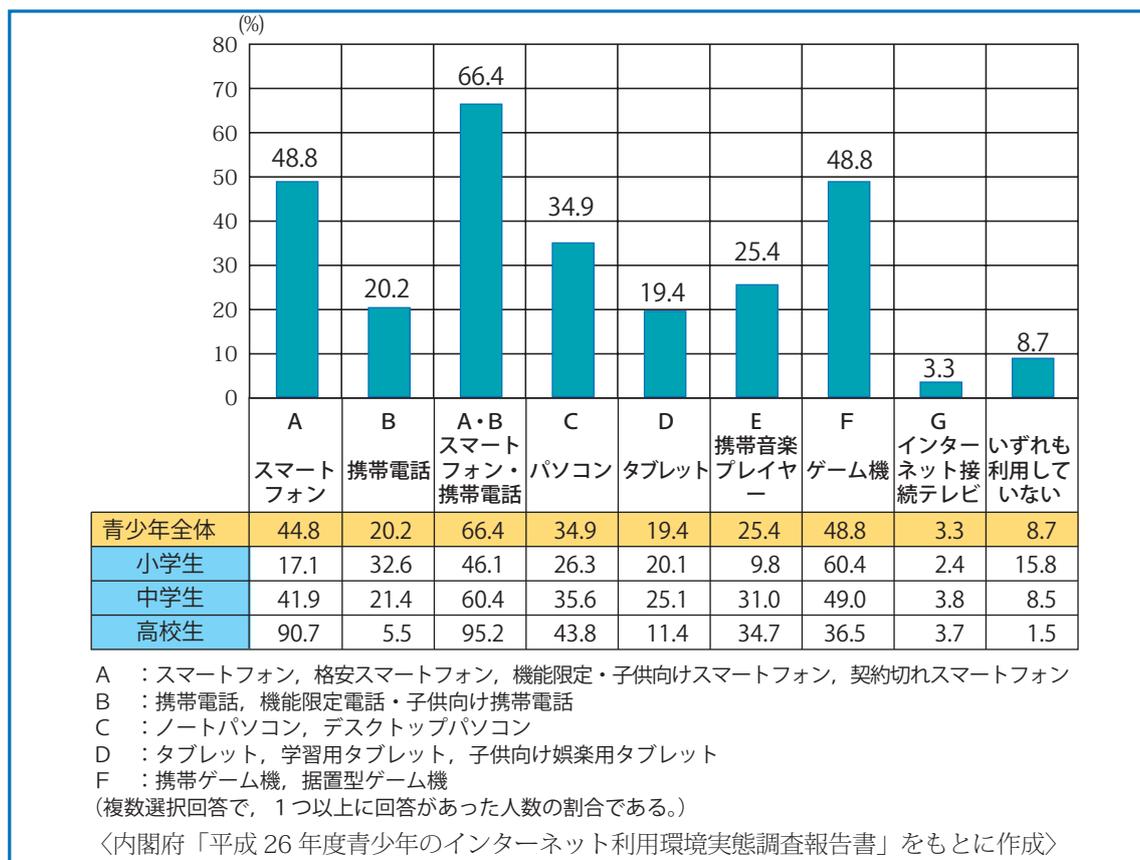
#### (1) 児童生徒のICT 機器 (デバイス) 利用

平成 26 年度の内閣府の調査では、小学生の約 46.1%，中学生の約 60.4%，高校生の約 95.2% がスマートフォンや携帯電話を所有していると推測され【図表 1-1】，平成 23 年から平成 25 年度の調査では，小中高校生の所有する携帯電話の多くが，スマートフォンに移行していることが分かる。【図表 1-2】

一方で，小学生の約 60.4% がゲーム機に慣れ親しんでおり，中学生の 31%，高校生の 34.7% が携帯音楽プレイヤーを所有している。【図表 1-1】

このように，小中高校生は，スマートフォンや携帯電話だけでなく，パソコン・タブレット・携帯音楽プレイヤー・ゲーム機等様々な ICT 機器に取り囲まれて生活している実態が分かる。

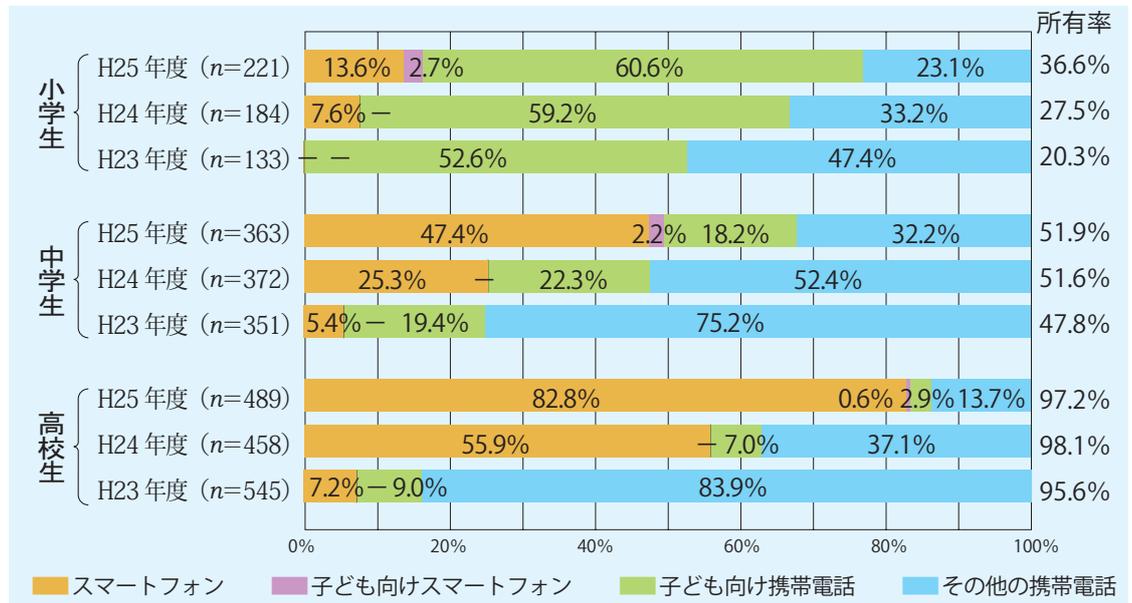
図表 1-1 青少年が利用する ICT 機器



# ICT の現状



図表 1-2 青少年の携帯電話（スマートフォンを含む）所有率と機種



〔注1〕「青少年の携帯電話・スマートフォンの所有機種」は、携帯電話・スマートフォンを持っていると回答した青少年をベースに集計。  
 〔注2〕平成23年度～平成24年度における「子ども向け携帯電話」は、「子ども向けスマートフォン」を含む。  
 〈内閣府（2015）「平成26年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書」中の「参考資料」をもとに作成〉

## (2) 児童生徒のインターネット利用

これらのICT機器は、単独で利用されることも多いが、インターネットへのアクセス手段として利用されることも多い。我が国のインターネット利用率は全体で約83%であるが、おおむね小学生に相当する6～12歳で約72%と全体平均に迫り、中高生以上に相当する13～19歳では約98%とほぼ全員がインターネットを利用するなど、児童生徒の間ではインターネットの利用が浸透しているものと考えられる。【図表 1-3】

図表 1-3 年代別のインターネット利用率



特に、児童生徒のスマートフォンによるインターネット利用時間が年々長くなっており、高校生の場合、平均利用時間が男子 145.4 分、女子 163 分に達している。また、中高生女子の 10% 以上が 1 日平均で 5 時間以上にわたって、スマートフォンによりインターネットを利用している。【図表 1-4】

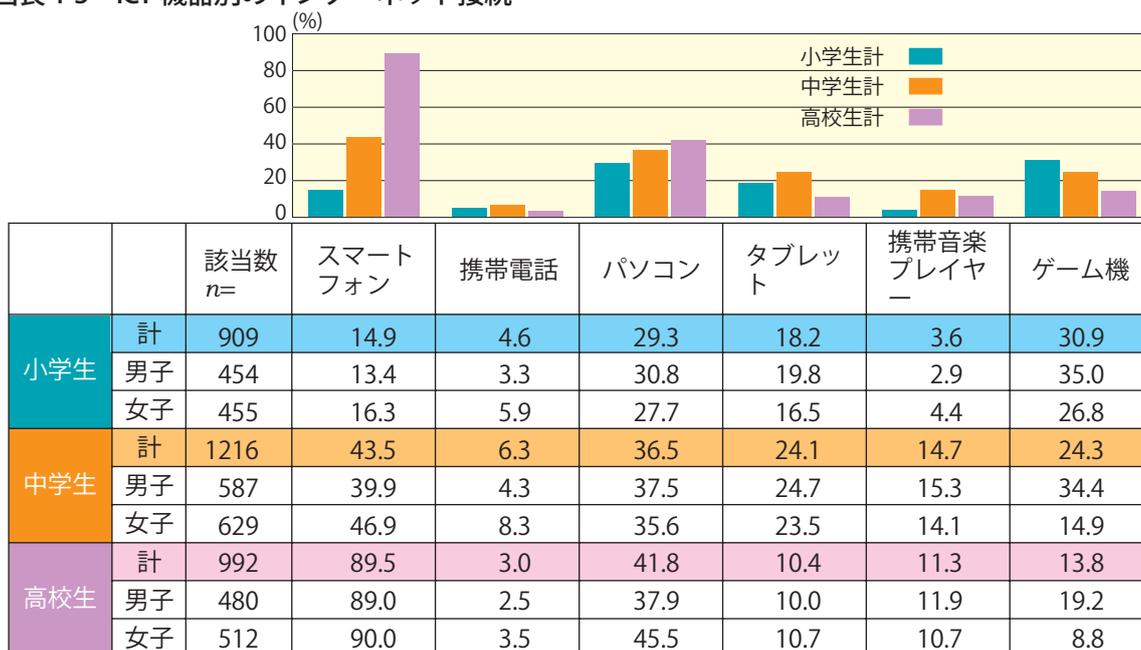
図表 1-4 インターネットの平均的な利用時間【スマートフォン】



〈内閣府「平成 26 年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書」をもとに作成〉

なお、児童生徒が、スマートフォン・携帯電話・パソコン・携帯音楽プレイヤー・ゲーム機等、様々な ICT 機器を通じてインターネットを利用しており、中学生の 14.7%、高校生の 11.3%、小学生の 3.6% が携帯音楽プレイヤーによってインターネットにアクセスしているなど、インターネット接続機器の多様化にも留意すべきである。【図表 1-5】

図表 1-5 ICT 機器別のインターネット接続



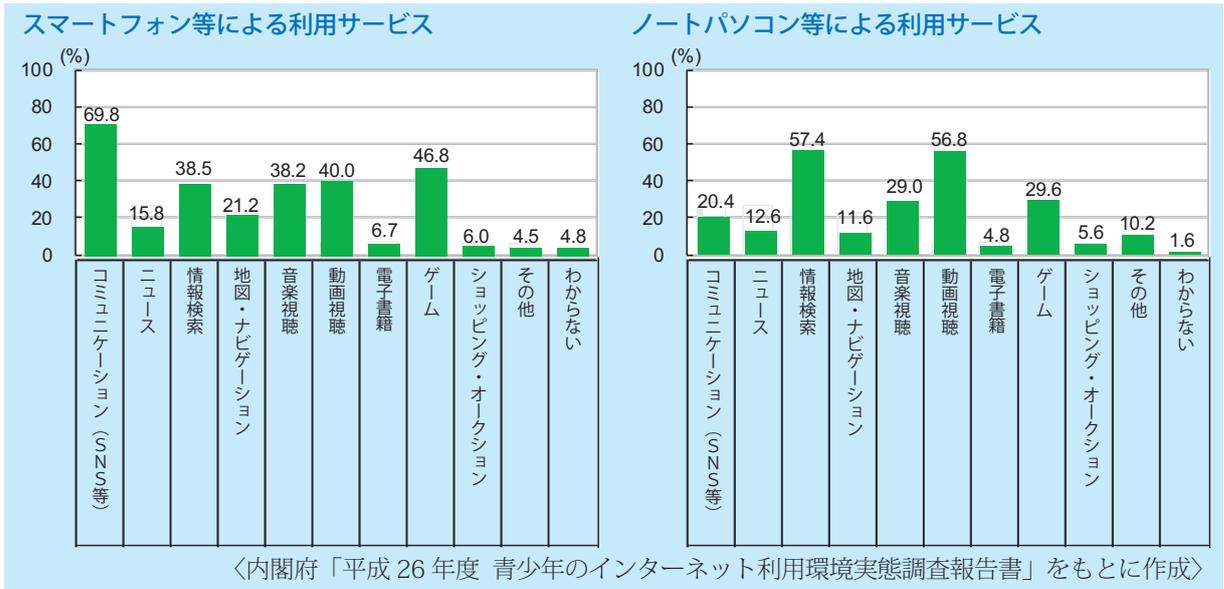
〈内閣府「平成 26 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査報告書」をもとに作成〉

### (3) 児童生徒のサービス・アプリケーション利用

児童生徒がインターネットにアクセスして利用しているサービスやアプリケーションは、ノートパソコン等による利用の場合は、従来どおり動画視聴や情報検索が最も一般的であるが、スマートフォン等によるインターネット利用の場合は、SNS等のコミュニケーションやゲームの利用が中心になっている。【図表 1-6】

このように、インターネットを利用するといっても、かつての典型的な利用形態のように、「パソコンを通じてインターネットにアクセスし、Web サイトや電子メールを利用する」といった形態ではない。最近の児童生徒の場合は、「スマートフォン・ゲーム機・携帯音楽プレイヤーを含む多種多様な ICT 機器を通じてインターネットにアクセスし、無料通話アプリ・SNS を多用する」といった利用形態が一般化している傾向を認識する必要がある。

図表1-6 青少年が利用するインターネットサービス・アプリケーション



※「スマートフォン等による利用サービス」のうち、機能限定携帯電話や子供向け携帯電話における「地図・ナビゲーション」「ショッピング・オークション」等のように機能がな場合は集計から除いている。

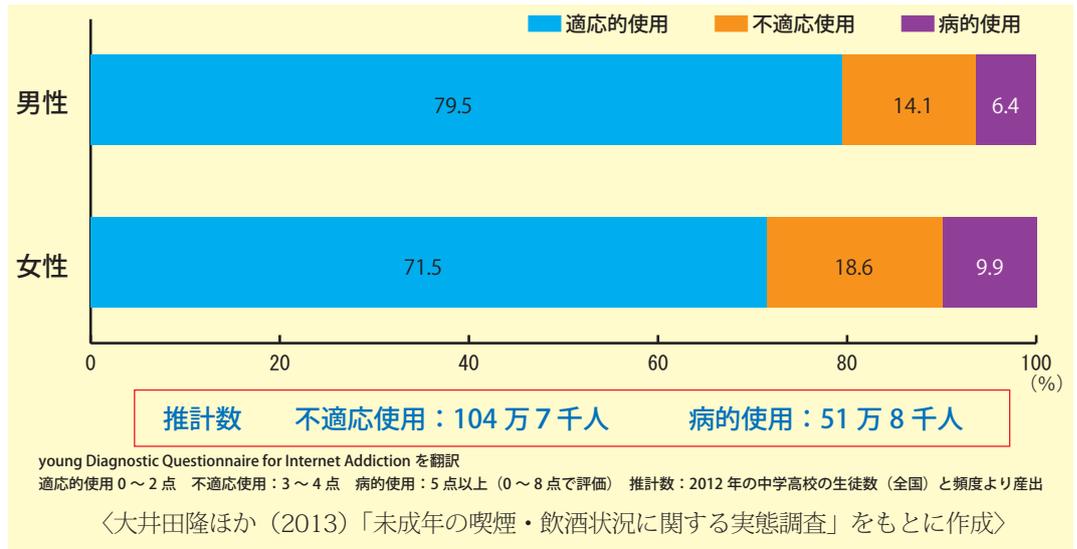
## 1.2 児童生徒の ICT 利用に関する問題

### (1) いわゆる「ネット依存」

このような利用傾向を示す児童生徒には、従来とは異なった課題が生じている。その一つに、いわゆる「ネット依存 (インターネット嗜癖<sup>しへき</sup>)」を挙げることができる。「インターネットに過度に没入してしまうあまり、コンピュータや携帯電話が使用できないと何らかの情緒的苛立ちを感じる事、また実生活における人間関係を煩わしく感じたり、通常の対人関係や日常生活の心身状態に弊害が生じているにも関わらず、インターネットに精神的に嗜癖してしまう状態<sup>\*</sup>」と定義されることもあるネット依存の傾向は、児童生徒の間でも広まっており、全国で約 52 万人 (2013 年) の中高生が病的使用傾向にあると推定する調査もある。【図表 1-7】

\* Young K, CyberPsychol Behav, 1998

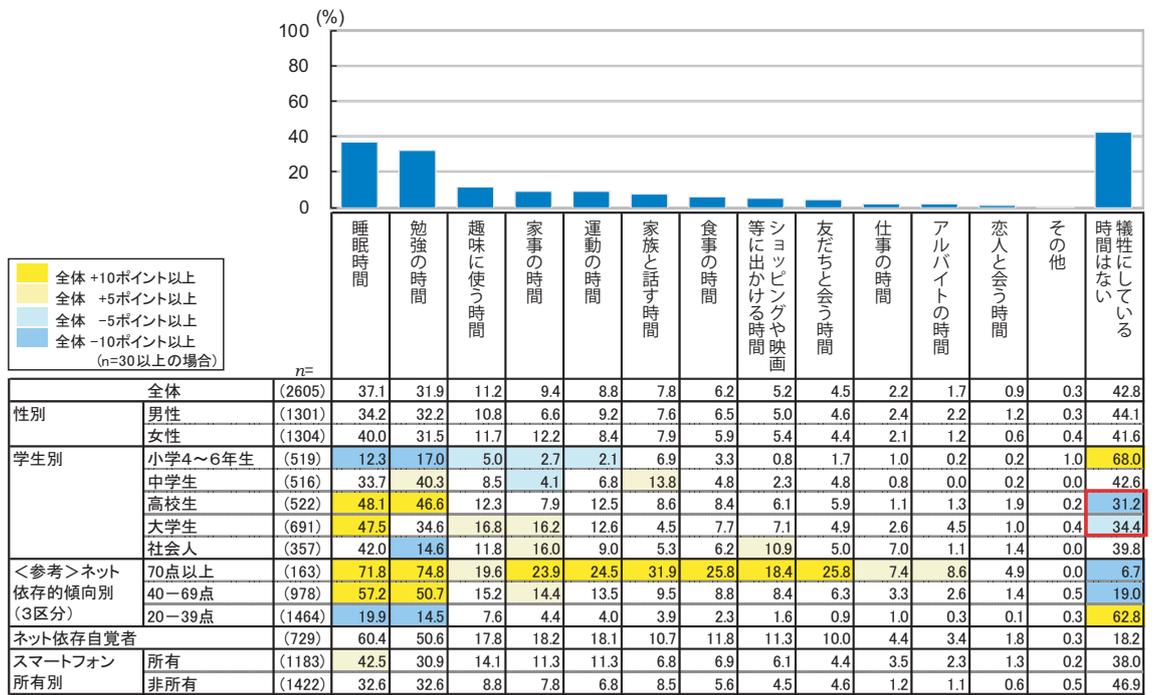
図表 1-7 中高生のインターネット依存傾向



\*不適応使用, 病的使用：57 ページの【ネット依存度テスト】を参照。

「ネット依存」は、まだ病気として確立されたものではないが、睡眠時間や睡眠の質に影響が及ぶ傾向を始め、健康問題や社会的問題を起こしうるものであり、早期発見・早期対策が必要と考えられる。【図表 1- 8】

図表 1-8 青少年のインターネット利用に伴う犠牲感

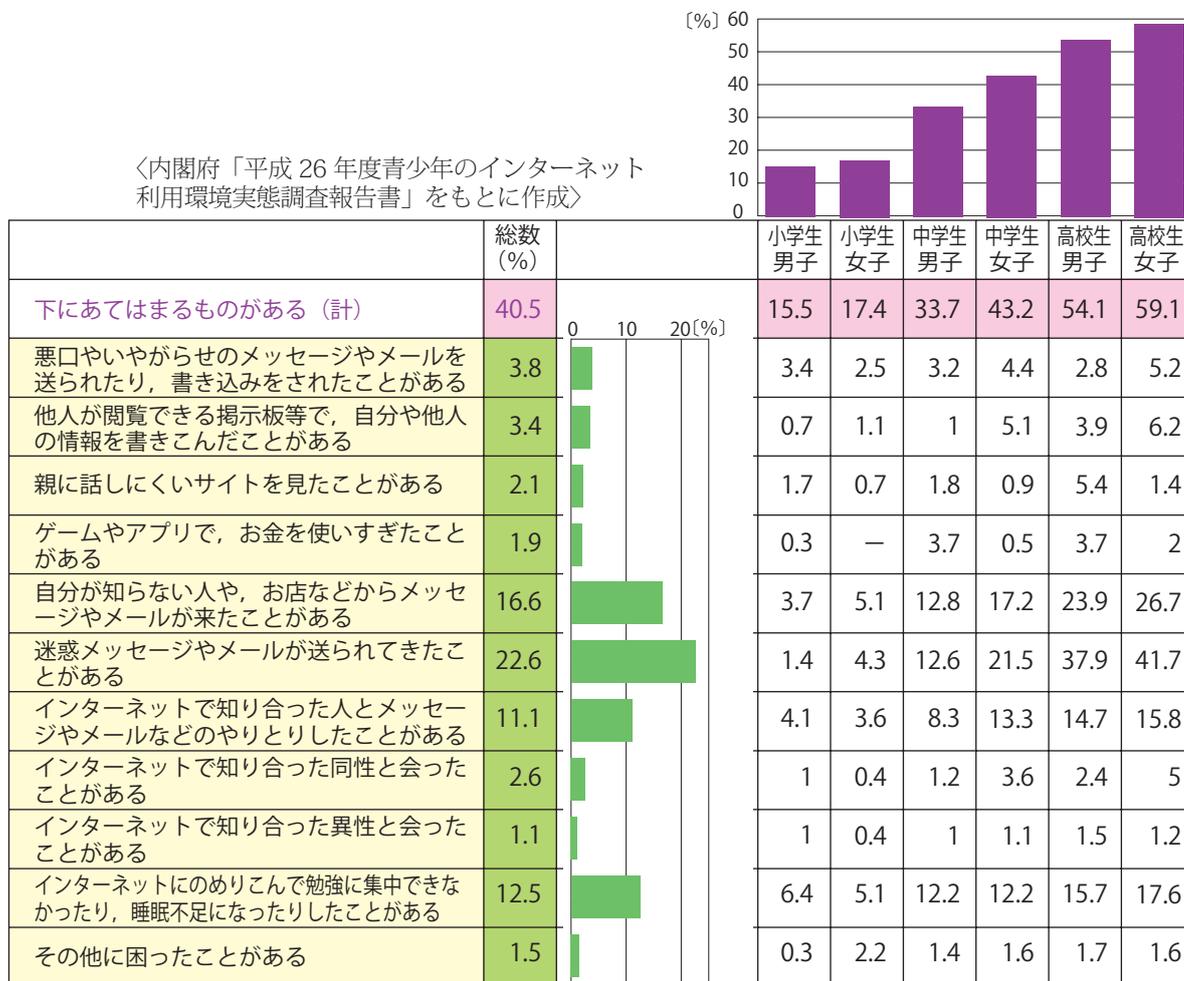


<総務省(2013)「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」をもとに作成>

## (2) ネットトラブル(被害/加害)

児童生徒がインターネット上でトラブルに遭ったり、起こしたりする割合は、小学生から中学生・高校生、と順を追って増加し、高校生では男子54.1%、女子59.1%がネットトラブルを認識している。具体的なトラブルとしては、メール関連が多く、特に自分の知らない人からのメッセージや、迷惑メッセージやメール等によるトラブルが多くなっている。【図表 1-9】

図表 1-9 青少年のインターネット上のトラブル認識



### (3) スマートフォンや SNS 等による被害

近年の特徴として、スマートフォンや SNS 等の利用者が急増していることに伴って、面識のない利用者同士が交流するサイトや、ID 掲示板と呼ばれる無料通話アプリの ID を交換して交流するサイト等で児童生徒が被害に遭うケースも出てきている。【図表 1-10】

図表 1-10 主なコミュニティサイト種別の被害児童数の推移

(人)

	H20上	H20下	H21上	H21下	H22上	H22下	H23上	H23下	H24上	H24下	H25上	H25下	H26上	H26下	H27上
ミニメール型	158	157	164	187	244	296	210	189	147	140	61	33	15	12	8
チャット型	0	0	0	0	0	0	0	0	3	13	32	52	80	159	247
ID 交換掲示板	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	20	120	175	103	51
複数交流型	0	0	0	0	0	0	2	2	12	39	40	68	100	133	160

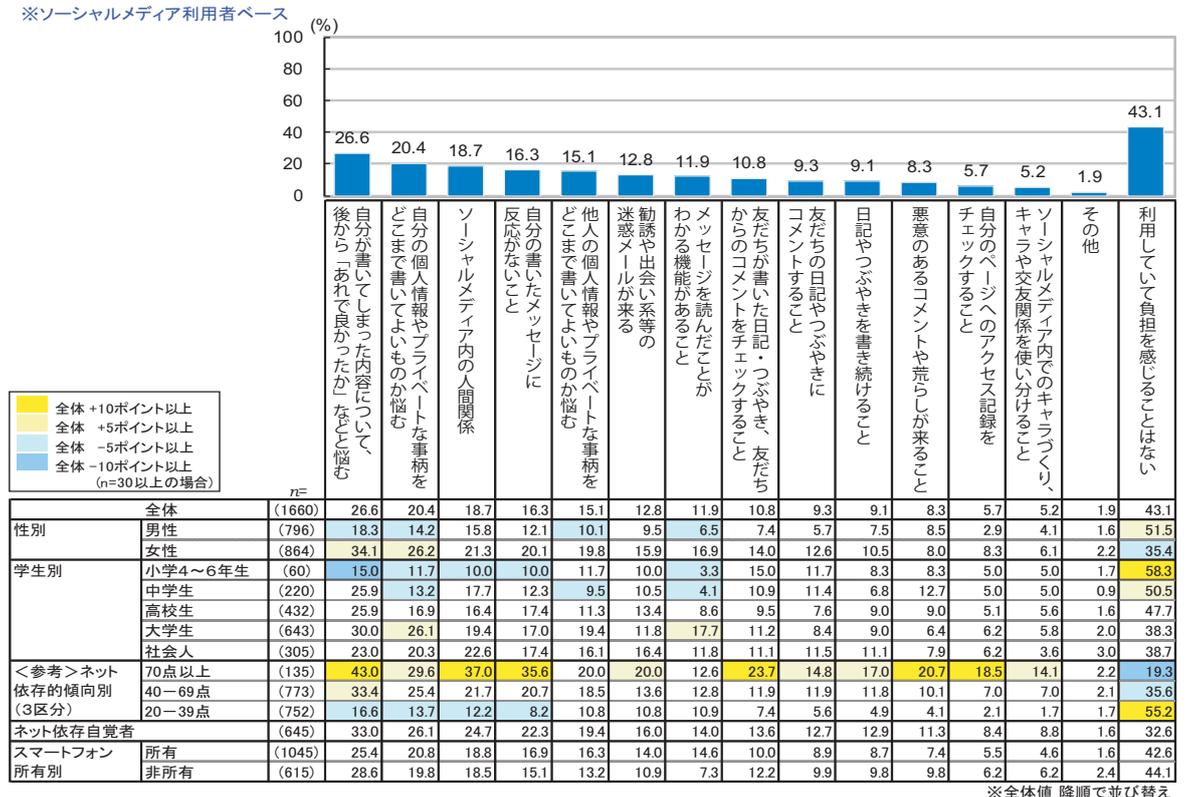
- ※ ミニメール型：コミュニケーションの主たる手段として面識のない利用者同士がミニメール等により交流するコミュニティサイト
- チャット型：コミュニケーションの主たる手段として面識のない利用者同士が1対1のチャットにより交流するコミュニティサイト
- ID 交換掲示板：コミュニケーションの主たる手段として面識のない利用者同士が無料通話アプリの ID を交換することにより交流するコミュニティサイト（いわゆる ID 交換掲示板）
- 複数交流型：上記以外で広く情報発信や同時に複数の友人等と交流する際に利用されるコミュニティサイト

※ 平成 20 年以降、種別ごとに被害児童数が多かった上位 3 サイトの合計を算出した。  
 〈警察庁（平成 27 年）「コミュニティサイトに起因する事犯の被害児童の状況」をもとに作成〉

### (4) ソーシャルメディア利用に伴う負担感

小型のコンピュータであるスマートフォンをコンピュータやインターネットの利用経験やリテラシーの浅い状態で利用してしまうことに起因して、自分が書いてしまった内容や、個人情報や記述をはじめとする SNS での情報発信の内容や、SNS 内での人間関係に悩む児童生徒も少なくない。【図表 1-11】

図表 1-11 青少年のソーシャルメディア利用に伴う負担感



〈総務省（2013）「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」をもとに作成〉

## (5) セキュリティ

自分の知らない人からのメッセージや、迷惑メッセージ等によるトラブルの原因として、ID やパスワードの管理に起因している場合がある。また、コンピュータやインターネットを安心して安全に利用するためには、ID やパスワード等をはじめとする情報セキュリティについて児童生徒が理解しておくことも必要である。

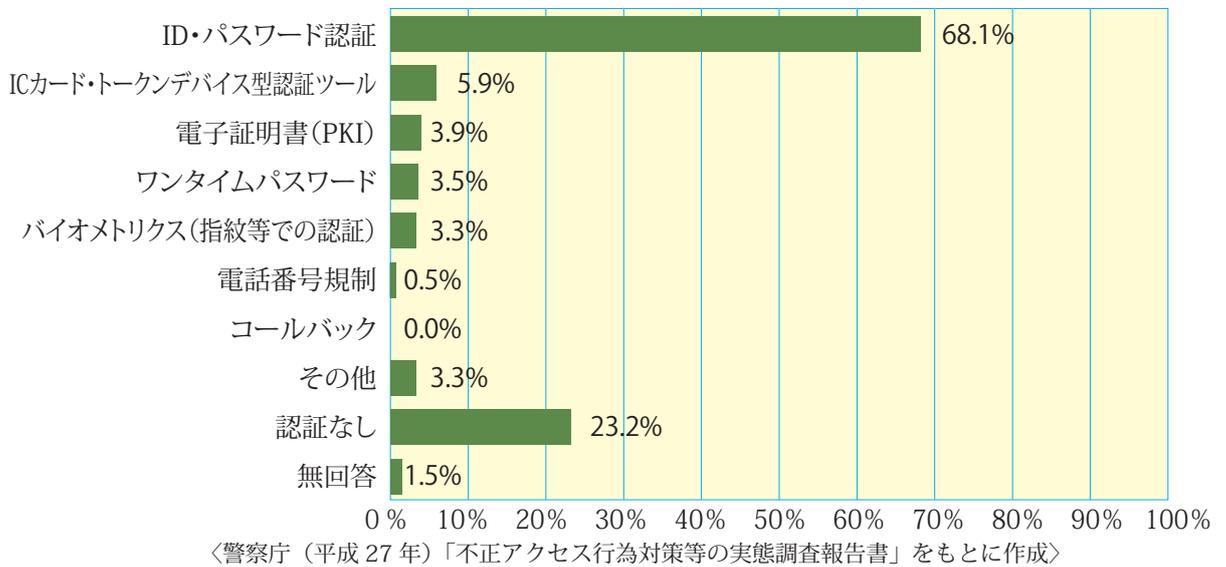
インターネットへ接続する場合の認証方法としては、一般的にはID とパスワードが約 68% であり、その管理方法についても、パスワードの長さを一定以上に定めることをはじめ様々な対策がとられている。

【図表 1-12, 図表 1-13】

児童生徒が利用するインターネットに関する環境における脅威が多様化する中で、セキュリティ対策の重要性が増している。総務省では「情報セキュリティ初心者のための三原則」を定め、「ソフトウェアの更新」「ウイルス対策ソフトの導入」「ID とパスワードの適切な管理」の3点について広く周知を行っている。【図表 1-14】

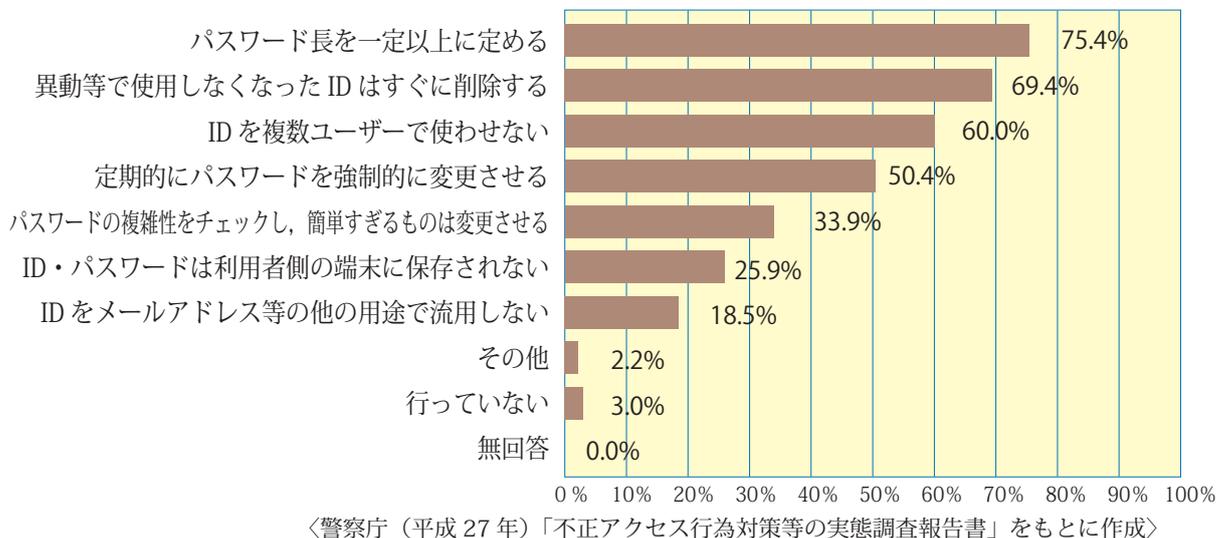
図表 1-12 インターネットへの接続の認証方法（一般）

【全体】全体では、「ID・パスワード認証」が 68.1% で最も多く、「認証なし」は 23.2% となっている。  
 ※本項目は、インターネット環境を整備している、または整備を計画中の社・団体等を対象としている。



図表 1-13 ID・パスワードの管理方法（一般）

【全体】全体では、「パスワード長を一定以上に定める」が 75.4% で最も多く、次いで「異動等で使用しなくなった ID はすぐに削除する」が 69.4%、「ID を複数ユーザーで使わせない」が 60.0% で多くなっている。一方、「行っていない」は 3.0% であった。  
 ※本項目は、インターネット接続を行う際に ID・パスワード認証を利用している社・団体等を対象としている。



図表 1-14 情報セキュリティ初心者のための三原則

- 原則 1 ソフトウェアの更新
- 原則 2 ウイルス対策ソフトの導入  
(ウイルス対策サービス)
- 原則 3 ID とパスワードの適切な管理

コンピュータやインターネットを安心して利用するには、「情報セキュリティ対策」が不可欠です。インターネットに関する脅威が多様化する中で、さまざまな情報セキュリティ対策が必要となっていますが、まずは『情報セキュリティ初心者のための3原則』として、「ソフトウェアの更新」、「ウイルス対策ソフト（ウイルス対策サービス）の導入」、「ID やパスワードの適切な管理」の3つを心がけるようにしてください。

〈総務省（2007）「国民のための情報セキュリティサイト」をもとに作成〉

### 1.3 児童生徒を取り巻く ICT の現状を受けて

2013 年度の文部科学省委託事業「情報化の進展に伴う新たな課題に対応した指導の充実に関する調査研究」（以下〔先の調査研究〕）においては、先行研究や事業者ヒアリング調査等から判明した、児童生徒の ICT の利用実態やトラブルの実態等を参考に、情報モラル教育のための教材作成を行った。また、先の調査研究では、研究協力校を対象とした実態調査（6 種類のアンケート調査）を実施し、例えば、児童生徒がインターネットにアクセスする ICT 機器として、小学生段階ではゲーム機が中心となっているのに対して、中高生ではスマートフォンが中心となっていることや、中学 1 年生と 2～3 年生では利用実態等に差異が大きいことなどを把握し、教材作成を進めた。

今回、先の調査研究の中で実施した実態調査で明らかになった保護者啓発の重要性を手引書（本書）に反映させるとともに、教員対象調査で明らかになった課題に鑑み、様々な活用が可能な教材の作成を心がけた。

これらの調査研究の成果とその後の総務省や内閣府の青少年のインターネット利用に関する調査結果を踏まえ以下の 4 つの事項が明確になった。

- 1 児童生徒がインターネットにアクセスする ICT 機器としては、小学生段階ではゲーム機が中心となっているのに対し、中学生、高校生段階では、スマートフォンが中心になっている。
- 2 中学 1 年生と中学 2・3 年生の間で、利用実態等に関する差異が大きい。インターネットによって利用されるサービスについても、小学生と中学生の間で差異がある。
- 3 面識のない利用者同士が無料通話アプリの ID を交換することにより交流するコミュニティサイトを利用した被害が増大している。
- 4 家庭でのルールについては、特に利用時間に関して中学 1 年生と中学 2・3 年生の間で差異が大きい。

上記の事項を踏まえて、今回の教材作成の視点として、以下の事項に配慮した。

- 1 小学生に理解しやすいようにゲーム機を中心にした、ネット依存やコミュニケーショントラブルを事例として盛り込んでいる。ただし、中学生も使用する教材であること、小学校高学年になると個人のスマートフォン等を所有する可能性が高くなるため、スマートフォンを活用した事例も盛り込んでいる。
- 2 インターネットサービスについても、多様なサービスが利用されているため、教材のバリエーションを持たせている。インスタントメッセージによるトラブル、ソーシャルメディアによるトラブル、その他一般的なインターネットトラブルを盛り込み、児童生徒の実態に合わせて活用することができる。
- 3 セキュリティ対策により被害を未然に防ぐことができることなどを身近な事例から分かりやすく解説している。自己防衛することの大切さを理解することとその方法をイラスト等で分かりやすくする工夫をしている。
- 4 インターネットの危険から児童生徒を守るために家庭での話し合いとルール作り等が必要である。このことを保護者に知ってもらうことを目的に、学校で学んだことを児童生徒と保護者が共有する工夫をしている。

<注> 情報化の進展に伴う新たな課題に対応した指導の充実に関する調査研究委員会では、平成 25 年 10～11 月に、全国 9 校の研究協力校を対象に、児童生徒・保護者に対するアンケート調査(自記式質問紙留置法・無記名式)を実施し、小学校 4 校(3 年生以上)・中学校 3 校・高等学校 2 校の計 965 組から回答を得た。

研究協力校の抽出にあたっては無作為性を担保しておらず、全国的な傾向を示す調査結果ではない点に注意が必要である。

## 参考文献

- 大井田隆ほか(2013)「未成年の喫煙・飲酒状況に関する実態調査」
- 警察庁(2015)「コミュニティサイトに起因する事犯の被害児童の状況」
- 警察庁(2015)「不正アクセス行為対策等の実態調査報告書」
- 総務省(2007)「国民のための情報セキュリティサイト」
- 総務省(2013)「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」
- 総務省(2015)「平成 26 年通信利用動向調査」
- 内閣府(2015)「平成 26 年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書」
- 文部科学省(2013) 文部科学省委託事業「情報化の進展に伴う新たな課題に対応した指導の充実に関する調査研究」

# 2. 情報モラル教育の必要性

## — 新たな課題に対する迅速な対応 —

### 2.1 情報モラル教育の考え方

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領解説総則編及び道徳編において、「情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度」のことを「情報モラル」としている。具体的には、「他者への影響を考え、人権、知的財産権等自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと」をはじめ、「危険回避等情報を正しく安全に利用できること」や「コンピュータ等の情報機器の使用による健康とのかかわりを理解すること」などの多岐にわたった狙いを含んでいる。そして、これらの内容を正しく理解し適切に遂行できるようになるためには、情報社会や情報通信ネットワークの特性や影響を考え、円滑なコミュニケーションや人間関係の構築等の場面で活用する情報手段を適切に使うための判断力や態度を身に付けることが必要になってくる。

一方、情報社会では携帯電話やスマートフォン等の ICT 機器の所有率の増加とともにインターネットの利用拡大が確実に進んでいる。これらの環境の変化は児童生徒にも影響し、その所有率の増加等によって一般社会が抱える問題だけでなく未成年者である児童生徒特有の問題も増加している。

その1つがいわゆるネット依存である。平成 26 年度通信利用動向調査（総務省）(p.9, 図表 1-3) の結果では、小学生に相当する 6～12 歳で約 72%、中高生以上に相当する 13～19 歳で約 98% が日常的にインターネットを利用しており、携帯電話やスマートフォン、ゲーム機、携帯音楽プレイヤー等、コンピュータ以外の多様な携帯端末を利用している実態がある。その多くの児童生徒がインターネットの長時間利用を自覚しており、学年進行とともにその自覚が高まる傾向があるため、小学生段階からのネット依存回避の啓発教育が必要である。

このことと並行して増加しているのが SNS や無料通話アプリの利用の増加である。特に中高生の間では、スマートフォンを利用したこれらのコミュニケーションツールの利用が増大し、平成 26 年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書の結果では、スマートフォンでの利用項目で中学生の約 85.5%、高校生の約 92.8% がメール、メッセージ、ソーシャルメディア等のコミュニケーションツールを利用し、インターネットにつながることを日常的な営みとしている傾向を示している。また、コミュニケーションにまつわるトラブル経験等もあり、発達の段階や利用実態に応じた指導が求められている。

このように社会の変化に対応した指導では、その技術やサービスを安全に利用するための指導が必要となる。これは、情報社会の特性や仕組みが分からない児童生徒に対する、喫緊の対応策としての安全指導の側面である。一方で、「モラル」を新しい技術やサービスに対して適切に判断して利用する基礎となる力として捉えることも重要である。ネット依存に陥らないための約束事やトラブルにならないための SNS 利用の決まりなどを伝える場合、その決まりを考える過程の話合いや判断基準を考え抜くことを通して基礎となる力を養うことが必要となってくる。今後起こりうる新たな危険や問題に対して適切な判断ができるようになる指導が求められる。

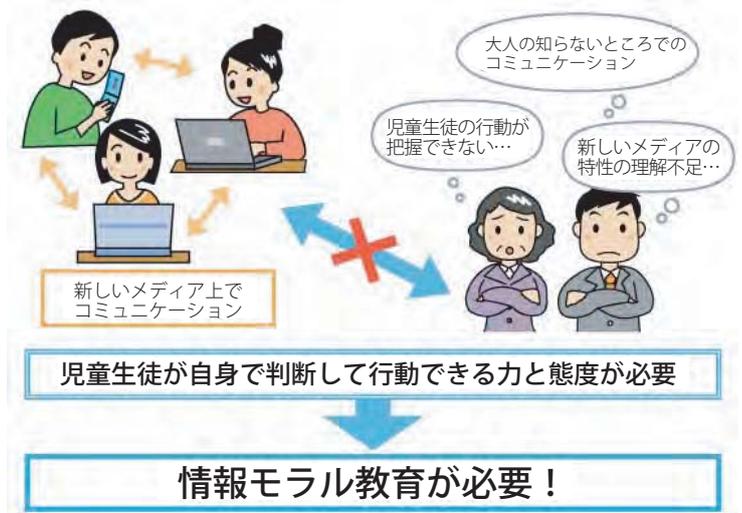
### 2.2 新たな課題への対応

情報社会の特徴として、誰もが情報の受け手だけでなく送り手としての役割を担うようになったことが挙げられる。しかも、ネットワークを介して瞬時に情報が世界中に伝達され、予想しない影響や誤解を生じる可能性がある。これまでの対面式のコミュニケーションでは考えられなかったようなトラブルも少なくない。前述した「ネット依存」や「SNS でのトラブル」をはじめ、ネット詐欺・不正請求等の「ネット被害」、ID やパスワードの管理やコンピュータウイルスによる被害等に対する「情報セキュリティ」に関する問題も児童生徒の間で起こっている。日常生活では、1 対 1 で時間をかけて理解し解決していくことが、インターネットでは不特定多数の人が納得できるような情報を発信しなければならない場合や即断が求められる場合があることなど「適切なコ

コミュニケーション」がとれない場合のトラブルも少なくない。対面のコミュニケーションでは考えられないような誤解が生じる可能性もある。しかし、多くの児童生徒はこれらの危険性や特性に対して無防備で理解不足のため、目前に迫っていることに気付かず利用しトラブルに巻き込まれるケースも少なくない。

そこで、安全教育の面から危険を回避するための知恵とともに、情報社会の特性や仕組みを理解し、主体的に判断する力を養うことが求められている。特に主体的な判断力を育成するには、発達段階に応じた体系的な指導が求められている。

図表 2-1 「主体的に判断できる力の育成」  
 〈「教育の情報化に関する手引」より〉



## 2.3 情報モラル指導モデルカリキュラムの活用

体系的な指導を行うための参考資料として用いられているものに、平成 18 年度の文部科学省委託事業「情報モラル等指導サポート事業」において作成・公表された「情報モラル指導モデルカリキュラム」(22～23 ページ)がある。ここでは、情報モラル教育を「情報社会の倫理」「法の理解と遵守」「安全への知恵」「情報セキュリティ」「公共的なネットワーク社会の構築」の 5 つに分類し、小学校低学年、中学年、高学年、中学校、高等学校の 5 つの発達段階に応じた指導目標を示している。平成 22 年 10 月に公表された「教育の情報化に関する手引」ではこのカリキュラムについて次のように解説している。

「情報社会の倫理」と「法の理解と遵守」は、日常生活におけるモラル指導の延長線上にあり、主に「他者への影響を考え、人権、知的財産権等自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと」(小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領解説 総則編)に対応しています。(中略)

安全教育に関わる「安全への知恵」と「情報セキュリティ」は、主に「危険回避等情報を正しく安全に利用できること」、「コンピュータ等の情報機器の使用による健康とのかかわりを理解すること」(小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領解説 総則編)に対応しています。(中略)

これらの健全な心と社会のルールを理解、安全に活用する知恵の育成を前提に、「公共的なネットワーク社会の構築」へ積極的に参画する態度を育成するようなカリキュラム構成になっています。

上記の内容を踏まえて、学校教育において情報モラル教育に体系的に取り組む必要があり、児童生徒の心の発達段階や知識の習得、理解の度合いに応じた適切な指導が大切である。22～23 ページに示すこのモデルカリキュラム表を参考にしながら、地域や学校の実態に応じて系統的なカリキュラムを作成することが必要であり、学校全体で教員がその内容を共通理解して指導することが必要である。そのため、校種に関わらず、それぞれの学校で情報教育の年間指導計画の中に情報モラル教育の項目を設定し、指導事項や指導内容を位置付けるなどの工夫が必要となる。

# 3. 教材と情報モラル指導モデルカリキュラムや教科等との関連

		情報モラル指導モデルカリキュラムとの対応																															
		小学校高学年										中学校																					
領域	教材番号	教材名	a3-1	b3-1	c3-1	c3-2	c3-3	d3-1	d3-2	e3-1	e3-2	f3-1	f3-2	g3-1	h3-1	i3-1	a4-1	b4-1	b4-2	c4-1	c4-2	c4-3	d4-1	d4-2	e4-1	e4-2	f4-1	f4-2	g4-1	h4-1	i4-1		
			他人や社会への影響を考えて行動する	情報にも、自他の権利があることを知り、尊重する	何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない	「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する	契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わない	予測される危険の内容がわかり、避ける	不適切な情報であるものを認識し、対応できる	情報の正確さを判断する方法を知る	自他の個人情報、第三者にもらさない	健康を害するような行動を自制する	人の安全を脅かす行為を行わない	不正使用や不正アクセスされないように利用できる	情報の破壊や流出を守る方法を知る	ネットワークは共用のものであるという意識を持つ	ネットワークは共用のものであるという意識を持つ	個人の人権（人格権、肖像権など）を尊重する	著作権などの知的財産権を尊重する	違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る	契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する	安全性の面から、情報社会の特性を理解する	トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る	情報の信頼性を吟味できる	自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる	健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	情報セキュリティの基礎的な知識を身につける	基礎的なセキュリティ対策が立てられる	ネットワークの公共性を意識して行動する		
ネット依存	1	ネットゲームに夢中になると…										○																					
	2	身近にひそむネット依存																															
ネット被害	3	そのページ、確認しなくて大丈夫？	○				○	○									○			○			○	○									
	4	ネット詐欺等に巻き込まれないようにするために																				○	○	○	○			○					
	5	軽い気持ちのID交換から…							○	○		○											○	○	○	○							
	6	写真や動画が流出する怖さを知ろう																	○		○	○	○	○									
SNS等のトラブル	7	ひとりよがりの使い方にならないように	○									○	○				○									○	○						
	8	情報の記録性、公開性の重大さ															○	○		○	○					○							
	9	SNSへの書き込みの影響	○	○	○	○		○									○	○		○	○		○										
	10	軽はずみなSNSへの投稿															○			○												○	
情報セキュリティ	11	パスワードについて考えよう	○								○					○	○									○			○	○			
	12	大切な情報を守るために																										○	○				
適切なコミュニケーション	13	うまく伝わったかな？	○														○																
	14	コミュニケーションの取り方を見直そう															○															○	



# [参考] 情報モラル指導モデルカリキュラム

(平成18年度文部科学省委託事業『「情報モラル」指導実践キックオフガイド』より)

## 〈大目標・中目標レベル〉

分類	L1: 小学校1～2年	L2: 小学校3～4年	L3: 小学校5～6年
1. 情報社会の倫理	a1～3: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ		
	a1-1: 約束や決まりを守る	a2-1: 相手への影響を考えて行動する	a3-1: 他人や社会への影響を考えて行動する
	b1～3: 情報に関する自分や他者の権利を尊重する		
	b1-1: 人の作ったものを大切に する心をもつ	b2-1: 自分の情報や他人の情報 を大切にする	b3-1: 情報にも、自他の権利がある ことを知り、尊重する
2. 法の理解と遵守	c2～3: 情報社会でのルール・マナーを遵守できる		
		c2-1: 情報の発信や情報をやりとりする 場合のルール・マナーを知り、守る	c3-1: 何がルール・マナーに反する行 為かを知り、絶対に行わない
			c3-2: 「ルールや決まりを守る」というこ との社会的意味を知り、尊重する
			c3-3: 契約行為の意味を知り、勝 手な判断で行わない
3. 安全への知恵	d1～3: 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる		
	d1-1: 大人と一緒に使い、危険 に近づかない	d2-1: 危険に出合ったときは、大人に 意見を求め、適切に対応する	d3-1: 予測される危険の内容が わかり、避ける
	d1-2: 不適切な情報に出合わな い環境で利用する	d2-2: 不適切な情報に出合った ときは、大人に意見を求 め、適切に対応する	d3-2: 不適切な情報であるもの を認識し、対応できる
	e1～3: 情報を正しく安全に利用することに努める		
		e2-1: 情報には誤ったものもあ ることに気づく	e3-1: 情報の正確さを判断する 方法を知る
	e1-2: 知らない人に、連絡先を 教えない	e2-2: 個人の情報は、他人にも らさない	e3-2: 自他の個人情報を、第三 者にもらさない
	f1～3: 安全や健康を害するような行動を抑制できる		
	f1-1: 決められた利用の時間や 約束を守る	f2-1: 健康のために利用時間を 決め守る	f3-1: 健康を害するような行動 を自制する
		f3-2: 人の安全を脅かす行為を 行わない	
4. 情報セキュリティ	g2～3: 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る		
		g2-1: 認証の重要性を理解し、 正しく利用できる	g3-1: 不正使用や不正アクセスさ れないように利用できる
			h3: 情報セキュリティの確保の ために、対策・対応がとれる
		h3-1: 情報の破壊や流出を守る 方法を知る	
5. 公共的なネットワーク社会の構築	i2～3: 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ		
		i2-1: 協力し合ってネットワー クを使う	i3-1: ネットワークは共用のもので あるという意識を持って使う

※コードについて (例, a1-1)

【1桁目の文字】  
a～i: 大目標項目

【2桁目の数字】

校種・学年 (L1～L5)  
1: L1 (小学校低学年: 1～2年生)  
2: L2 (小学校中学年: 3～4年生)

3: L3 (小学校高学年: 5～6年生)  
4: L4 (中学校 (高等学校を含む場合もある))  
5: L5 (高等学校)

この表は、情報モラルの指導カリキュラムの内容を小中高一貫のモデルカリキュラムとして示したものです。このモデルカリキュラムの目標は、学校教育全体の中で達成していくことが望ましく、本モデルカリキュラムを参考にして、それぞれの学校では、地域の実情に合わせ、情報モラルのカリキュラムを組み立て、実施してください。各目標の詳細は、Webページをご覧ください。<http://jnk4.info/www/moral-guidebook-2007/>

L4: 中学校		L5: 高等学校	
a4~5: 情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす			
a4-1: 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する	a5-1: 情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす		
b4~5: 情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する			
b4-1: 個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する	b5-1: 個人の権利(人格権、肖像権など)を理解し、尊重する		
b4-2: 著作権などの知的財産権を尊重する	b5-2: 著作権などの知的財産権を理解し、尊重する		
c4: 社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを知る		c5: 情報に関する法律の内容を理解し、遵守する	
c4-1: 違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	c5-1: 情報に関する法律の内容を積極的に理解し、適切に行動する		
c4-2: 情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る	c5-2: 情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する		
c4-3: 契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する	c5-3: 契約の内容を正確に把握し、適切に行動する		
d4~5: 危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する			
d4-1: 安全性の面から、情報社会の特性を理解する	d5-1: 情報社会の特性を意識しながら行動する		
d4-2: トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る	d5-2: トラブルに遭遇したとき、さまざまな方法で解決できる知識と技術を持つ		
e4~5: 情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける			
e4-1: 情報の信頼性を吟味できる	e5-1: 情報の信頼性を吟味し、適切に対応できる		
e4-2: 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる	e5-2: 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる		
f4~5: 自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる			
f4-1: 健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	f5-1: 健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる		
f4-2: 自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	f5-2: 自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる		
g4~5: 情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける			
g4-1: 情報セキュリティの基礎的な知識を身につける	g5-1: 情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる		
h4~5: 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる			
h4-1: 基礎的なセキュリティ対策が立てられる	h5-1: 情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる		
i4~5: 情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる			
i4-1: ネットワークの公共性を意識して行動する	i5-1: ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する		



【3桁目の数字(ハイフンの後の数字)】  
大目標項目内の一連番号

たとえば、コードa1-1は次を表す。  
大目標項目a1: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ(小学校1~2年生)  
中目標項目a1-1: 約束や決まりを守る(小学校1~2年生大目標項目a1の1番目の中項目)

# 4. 情報モラル教育の進め方

## 4.1 問題の本質

情報モラル教育の必要性は理解できても、「様々な問題があり過ぎて、どこから手を付けて良いか分からない」、「技術がどんどん進化していくので、それについていけない」など、指導する内容に自信が持てず、すぐに取り掛かれない場合がある。しかし、ネット依存、コミュニケーションのトラブル、ネット被害等問題の多くは、技術やサービス内容が進化して様々な問題を抱えているように見えるが、その本質はほとんど変化していないことが種々の研究で明らかになってきている。例えば、インターネット上のコミュニケーションのトラブルの原因のひとつが相手の理解不足であることや、ネットに依存する背景や構造がそれほど変化していないことなど、それぞれの本質を理解すれば情報モラル教育を適切に進めることができるようになる。情報モラルの大半が日常モラルであることを理解させ、それに情報技術の基本的な特性を理解させることで問題の本質を見抜いて主体的に解決できる力を身につけさせることが重要だといえる。

**情報モラル = 日常モラル + 情報技術の特性の理解**

そこで、その要因を整理すると、大きく次の3つの視点に整理できる。

- ①（インターネットやゲーム等に）依存する。
- ②相手とのやり取りで問題を起こす。
- ③自分が被害に遭う。

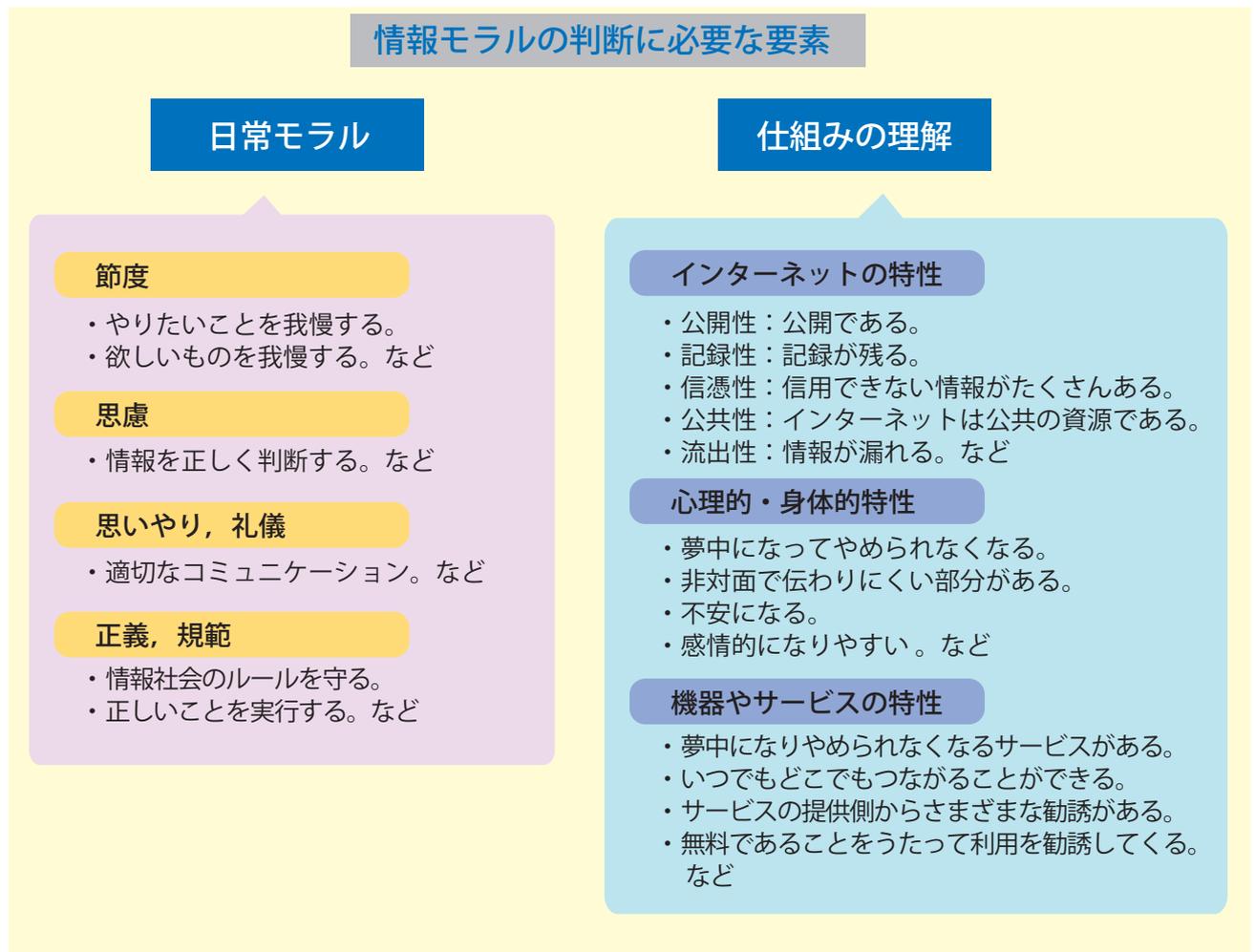
実態調査等を踏まえて児童生徒が抱えているこの3つの問題を明らかにし、どの視点で指導するかを考えて取り組むことが必要である。

情報モラルについては、複雑で多様な問題があるように見えるが、その要因を整理すると、全ての問題は以上の3つの視点で分類できる。児童生徒に対して、今、どの視点により指導する必要があるかということを考えて取り組むことが必要である。

## 4.2 何を教えなければならないか

具体的に情報モラルの指導では、「日常モラルを育てる」「仕組みを理解させる」「日常モラルと仕組みを組み合わせて考えさせる」という3つの視点が必要となる。これは、情報社会が進展しても恐らく不変の構造だと考えられる。仕組みについても、情報技術が進展しても変化しない不易な部分と、情報技術の進展によって変化する部分がある。何が不易であり、何が変化するものなのかという構造を理解し、これまで指導してきた内容と関連付けてことが必要である。

図表 4-1 情報モラルの判断に必要な要素



### (1) 日常モラル

「日常モラル」については、情報モラルの判断に必要不可欠となる道德目標を指導する必要がある。自分がやりたいことや欲しいものを我慢できるかという「節度」、多くの情報について正しいかどうかを判断するための「思慮」、人とコミュニケーションをとるために必要となる「思いやり」や「礼儀」、情報社会の一員としてルールを守り、正しいことを実行するための「正義」や「規範」が重要となる。

### (2) 仕組みの理解

情報モラルについて適切な判断を行うためには、日常モラルを育てることに加えて「インターネットの特性」、「心理的・身体的特性」、「機器やサービスの特徴」といった、仕組みの理解を簡単しておく必要がある。これらについては、専門的な知識を教え込む必要はなく、児童生徒の発達の段階に応じて理解させることが重要である。

## ●インターネットの特性

インターネットには、「公開性」「記録性」「信憑性」「公共性」「流出性」等の特性があり、これらを児童生徒の発達段階に応じて理解を深めさせることで、これまでに発生している様々な事件やトラブルの本質を捉えさせることが必要である。

**「公開性」**について、インターネット上での書き込みは、基本的には広く公開、あるいは公開される可能性があり、世界中の誰からでも見られる可能性があるのだという感覚を持たせることが大切である。友達同士だけでのやり取りだと思って公開のサービスに不適切な写真や情報を掲載して起こるトラブルや、閉じられたサービスだと思って発信した情報が公開のサービスに転送されるというトラブルが頻発している。

したがって、インターネット上での書き込みは、どんなサービスであっても公開される可能性があるのだという感覚を持たせると同時に、著作権・肖像権を守って発信しなければならないという意識も持たせなければならない。

**「記録性」**について、一度発信した情報は、取り戻せないことが多く、必ずどこかに記録が残ってしまうことを理解させることが必要である。名前を書かない場合も誰が発信したかという記録が必ず残ってしまう仕組みもある。

インターネット上の過去の書き込みを調べることは容易なので、進学や就職等自分の将来を決める重要な場面で、人物評価のために自分の過去の書き込みまで遡って調べられる可能性があることを理解させる必要がある。

**「信憑性」**について、インターネット上には誰でも情報を発信できるので、信用できない情報も多く、情報を取得する際には正しいかどうかを必ず確かめなければならないという感覚を身に付けさせることが重要である。コミュニケーションを行う相手個人の確認方法だけでなく、セキュリティの意味から信頼できるサイトであることの確認方法を身につけさせることも必要である。

**「公共性」**では、情報をやり取りする費用は発信者だけではなく、受信者も負担しなければならないため、相手にとって必要のない情報を大量に送りつけることは迷惑であること、インターネットは公共の資源なので、無駄な情報を大量に送受信することは資源の無駄遣いになることを理解させることが必要である。

**「流出性」**は最も危険で、接続しただけで、自分のコンピュータに侵入されることや、情報を取り出されるような危険な仕組みがあるため、信用できないサイトには接続しないことを理解させておく必要がある。

### ●心理的・身体的特性

メディアを介したコミュニケーションの特性は、時代が変わっても大きく変化せず利用されてきた。直接顔を合わせていないので、対面では言えないようなことが言え、文字でのやり取りが中心になるため真意が伝わりにくく、誤解が生じ感情的になりやすいというような特性がある。また、相手の状況が分からないために起こる誤解や受け取る状況や場面によって同じ情報でも感じ方や捉え方が違う場合がある。相手を思いやってコミュニケーションをとることが重要であるが、「どんなに気を遣っても必ず誤解やトラブルは生じる可能性がある」ということをしっかり教えておく必要がある。

### ●機器やサービスの特徴

情報技術の進展によって機器やサービスは変化している。夢中になりやめられなくなるサービスが大量に提供されており、使い始めるとなかなかやめられなくなり依存になる可能性があることを理解させなければならない。また、企業側からサービスを使うように様々な勧誘があること、「無料には必ず何か理由がある」ということをしっかり考え、サービスを利用するかどうかを検討しなければならないということを教えておく必要がある。

## 4.3 判断力を育てるためには

情報モラル教育は、日常モラルを育てながら、最小限の仕組みを理解させ、それらを組み合わせて主体的に考えさせることが重要である。図表 4-1 で示した構造があることを児童生徒が理解できると、いろいろな問題に直面した際に児童生徒自身で適切な判断ができるようになる。ある問題事例を取り上げ、図表 4-1 を参照しながら、日常モラルのどこに問題があったのか、仕組みについてどの特性と関連しているのかを考えさせ、自分だったらどう行動するかを判断させながら指導してほしい。

情報モラル教育は、情報機器を使い始める前後の指導が非常に重要になる。児童生徒の家庭によって、情報機器を持たせる時期は異なるため、全ての児童生徒に適切な時期に実施するのは困難だと思われる。しかし、できるだけ児童生徒の状況に即した情報モラル教育を実施するために家庭と連携しながら、学校全体で繰り返し取り組むことが重要である。

### 参考文献

玉田和恵・松田稔樹 (2004) 「3種の知識」による情報モラル指導法の開発. 日本教育工学雑誌, 28-2 : 79-88

玉田和恵・松田稔樹 (2008)

小学校段階における体系的・系統的情報モラル教育～3種の知識に基づく情報モラル指導法との一貫性を考慮して.  
日本教育工学会研究会報告集, JET08-5, 109-116

玉田和恵・松田稔樹 (2014) 教師が修得すべき情報モラル指導内容の検討, 江戸川大学情報教育研究所紀要【Informatio】, 11, 9-15

# 5. 情報モラル指導モデル教材

## 5.1 モデル教材の概要

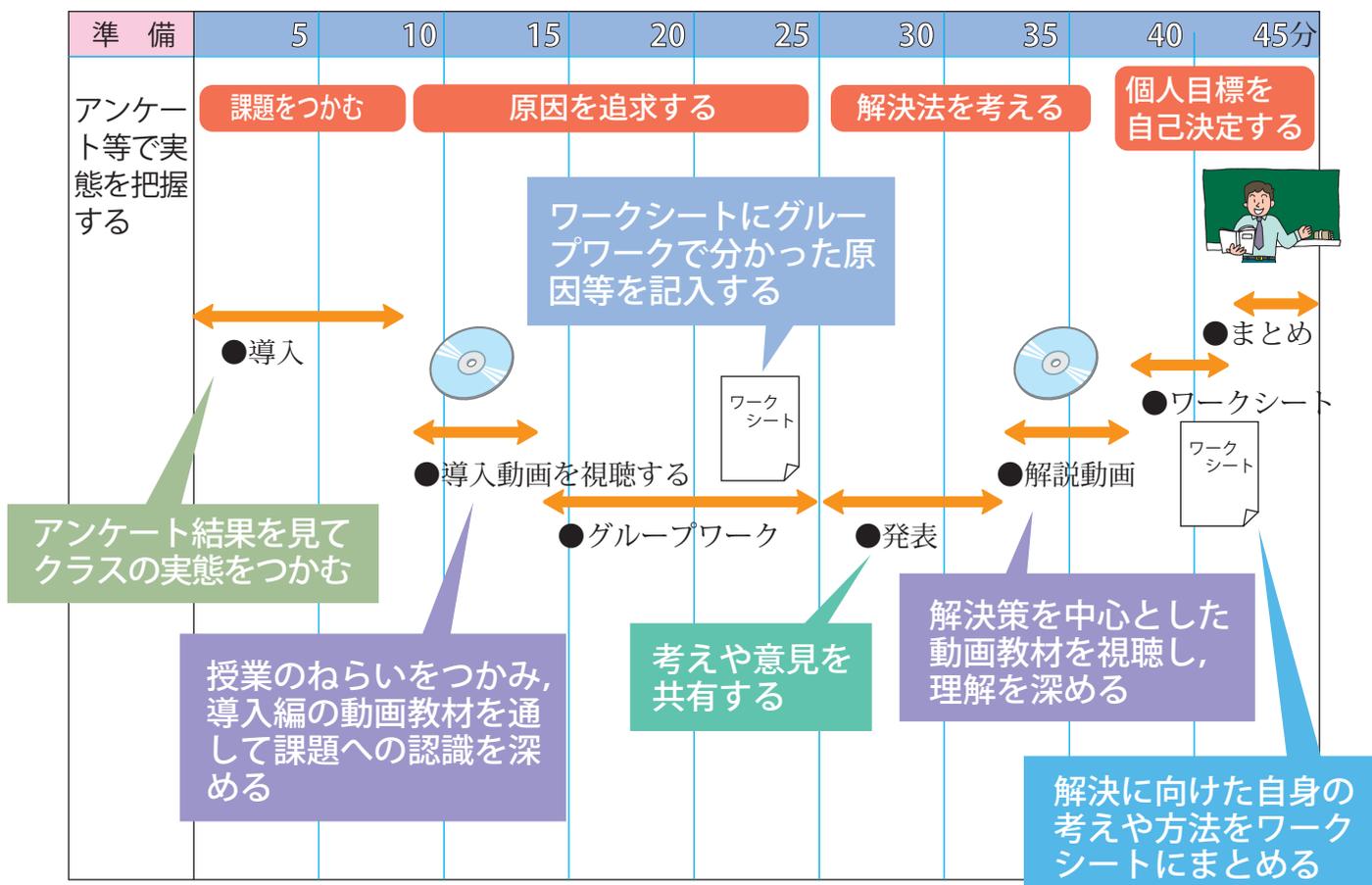
今回の情報モラル指導モデル教材は、14の動画教材それぞれに対して次の6つの項目から構成されている。

- ①動画教材を使うに当たって
- ②モデル指導案
- ③アンケート
- ④ワークシート
- ⑤シナリオ・スライド (⇒ 34～47 ページ)
- ⑥動画教材 (DVD-ROM で用意されている)

図表 5-1 教材を活用した授業の流れ (イメージ)。小学校の場合

教材を活用した授業の流れ (1コマ 45分を想定。中学・高等学校の場合は50分に勘案)

事前準備：アンケート結果の資料，動画教材を視聴できる環境，ワークシート，グループ分け等



今回の教材を使用した授業の形態は、基本的に、児童生徒自身に問題点や解決方法を考えさせるための授業の展開を基本にしている。情報モラル及びインターネットに関連するトラブル等について、児童生徒に問題点を気付かせ、その解決方法について思考させることを支援できるような教材になっており、共同学習を導入しやすい教材である。

具体的には、これらの教材を使用した授業では、最初に問題を提起するために、導入動画（問題発生までのストーリー）を視聴させる。その後、学級やグループによるディスカッションや発表等をしながら学びを深め、児童生徒に主体性を持たせながら、問題を理解し、掘り下げさせる。

続いて、課題への対応方法及び予防方法についての理解を深めるために、解説動画を視聴する。児童生徒自身に考えさせ、問題を起こさないためにはどんなことに注意・留意すればいいかをクラス全体で共有させる。

教材を活用した授業の流れを図表 5-1 に示した。

⑥**動画教材**は、児童生徒の発達段階及び ICT 機器の所有及び利用状況を考慮して「小学校 5 年生から中学校 1 年生まで」、「中学校 2 年生から高等学校 3 年生」までの 2 段階にしている。【図表 5-2】

図表 5-2 5つのテーマに対応した発達段階ごとの動画教材

テーマ（課題）	教材番号	教材タイトル	小学校		中学校			高等学校		
			5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
ネット依存	教材1	ネットゲームに夢中になると…								
	教材2	身近にひそむネット依存								
ネット被害	教材3	そのページ、確認しなくて大丈夫？								
	教材4	ネット詐欺などに巻き込まれないようにするために								
	教材5	軽い気持ちのID交換から…								
	教材6	写真や動画が流出する怖さを知ろう								
SNS等のトラブル	教材7	ひとりよがりの使い方にならないように								
	教材8	情報の記録性、公開性の重大さ								
	教材9	SNSへの書込みの影響								
	教材10	軽はずみなSNSへの投稿								
情報セキュリティ	教材11	パスワードについて考えよう								
	教材12	大切な情報を守るために								
適切なコミュニケーション	教材13	うまく伝わったかな？								
	教材14	コミュニケーションの取り方を見直そう								

⑥**動画教材**は授業が行いやすいように、「導入動画」と「解説動画」で構成され、それぞれにキーポイントとなる事項が盛り込まれ、動画の一部分を切り出して使用できるようにしている。

例えば、教材 13 及び教材 14 は、適切なコミュニケーションを考える教材であるが、「導入動画」の課題提示の一部分を使用して、道徳として課題を考えさせたり、特別活動で考えさせたりすることで、コミュニケーションの在り方を考えていくことを深めさせることができる。

また、「導入動画」では、メディア教材の利点を生かし、問題発生までの流れを実写で把握させ児童生徒自身が、「何が問題だったのか」、「心の動きはどうだったのか」などを捉えられるように、考えさせる設計になっている。「解説動画」では、そのような課題への対応方法及び予防方法について、情報技術の特性の視点から、理解を深めていく内容となっている。

①**教材の解説**は、本教材を取り扱うためのポイントとなる事項をまとめている。ここだけは押さえてほしいことをまとめているので、授業づくりの参考にしてほしい。

②**モデル指導案**に記載されている使い方や取扱い教科以外で使いたい場合なども、他の教科で応用・展開する上でのポイントが役立つようになっている。様々な教科領域で、本教材を活用して情報モラルの意識をはぐくんでいくようにしてほしい。

教材には③**アンケート**も④**ワークシート**も掲載している。②**モデル指導案**の授業を実施するためのアンケートとワークシートである。授業実施学級や児童生徒のレディネスや発達段階に合わせて、改変して活用してほしい。

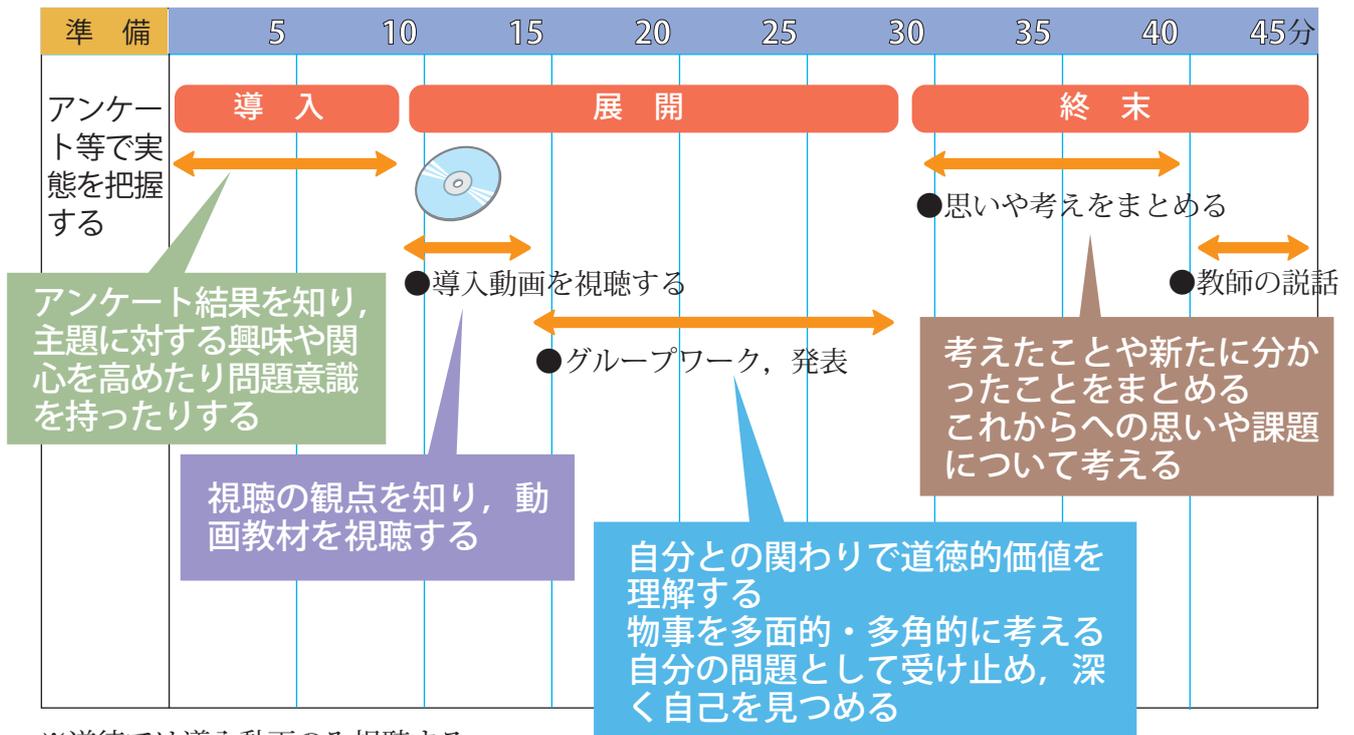
## 5.2 道徳での活用

道徳教育は、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としており、学校の教育活動全体を通して行うものである。そして、その要となるものが道徳であることから、情報モラル教育の全てを道徳で行おうとするのではなく、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを目標とした情報モラル教育となるよう配慮しなければならない。

そのため、本資料では、児童生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えることのできる教材として⑥**動画教材**の「導入動画」を用い、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深めることができるよう、図表 5-3 のような指導の流れを基本として指導案を検討した。

図表 5-3 教材を活用した授業の流れ（イメージ）  
（小学校では1コマ45分、中学校では50分を想定）

事前準備：アンケート結果の資料、動画教材視聴環境、ワークシート、グループ分け等



道徳で授業を実施する前に、アンケート等を実施すると良い。各モデル指導案には、アンケートの例を掲載している。授業を実施する前に、アンケートで児童生徒の実態を把握し、導入の段階でその結果を示すことで、目標とする道徳性に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味や関心をもたせたりすることが期待できる。また、例えば、携帯電話等を持たず、操作した体験がない児童生徒は、その操作感や利便性等がわからないことも多いことから、把握した実態に基づき追加の説明を行うなど、指導方法を検討する際にも活用できる。なお、掲載しているアンケートの内容は例であり、児童生徒のレディネスや発達の段階等に合わせて変更することも考えられる。

授業の展開で「導入動画」を視聴させる場合は、登場人物の立場に立って道徳的価値を理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりできるよう、「主人公の気持ちを考えながら見ましょう」といった視聴の観点を事前に伝えておくなどの配慮が必要である。

そして、「導入動画」を視聴した後は、児童生徒が考えを深めたり、広げたりすることができるよう、自分の考えをワークシートに記入した上で、それを基にグループ内で話し合ったり、全体で発表したりするといった活動等を取り入れることが大切である。

また、終末では、児童生徒が自己の生き方や人間の生き方について更に新しい見方や考え方を生み出していくことができるよう、自らの考えを多面的・多角的な視点から振り返る場面を設定するとともに、今後の生活において実践していこうとする意欲と態度につながる説話を行うことが重要となる。

なお、例えば、SNSでの様々なトラブル等、情報モラルに関わる問題の解決について考える際には、相手を思いやる気持ちとともに、インターネットの特性やSNSの仕組み等に関する知識がないと適切な判断ができない。一方で、インターネットの特性などの情報技術に関する知識は道徳の目標には含まれておらず、これらについて時間をとって指導することは道徳の授業として不適切である。本資料でもインターネットの特性や仕組み等を解説している⑥**動画教材**の「解説動画」を視聴することは想定していない。

このような問題を解消するには、適切な判断をするために必要な知識等を身に付けることができる教科等の学習後に道徳の授業を行うなど、道徳と他の教科等との連携に配慮した年間指導計画を作成するなどの工夫が必要である。

(このような年間指導計画に基づき授業を行ったことで、道徳の授業で児童生徒が他の教科等で学んだ内容を基にした発言をするなど、教科等と道徳の間で児童生徒の意識が連続し、自らの生き方をより深く考えることができているという実践が報告されている。)

なお、平成27年3月27日に改正された学校教育法施行規則において「道徳」が「特別の教科である道徳」となるとともに、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領等の一部改正の告示が公示された。改正された学習指導要領の施行は小学校では平成30年4月1日であるが、平成27年4月1日から移行措置として、その一部又は全部を実施することが可能となっている。本教材は施行前に作成されたものであり、モデル指導案では告示前の表記としたが、「特別の教科である道徳」としても利用できるよう留意して作成した。

## 5.3 モデル指導案の見方

### (1) 動画教材を使うに当たって

#### 教材のねらい

社会的な背景や児童生徒の現状等を踏まえ、本教材で理解させる内容や養う態度を記述している。

#### 指導観

本教材を利用して指導したい事項、指導者から見た教材に対する考え方等について、押さえるべきインターネットの特性や事前調査等を踏まえて出現する内容を記述している。

#### 指導時のポイント・留意点

児童生徒の発達段階や事前調査の実態に応じて変化する指導内容、指導上配慮する点等について記述している。

#### 動画教材視聴のポイント

動画を視聴させる上で事前に伝える内容や注視させたい事項、視聴させながら考えさせたいこと、メモを取らせる内容等について記述している。

#### 取扱い教科等

該当する動画教材に適している教科等を「①主たる取扱い教科等」とし、動画教材の内容を利用して指導することが可能な場面等を含む教科等を「② ①以外の教科等での取扱い」としている。それぞれ、教科等の名称と該当する学習指導要領の指導内容等を列挙している。

#### 情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応

本モデル指導案に従って指導する上で必要となる「情報モラル指導モデルカリキュラム」(22～23 ページ)に該当する中目標の項目の記号 (f3-1 等) と内容を明記している。

なお、動画教材を利用して指導する上で必要となる「情報モラル指導モデルカリキュラム」表に対応する全中目標については、20～21 ページの「教材と情報モラル指導モデルカリキュラムや教科等との関連」表に整理している。主たる取扱い教科等で指導する場合には、後者の表を参考に目標設定を行うことができる。

### (2) モデル指導案

#### 本時の目標

「教材のねらい」に示されている内容をもとに、「モデル指導案」で実施される「教科等」の目標を記述している。

#### 授業実施前の準備・事前指導

児童生徒の実態を把握するための事前アンケートの項目や集計方法、掲示物の内容等について明記している。

#### 本時の展開

小学校 45 分、中等学校 50 分を基準とした展開の流れを、特別活動のモデル指導案では、「課題をつかむ」→「原因を追求する」→「解決法を考える」→「個人目標を自己決定する」、それ以外の教科等では、「導入」→「展開」→「終末」としている。

## 板書計画

本時の展開の流れに従って、教員の発問に対する児童生徒の発言を想定して、板書計画を作成している。板書計画を見るだけで導入からまとめまでの授業の全体像が見えるようになっており、授業展開時の板書計画の参考となる。

## 事後指導

情報モラルの指導では、授業内容や態度の把持が必要なため、ワークシートを活用した児童生徒と保護者との話し合いを含めた事後指導の内容を記述している。地域や学校、クラスの実態に応じて内容を検討することができる。

### (3) アンケート

教材に対応した課題について、クラスの実態を把握することができるアンケート内容になっている。

### (4) ワークシート

モデル指導案の本時の展開での教員の発問に対応したワークシートの内容になっている。家庭でも参照できる動画教材のQRコードや保護者の記入欄も付加されている。

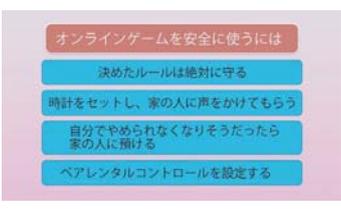
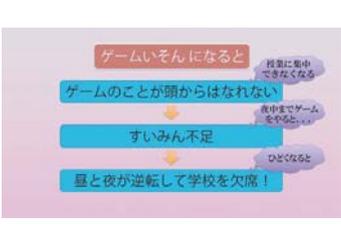
### (5) シナリオ・スライド

動画（導入動画と解説動画）の流れをわかりやすく一覧にまとめている。（34～47ページ）

### 教材 1

# ネットゲームに夢中になると...

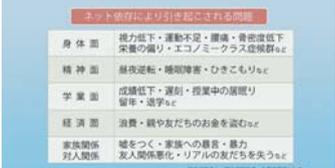
## シナリオ・スライド

<p>導入編</p>		<p>小学校6年生のひろしさん，欲しかったゲーム機を買ってもらいました。お母さんと「ゲームは一日に1時間」と約束をしています。</p>
		<p>最初の頃は約束を守っていたひろしさんでしたが，次第にやめられなくなっていき，ついにはお母さんとの約束を守らずに何時間もゲームをするようになりました。ゲームのステージが上がるにつれて，約束が守れなくなっていきます。</p>
		<p>朝は寝坊，学校の授業中もゲームのことばかり考えています。友達つきあいも悪くなってしまい，日常生活に支障を来すようになってしまいました。</p>
<p>解説編</p>		<p><b>[待ち合わせ]</b> ゲームに参加している友達と約束しているから，ゲームをやらないといけないと思ったり，自分だけがゲームから抜けることができなくなったりするようになっていきます。  <b>[ゲームレベル]</b> 友達のレベルが上がっているから，自分ももっとレベルを上げたいと思ったり，ゲームの友達から自分のレベルを褒められたりして，だんだんゲームをやめられなくなります。</p>
		<p><b>[役割と成長]</b> 仲間と一緒にプレイするネットゲームには，一人一人に役割があり，ゲームの進行，自分の役割やチームのことを考えて，長時間ゲームをするようになってしまったり，ゲームが進むにつれてレベルが上がり，クリアするのがより難しく，より時間がかかったりすることがあります。お金を払ってレベルアップする，といった仕組みもあります。</p>
	 <p>オンラインゲームを安全に使うには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>決めたルールは絶対に守る</li> <li>時計をセットし，家の人に声をかけてもらう</li> <li>自分でやめられなくなりそうだったら家の人に預ける</li> <li>ペアレンタルコントロールを設定する</li> </ul>	<p>オンラインゲームを安全に使うには，次のことを守る必要があります。</p> <p>「決めたルールは絶対に守る」  「時計をセットし，家の人に声をかけてもらう」  「自分でやめられなくなりそうだったら，家の人にゲーム機を預ける」  「ペアレンタルコントロールを設定する」</p>
		<p>ひろしさんは，ルールが守れなかったためにゲームのことが頭を離れなくなって授業に集中できなかつたり，夜中までゲームを続けて睡眠不足で学校に遅刻したりしました。これがひどくなると，昼夜逆転して欠席が続くようになることもあります。オンラインゲームにはまり，インターネットがやめられなくなることを「ゲーム依存」といいます。「ゲーム依存」は，「ネット依存」の入り口のひとつです。</p>
	 <p>体の健康はもちろん，心の健康にも気を付けながらゲームやインターネットと楽しく付き合きましょう！</p>	<p>ゲーム依存にならないために，けじめをつけて，時間になったら絶対やめることが大切です。体の健康はもちろん，心の健康にも気を付けながら，インターネットと楽しく付き合しましょう。</p>

教材 2

身近にひそむネット依存

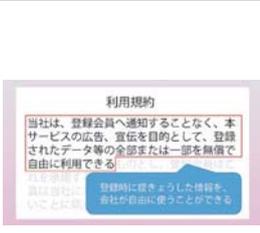
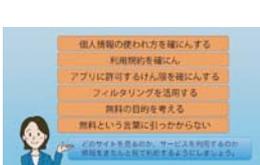
シナリオ・スライド

<p>導入編</p>		<p>高校1年生のまさやさんは、スマートフォンが手放せなくなり、生活が乱れていきました。</p>
		<p>友達と夜遅くまでメッセージのやり取りをし、自転車に乗りながらの操作、家族と食事時の操作もしていました。</p>
		<p>スマートフォンを使うことが、悪いわけではありませんが、使い方が適切ではなく、生活習慣が乱れているようです。</p>
<p>解説編</p>		<p>まさやさんの使い方として、特に問題があったのは、インターネットでウェブサイトを見続けていたことや、無料通話アプリ等でずっと会話をしていたところです。このようにインターネットの世界のやり取りにはまり、日常生活に支障を来すことを「ネット依存」といいます。ネット依存には、「コンテンツ依存」や「つながり依存」等があります。</p>
		<p>①「<b>コンテンツ依存</b>」 動画を見たり、インターネット検索をしたりすることに熱中して、自分ではやめられなくなってしまいます。インターネットには様々な動画やニュース、情報があります。動画の続きが気になって長い時間見てしまったり、時間を忘れて面白そうなホームページを次々と見続けたりしていると、自分ではインターネットをやめられないネット依存になることがあります。</p>
		<p>②「<b>つながり依存</b>」 無料通話アプリやSNS等、他者とのコミュニケーションに熱中して、やめられなくなってしまいます。友達と無料で会話ができて、相手とのメッセージのやり取りが会話形式でつながっていくので、楽しい会話がやめられなくなります。また、返事を返さないと相手にどう思われるか分からないという心配から会話を打ち切ることができなくなります。このようなインターネットを介した会話を続けていると、自分からはやめることができないネット依存になることがあります。</p>
		<p>ネット依存によって引き起こされる問題には、身体面では、視力低下や運動不足、精神面では昼夜逆転や引きこもり、学業面では成績低下や授業中の居眠り、ひどい場合には留年や退学に至ることもあります。</p>
		<p>インターネットは便利な反面、けじめなく使っていると自分では立ち直れなくなることもあることが理解できたでしょうか。自身で規律を持って利用するだけでなく、周りにも気を配り、自分たちのためになるような使い方を仲間でも考えることも必要です。自分にとって、今、何が大切かということを考えて、インターネットを上手に活用していく方法を考えていきましょう。</p>

教材3

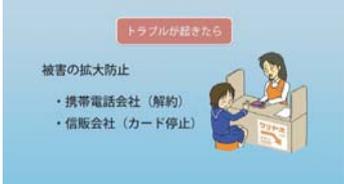
そのページ、確認しなくて大丈夫？

シナリオ・スライド

<p>導入編</p>		<p><b>[ストーリー1・女の子]</b> 小学校6年生のあかねさん。無料占いウェブサイトにて、名前やメールアドレス、生年月日等の個人情報を入力したところ…</p>
		<p>変なメールがたくさん来るようになってしまいました。</p>
		<p><b>[ストーリー2・男の子]</b> 小学校6年生のしょうたさん。「アプリに許可する権限」をよく確認せずにインストールしたため、自分の知らない間に、個人情報を提供してしまいました。また、スマートフォンとの通信を許可してしまい、情報を読み取られたり、アプリの優先順位を変えられたりしたため、請求画面が表示されるようになりました。</p>
<p>解説編</p>		<p>インターネットには、いろいろなウェブサイトがあります。楽しい情報が載った便利なウェブサイトがある反面、悪質なウェブサイトもあります。このようなウェブサイトを見分けることはとても難しいですが、悪質なウェブサイトにいかないようにすることで被害を軽減することができます。</p>
		<p>個人情報を入力するときには、その情報がどのように使われるのかを確認しましょう。企業のウェブサイトには、個人情報についてまとめたプライバシーポリシーのページがあるはずですが、画面のようなマークを確かめ、その内容を必ず読んで確認するようにしましょう。</p>
		<p>また、利用規約も確認するようにしましょう。利用規約の例では、「当社は、登録会員へ通知することなく、本サービスの広告、宣伝を目的として、登録されたデータ等の全部又は一部を無償で自由に利用できる」となっています。これは、あなたが登録時に提供した、住所や性別、年齢、実メールアドレスを会社が自由に使うことができ、ということです。さらに、「登録会員は当社に対して著作権人格権を行使しないことに同意する」とあり、あなたが書きこんだ内容や写真、イラスト等のあなたの著作物を会社側が自由に利用することを認めたこととなります。</p>
		<p>アプリをインストールする場合、アプリと直接関係ない権限項目にチェックがあるときは、インストールしないようにしましょう。よくわからない場合は必ず大人に相談しましょう。気を付けていても、悪質なウェブサイトにつながってしまう可能性もあります。そこで、フィルタリングというサービスを活用することも有効です。フィルタリングは特定のウェブサイトにはアクセスできないようにする仕組みです。</p>
		<p>無料には、企業側の目的がいろいろあります。「宣伝のため」「個人情報を集めるため」「物を売るため」「通常は無料だけど一部有料のもの」。無料だからといって飛びつかず、なぜそれが無料なのかをよく考えて利用しましょう。</p>
		<p>どのウェブサイトを見るのか、サービスを利用するのか、情報をきちんと見て、よく考えて判断をするようにしましょう。自分自身で判断できない場合は、保護者や教員に相談して、安全にインターネットを利用するよう心掛けましょう。</p>

# 教材 4 ネット詐欺などに巻き込まれないようにするために

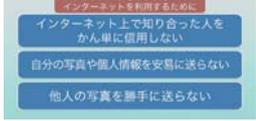
## シナリオ・スライド

<p>導入編</p>		<p><b>[ストーリー1 ネット詐欺]</b> 高校1年生のゆきさんとめぐみさんは、インターネットでアイドルグループのコンサートチケットを購入しましたが、行ってみるとそれが偽物だったことが判明しました。母親のクレジットカードには、50万円もの決済書が送られてきました。</p>
		<p><b>[ストーリー2 不正請求]</b> 高校1年生のみなみさん。SNSにはまっています。自分のページに好きなタレントのページをリンクして利用していたところ、ある日、突然そのタレント本人を名乗るメールがきました。みなみさんは本人に間違いはないと思い込んでいるようですが、定額会員募集に応募したところ、高額な請求が送られてきました。</p>
<p>解説編</p>		<p>ネット詐欺と不正請求に共通する問題点を考えてみましょう。          ①個人情報を入力したり、教えたりしていること          ②利用規約や会社の情報等を、よく確認していないこと          この2つが共通していることが分かります。ネット詐欺や不正請求のトラブルに巻き込まれないようにするためには、どのようなことに注意したらよいのか、考えていきましょう。</p>
		<p><b>①契約に関する知識</b>：インターネットでショッピングをするときには、ウェブサイトの安心を保証するマークがあるか、見てみましょう。JADMA(ジャドマ)マークは、「公益社団法人日本通信販売協会」の会員であることを示すマークです。また、オンラインマークは、「消費者がインターネット通販を利用する際、適正な販売業者かどうかを判断する目安となるもの」です。</p>
		<p>利用規約や約款等にも目を通しましょう。また、商取引の安全を保障する機関に仲介してもらうエスクローサービス等もあります。エスクローサービスとは、インターネットのオークション等で、売る人と買う人との間の、代金支払や商品受渡しを仲介する、といったサービスです。買う人が支払った代金は、商品の内容が確認できるまで、エスクロー機関が預かるため、詐欺事件等が発生しにくい仕組みになっています。</p>
		<p><b>②情報技術の特性</b>：インターネットへの接続を暗号化することで情報の流出を防ぐ技術があります。その技術を採用しているウェブサイトには、URLの頭にhttpsのように「s」の文字が入ります。また、フィッシングサイト対策として、URLが本当のウェブサイトと同じであることを確認しましょう。さらには、自分のパソコンにセキュリティソフト等を導入して安全性を高める工夫をすることも必要です。</p>
		<p>注意をしていても、悪質なウェブサイトによる被害を受け、トラブルが起きることもあります。その際の対応として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に相談をする</li> <li>・警察に届け出る</li> <li>・消費生活センターに相談する</li> <li>・人権侵害があれば関係機関に相談する</li> </ul>
		<p>その上で、被害の拡大を防ぐために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の解約</li> <li>・信販会社への連絡と解約手続</li> </ul> <p>といったことも検討しましょう。インターネットショッピングを含めインターネット上の情報を利用する際には、必ず情報の信ぴょう性を確認して、安全な利用を心がけましょう。</p>

教材 5

軽い気持ちの ID 交換から…

シナリオ・スライド

<p>導入編</p>	 <p>けいこ 小学6年生</p>	<p>新発売のゲーム機を買ってもらったけいこさん。通信機能が充実していることを知り、早速街を歩いてみました。ちょっと歩いただけで5人の人と通信していました。そんな中の一人がカタツムリと名乗る人でした。カタツムリは自分が近くの小学校6年生の女の子と伝えてきました。</p>
		<p>翌日、カタツムリから ID 交換の申込みがありました。けいこさんはちょっと悩みましたが、「よいお友達になれるかもしれない」と自分の小学校名を伝え、応じてしまいました。しばらくカタツムリとのやりとりをしていると、写真交換の申込みがありました。相手の送ってきた写真を見て、自分も送ってしまいました。</p>
	 <p>写真もかわいたの？ 友達の写真も送って！</p> 	<p>すると友達の写真も送ってほしいという要求が届くようになり、けいこさんは断りました。すると態度を変えたカタツムリがドクロのマークを送ってきました。そして、ついにはけいこさんの写真を悪魔に変え、実名で指名手配の掲示板に載せてしまいました。友達に相談すると、それは大人の人ではないかという答えでした。けいこさんはあぜんとしてしまいました。</p>
<p>解説編</p>	 <p>ゲーム機同士で遊ぶ。インターネットで遊ぶ ゲーム機はインターネットにつながる</p>  <p>インターネット上での 見知らぬ人との会話は 危険もある</p>	<p>最近のゲーム機は高度化し、ゲーム機同士の通信機能を使ったり、携帯電話やスマートフォンのようにインターネットを利用して、遊んだり会話をしたりすることができます。けいこさんは、カタツムリと名乗る大人の男を、すっかり小学校6年生の女の子と思い込んでしまいました。カタツムリは、車の中でゲーム機を操作し、通信した瞬間に通った人を調べていました。たまたまけいこさんの近くにいた水玉模様の子になりすまし、車であとをつけて家を見つけたのです。</p>
	 	<p>このように、インターネット上で知り合った顔の見えない人は、簡単に嘘（うそ）をつくことがあります。けいこさんは、カタツムリを小学校6年生の女の子と勝手に信じ込んでしまったため、怖い思いをすることになりました。インターネット上で知り合った人を簡単に信用することは危険です。またけいこさんは、カタツムリをどのような人か確かめずに写真を送ってしまいましたが、これも危険なことです。けいこさんの写真は悪魔に変えられて掲示板に掲載されてしまいました。これは、世界中の人から見られる可能性があります。また、一度インターネット上に公開されたら、完全に消すことはできず、大人になってもずっとインターネット上には残ってしまいます。</p>
	 <p>現実の世界でしないことは インターネット上でもしない</p>	<p>あなたは、道端で突然声をかけられた人とすぐに友達になれるか？道端で突然声をかけられた人に簡単に写真を渡したり、個人情報を教えたりしますか？現実の世界でしないことは、インターネット上で知り合った顔の見えない人にももちろんしてはいけません。</p>
	 <ul style="list-style-type: none"> <li>トラブルに巻きこまれないでインターネットを利用するために</li> <li>インターネット上で知り合った人をつかんずに信用しない</li> <li>自分の写真や個人情報を安易に送らない</li> <li>他人の写真を勝手に送らない</li> </ul>	<p>そして、もしいやな思いをしたり、危険を感じたりしたときは、被害が大きくなる前に、隠さずにすぐに保護者や学校の先生、場合によっては警察や人権相談の窓口にご相談しましょう。</p>

教材 6

写真や動画が流出する怖さを知ろう

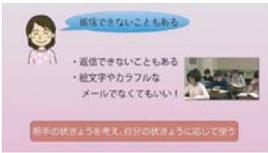
シナリオ・スライド

<p>導入編</p>		<p>まみさんとなおさんは仲良しの二人。部活前の着替えをしている最中に、まみさんが自分の写真を撮り始めます。 後では、友達のりささんが着替えていたため、下着姿が写ってしまいました。りささんと、りささんの仲良しのきよみさんがきつく文句を言いました。</p>
		<p>あわててその場から立ち去ったまみさんとなおさんは、校庭に出ました。幾らなおさんが話しかけてもまみさんは無言でスマートフォンに何か書き込んでいます。 それは、友達どうしのSNSらしく、なおさんにも内容が届きました。りささんときよみさんの悪口を書き込んでいたまみさんですが、SNSの仲間にあおられて、ついにはさっき撮影したりささんの下着姿写真をアップしてしまいました。</p>
		<p>翌日、そのことを知ったりささんはショックで早退してしまいました。翌日学校を休んでいるのを心配した母親の前で、りささんは泣き崩れてしまいました。</p>
<p>解説編</p>		<p>まみさんの行為は絶対に許されるものではありません。 インターネットの公開性により、あっという間にりささんの下着写真は拡散してしまいました。 また、一度発信した情報は消し去ることができないインターネットの記録性により、りささんの写真を完全に削除することは難しくなっていました。 まみさんの行為は法律で裁かれる可能性があります。</p>
		<p>このような被害に遭わないためには、他人に見られて恥ずかしい写真は絶対に撮らせたり、送ったりしないことです。 今回のりささんのケースではまみさんが写真を撮影していないかを確認したり削除させたりすることができたかもしれませんが。 このほか、インターネット上で知り合った人に安易に写真を送らないことも重要です。</p>
		<p>インターネットがもつ特性を良く理解し、このような被害に遭わない、また加害者にならないようにしましょう。</p>

教材7

ひとりよがりの使い方にならないように

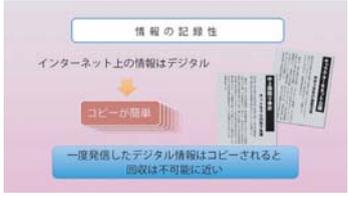
シナリオ・スライド

<p>導入編</p>		<p>小学校6年生の3人（はなえさん、あかねさん、わかなさん）は、とても仲良し。わかなさんだけスマートフォンを持っていません。お母さんに相談し、約束を守ることを前提に、スマートフォンを買ってもらうことになりました。</p>
		<p>これで、スマートフォンを持っているはなえさんとあかねさんと、いつでも連絡が取り合えるようになりました。わかなさんは、食事中まで連絡を取り合っていたところ、お母さんに見つかり、お母さんにスマートフォンを取り上げられてしまい、はなえさんとあかねさんとの連絡が取れなくなってしまいました。</p>
		<p>わかなさんが、返信ができない状態が続き、とうとう、はなえさんとあかねさんは、翌日、学校でわかなさんと話さないことに決めました。</p>
<p>解説編</p>		<p>携帯電話やスマートフォンが使えない場合には、以下のようなことが考えられます。ひとつは、「使ってはいけない場所にいる」場合が考えられます。例えば、電車、映画館、授業中、飛行機、歩きながら などです。次は、「使わない方がいい場面にいる」ことが考えられます。例えば、勉強中、お風呂、ベッド、食事中などです。さらに、「使いたくても使えない状況にある」場合もあります。電波が届いていない、バッテリー切れ、置き忘れた などです。</p>
		<p>インターネット上のやり取りは、相手の顔が見えないので、誤解しやすく、感情的になりやすいこともあります。また、返信がない場合、相手の状況が分からないために、イライラしたり、感情的になってしまったりすることもあります。</p>
		<p>でも、そんなときに、相手の状況を考えて、しばらく待つてあげるといような対応も必要です。返信がなくても、「イライラしない」「友達に言いつけない」「あとで、責めるような発言をしない」などの対応をするようにしましょう。友達を傷ついたり、自分もいやな思いをしたりしないように心掛けることが大切です。</p>
		<p>また、みんなで使い方のルールを作ることも大切ですが、その中に相手の状況を考えることや、自身の状況に応じて使うというのも決めておくといいですね。</p>
		<p>自分たちの写真をインターネット上にアップしている人がいるかもしれませんが、写真にはあなたの顔や友達の顔と一緒に、多くの場合、位置情報もついています。どんどんアップして大丈夫ですか？ あなたたちがどこにいるかが、いろいろな人にわかってしまうのです。気を付けましょう。</p>
		<p>インターネット上のやり取りには、気をつけなければならないことが幾つかあります。相手にはいろいろの状況があるのだということをお互いに思いやって、ゆったりした気持ちで不信感を募らせないで、うまく活用していきましょう。</p>

教材 8

情報の記録性, 公開性の重大さ

シナリオ・スライド

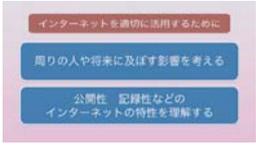
<p>導入編</p>		<p><b>[ストーリー1]</b> 高校1年生のみなみさんは何も考えずに投稿をした過去の情報を、まさやさんに見られて、とても困ったようです。インターネット上に投稿した記事や写真は消すことができません。気楽にSNSに掲載した記事や写真が、見られたくない人の目に届くこともあります。</p>
		<p><b>[ストーリー2]</b> 美術館は、撮影をしてはいけないものがたくさんあります。高校1年生のおおさんは、学校の課外活動で美術館に行きました。そこで、作品を背景に記念撮影を行いました。その画像を課外活動用のブログにアップしてしまいました。このような行為に対し、学校に苦情が殺到する事態となってしまいました。インターネットには、広く物事を公開する力があります。</p>
		<p><b>[ストーリー3]</b> 学校の帰り道、仲良さそうに話しながら歩くカップル。この写真を撮ってSNS上に発信したらどうなるでしょう。誤解をまねくような行為は、よいことではありません。他人の写真を無断で公開するのは肖像権の問題が発生します。二人のプライバシーも侵害することになります。あなた自身が同じようなことをされたらどう感じますか？</p>
<p>解説編</p>		<p>3つの事例を見てきましたが、それぞれの問題点を考えていきましょう。 ○肖像権について ○情報の記録性について ○情報の公開性について</p>
		<p><b>○肖像権の侵害</b> 無断で他人を写真撮影することや撮影された肖像を無断で利用することは、肖像権の侵害につながります。私たちには、無断で写真等を利用されないように肖像権が保護されています。スマートフォンで簡単に写真撮影ができ、SNS等に投稿することで肖像権の侵害につながることもあるので、注意しましょう。</p>
		<p><b>○情報の記録性について</b> インターネット上の情報はデジタル情報です。デジタル情報の特性は、コピーが簡単にできることです。軽い気持ちでSNS等のインターネット上に記事を投稿しているかもしれませんが、発信したデジタル情報は、コピーされる可能性があります。コピーされれば、回収は不可能です。</p>
		<p><b>○情報の公開性について</b> インターネット上への情報の発信は、気軽な友達とのやり取りも、世界中に公開されている可能性があります。記録が残るものであることを意識しなければなりません。言葉や画像の内容をよく考えて投稿しましょう。インターネット上での著作権の侵害等は、一生残ることもありますし、罰せられることもあります。</p>
		<p>インターネットは何でも簡単に検索でき、多くの情報を収集できるという便利な点があります。便利な点を楽しく、有意義に活用していきましょう。</p>

<p>導入編</p>		<p>少年野球チームに所属しているはやとさんはピッチャーになりたいと思い、一生懸命練習しています。 けれどもなかなか試合でピッチャーとして投げさせてもらえません。 ある日の試合でも、結局、ピッチャーにはなれませんでした。</p>
		<p>どうしても納得がいかないはやとさんは、SNSの掲示板にウソの書き込みをしてしまいました。「ドルフィンズは、監督に贈物を贈っている選手を優先して試合に出しているチームだ」 このウソは瞬く間にSNS上で広がり、監督のもとに父兄の苦情が殺到するようになりました。</p>
		<p>ちょっとやりすぎたかなと感じているはやとさんは、早く事態がおさまればいいのにといいながらSNSの掲示板を見ていました。すると、次第にその書き込みがウソであることがばれてしまい犯人がはやとさんであると特定されました。ついには自宅の電話番号まで知られるようになってしまいました。 はやとさんは結局野球チームをやめることになり、やってしまったことに後悔しました。</p>
<p>解説編</p>		<p>インターネットの特性の一つである公開性により、何げなく書いたウソが広く伝わりました。そのことから、チームには苦情が殺到し、やめてしまう選手まで出てしまいました。</p>
	 	<p>そして事態はますますエスカレートし、書き込みしたはやとさんの個人情報まで特定されるようになりました。 これはインターネットを利用している多くの人が調べることで次第に個人が特定されてしまうためです。 また、インターネットの特性の一つである記録性のため、情報がコピーされ、はやとさんはこの情報を消すことができません。 一度流れた情報は大人になってもインターネット上に残ってしまいます。</p>
		<p>スマートフォンの普及もあり、SNSを使って多くの人と簡単にコミュニケーションをとることができるようになってきました。しかし、その気軽さから、安易に書き込みをして、トラブルになってしまう例が増えています。 多くの人々が利用するインターネットはふだんの生活と同じなのです。ふだんの生活でははならないことはインターネットでもしてはならないのだということを理解しましょう。</p>

教材 10

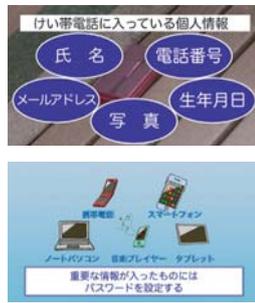
軽はずみな SNS への投稿

シナリオ・スライド

<p>導入編</p>	 	<p>中学生4人が近くのスーパーメクストで職場体験活動を行いました。そこで働いていたアルバイトの大学生かずきさんが中学生の緊張をほぐそうとつつい悪ふざけをして、商品であるタコを頭にのせて写真を撮り始めました。そして、面白い写真が撮れたと、かずきさんは SNS に投稿してしまいました。</p>
	 	<p>それを目撃した中学生の1人であるまみさんは家に帰ってもショックを感じていました。数日後、新聞にスーパーメクストがアルバイトのかずきさんを解雇したことが載っていました。この記事を発見したまみさんのお母さんが、いろいろ調べてみると、騒ぎは大きくなり、スーパーメクストが閉店したこと、かずきさんもインターネット上で個人が特定され、大変なことになっていることがわかりました。お店から多額の損害賠償請求もされているようです。ちょっとした悪ふざけが大変な事態を引き起こしてしまいました。</p>
<p>解説編</p>	 	<p>頭にタコをのせている写真を SNS に投稿してしまったかずきさん。何よりもよくなかったことは商品であるタコを頭にのせるという行為です。衛生上あってはならないことを行ったことは大きな問題です。近年面白いからという理由で SNS に不適切な投稿をする若者がおり、インターネットに関連する問題として取り上げられることもあります。しかし、まず考えなければいけないことは、法に触れること、社会のモラルに反することはやってはいけないということです。</p>
	 	<p>一方で、ここまで事態が大きくなったことは、インターネットの特性が関係しています。1つはインターネットの公開性です。インターネット上に発信した情報は、世界中の人が見ることができます。あつという間にかずきさんの写真は広まってしまいます。もう1つは、インターネットの記録性です。インターネット上の情報は、コピーすることができます。コピーされた写真は、かずきさんが削除することはできません。</p>
		<p>かずきさんはこの後どうなってしまうのでしょうか。既に、お店からは損害賠償を請求されています。就職試験では、過去に不適切な投稿等をしていないか調べている会社もありますので、もしかしたら、就職がうまくいなくなるかもしれません。</p>
		<p>不適切で軽はずみな投稿が、人生を、ここまで台無しにしてしまうとは想像もしていなかったことでしょう。インターネットに情報を発信するときは、現実の世界でも非難を受ける内容ではないかをよく考え、上手に利用しよう心がけましょう。</p>

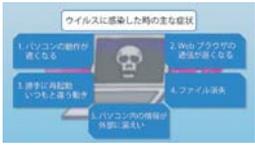
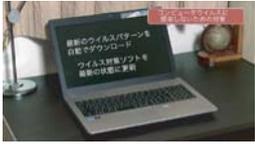
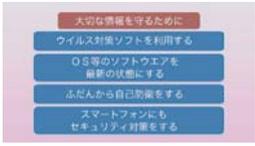
# 教材 11 パスワードについて考えよう

## シナリオ・スライド

<p>導入編</p>		<p><b>[ストーリー 1]</b> 公園のベンチに携帯電話を落としていることに気がつかずに帰宅してしまったさえかさん。家で、携帯がないことに気がつきます。翌日、学校の友達にそのことを伝えると友達から「携帯を落とすって大変なことなんだよ」と注意されてしまいます。さえかさんにはその大変さがよくわからないようです。</p>
		<p><b>[ストーリー 2]</b> けんたさんの自宅で一緒にゲームを楽しんでいるゆうさくさん。けんたさんが ID とパスワードを入力するところを見て、それが簡単なものだったのでわかってしまいました。その日の夜、自宅に帰ったゆうさくさんは、覚えてしまった ID とパスワードを使い SNS でけんたさんのふりをしてチャットしてしまいました。しかしあまりよくない態度で接したため、一緒に SNS をやっていた友達に怒ってしまいました。翌日、けんたさんはみんなに無視される理由がわからないで悩んでいますが、実はゆうさくさんのなりすましが原因だったのです。</p>
<p>解説編</p>		<p><b>[ストーリー 1]</b> 携帯電話には個人情報が入っています。特に最近は友達の情報も携帯電話で管理するケースが多いので紛失等には気を付けなければなりません。悪意のある人がなくした携帯電話を拾ったときにその情報を盗んで悪用するかもしれないのです。このことに備えるのに有効なのが画面ロックです。パソコン、スマートフォン、音楽プレイヤー等、重要な情報が入ったものを持ち運ぶにはパスワードを設定して紛失に備えるようにしましょう。</p>
		<p><b>[ストーリー 2]</b> けんたさんは ID とパスワードをゆうさくさんに無断で使われて、いわゆるなりすましの被害にあってしまいました。けんたさんは、パスワードを設定していたのにゆうさくさんにのぞかれて使われてしまいました。パスワードが見破られてしまう原因には、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数字や文字の並びが単純</li> <li>・電話番号や生年月日等他人に比較的知られている番号や、他人に推測されやすい単語や名前</li> <li>・パスワードを紙に書いている</li> </ul> <p>それでは良いパスワードを作るにはにはどのようにしたらよいのでしょうか。文字の数と種類を多くする、自分だけがわかる文章の頭文字をつなぐ、といった方法があります。また、ゲームと SNS 等を同じ ID とパスワードにしていることもよくありません。一度バレてしまうと、いろいろなサービスでなりすましの被害に遭うこととなります。携帯電話やスマートフォン、インターネット等を安全に楽しく使うために、家のカギと同じようにパスワードはしっかり管理しましょう。</p>

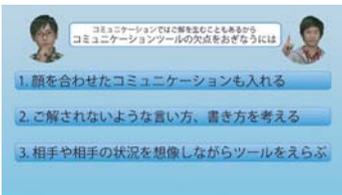
# 教材 12 大切な情報を守るために

## シナリオ・スライド

<p>導入編</p>	  	<p>かんださんの家に集まった3人は来週行われる学園祭で発表する内容について話し合っています。 かんださんは最近パソコンの調子が悪いとぼやいています。 きよみさんにウイルス対策について聞かれ、ちょっと心配になりました。そういえばこの前も英語のメールの添付ファイルを開いてしまったことがあったのです。 一方、いちろうさんはきよみさんが自分のスマートフォンに画面ロックをかけているのを見て、自分は面倒だからかけていないと話しています。きよみさんは自分の個人情報も入っているのだから、もしなくしたら自分にも影響があると心配しています。 そうこうしているうちに、買い出しに行く予定の時間を過ぎてしまいました。慌てて店に行こうとすると、かんださんのパソコンがOSのアップデートになりました。急いでいるのに、そのままにして出かけるのは気がひけるとみんな焦っています。 いちろうさんは「アップデートなんて知らない、今度解除の方法を教える」と言っています。</p>
		<p>その日の夜、かんださんがパソコンを開くと、大切なデータが消えていることに気がつきました。また、いちろうさんは店にスマートフォンを置き忘れ、画面ロックをしていないことを後悔しました。 数日後、きよみさんや他の友達の家へへんな勧誘電話がたくさん入っていることがわかり、みんなが不思議に思っています。</p>
<p>解説編</p>	 	<p>かんださんのパソコンのデータがなくなったのはなぜだったのか原因を考えてみましょう。直前の症状を見ると、ウイルスに感染した気配があります。また、最近おかしなメールが増えたのも、ウイルスによって情報が漏えいたためと考えることができます。 また、きよみさんにも迷惑メールが届くようになったのも、この情報漏えいが原因かもしれません。ウイルスに感染すると自分だけでなく他人にも迷惑をかけることになるのです。</p>
	 	<p>ウイルスに感染しないようにする対策にはどのようなものがあるのでしょうか。ウイルス対策ソフトは一般的に知られている対策のひとつですが、常に最新の状態にすることが重要で、それだけでは完全な対策とはいえないものです。 セキュリティーホールという存在がOSにはあり、やはり常に最新の状態にする必要があります。 また、差出人の分からないメールを開かない、怪しいウェブサイトを見ないなどの自己防衛も必要です。</p>
		<p>また、これらの対策はパソコンだけのことではありません。 いちろうさんのように、画面ロックをかけないでスマートフォンをなくすと、そこに入っている自分や友達の情報が外部に流出することになります。また、アプリをインストールするときも個人情報を流出させるような不適切なソフトでないかをよく確かめる必要があります。</p>
		<p>大切な情報を守るためにふだんから意識をもち、一人一人が気を付けることによって、よりよい情報社会を築きましょう。</p>

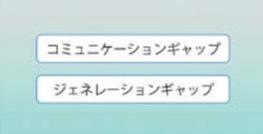
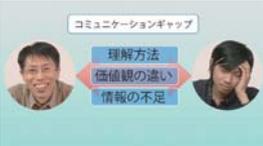
# 教材 13 うまく伝わったかな？

## シナリオ・スライド

<p>導入編</p>	 <p>ひろし かずや</p>	<p>小学校6年生のひろしさんとかずやさんは、インターネット上での対戦ゲームを楽しんでいます。</p>
		<p>かずやさんが「怒り」のイラストのスタンプを送ったところ、ひろしさんはイライラし始めます。それぞれが何を考えているのか、分からないまま、二人とも「怒りのスタンプ」を送りあいました。</p>
<p>解説編</p>		<p>インターネットでのコミュニケーションは、お互いに顔が見えないため、相手の考えは推測するしかありません。特にスタンプのように、絵等で表現されたものは、送り手の考えを伝えられないことがあります。</p>
		<p>コミュニケーションツールには、それぞれの特徴、利点（良い点）と欠点（悪い点）があります。</p> <p>手紙：相手に届くのに時間がかかる反面、インターネットにつながってなくても書くことができ、自分の感情が伝わりやすい。</p> <p>電話：感情が伝わりやすく、インターネットにつながっている必要がないが、相手の時間を使ってしまうこともある。</p> <p>メール：相手の状況に左右されず、すぐに送信ができ、後で見返すこともできる反面、書き方によっては、感情が伝わりにくく、誤解を招くこともある。</p> <p>メッセージアプリ：相手がメッセージアプリのウェブサイトログインしていないとつながらないことがある。</p>
		<p>それぞれのツールの欠点を補うには、どうしたらよいでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顔を合わせたコミュニケーションも入れる。</li> <li>誤解されないような言い方、書き方を考える。</li> <li>相手や相手の状況を想像しながらツールを選択。</li> </ul>
		<p>お互いに気持ちが伝わるのが、コミュニケーションではとても大切なことです。相手の気持ちを思いやり、場合や相手に応じたコミュニケーション方法を考えていきましょう。</p>

# 教材 14 コミュニケーション の取り方を見直そう

シナリオ・スライド

<p>導入編</p>		<p>高校1年生のおおるさんがお父さんと自宅のリビングで話をしています。お父さんは「仕事関係の付き合いがある人から、無料通話アプリで、『この前のプレゼンの資料をください』と、軽く頼まれて、驚いたよ。」と言ったところ、</p>
		<p>「それって、何か問題なの？」とおおるさんには、何が問題なのかわからなかったようです。お互いに、相手の言っている意味がわからない様子です。</p>
<p>解説編</p>		<p>とおるさんとお父さんの思いの違いはどのようなところからうまれているのか考えてみましょう。まず、利用しているコミュニケーションツールの使い方の違いがあります。また、コミュニケーションの取り方の違い、その他にも、とおるさんがお父さんの仕事内容についての理解が不足していること、お父さんとおおるさんの話合いや情報の不足もあります。これらについて、大きくまとめると、考え方や価値観の違いや世代の違いになります。</p>
		<p>人それぞれの様々な価値観、考えについて、次のような「ずれ」、すなわちギャップが発生します。ここでは2つのギャップを紹介します。</p>
		<p>コミュニケーションギャップは、互いに理解しあうべきコミュニケーションで、その理解の仕方や価値観の相違、情報の不足などにより、食い違いを見せることを言います。</p>
		<p>ジェネレーションギャップは、世代や年齢の違いから、経験や社会的立場が異なることにより、考え方や価値観の違いが生じる「ずれ」のことを言います。</p>
		<p>コミュニケーションの方法や世代間の違いがあっても、相手に気持ちを伝えたいという思いは同じだ、と理解しましょう。相手の立場や状況等を考える「思いやり」の心が必要です。1対1のコミュニケーションだけでなく、複数人数のコミュニケーションや、自分から他人に対して情報を発信するコミュニケーションにも共通です。</p>
		<p>公共性の視点から見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• いたずらで連続投稿し、独占してしまうような行為は公共性に反します。</li> <li>• インターネットでのコミュニケーションでは、例えば、マナーを重く受け止める人と軽く感じる人がいます。相手がどのように受け止めているのかを考える気持ちが大切です。</li> <li>• ニセ情報やデマを流すことは多くの人の迷惑になり、必要のないトラブルや事件を引き起こす可能性があります。</li> </ul>
		<p>最後に3つのポイントを理解しましょう。  「コミュニケーション手段の選択は自分でする」  「ネット社会もリアルな現実社会も対人関係の方法は同じであること」  「インターネットの公共性の視点から、相手の立場や状況等を考える思いやりの心が必要」  誰かとコミュニケーションを取ることはとても楽しいことです。相手の気持ちに配慮をしながら、コミュニケーションを取るようにしましょう。</p>

# ネットゲームに 夢中になると…

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

ネットゲーム（オンラインゲーム）等に熱中すると、インターネットの利用を何よりも優先して自分の意志ではやめることができなくなったり、日常生活に支障を来してしまったりするいわゆる「ネット依存」に陥ることがある。本教材では小学生、中学生が陥りやすいゲーム依存を取り上げながら、依存状態にならないためにはどうしたらよいかについて考えさせる。そして、自分の生活を振り返り、改善すべき点等を見直し、自ら節度を守り、節制に心掛ける態度を育てる。

※「ネット依存」については11・12ページ参照。

### 指導観

インターネット上には様々な情報やコンテンツがあり、何よりもインターネット利用を優先して自分の意志ではやめることができなくなったり、日常生活に支障を来してしまったりするほど熱中してしまう児童生徒がいる。

そこで、ネット依存の1つであるゲーム依存を取り上げ、ゲーム依存に陥ってしまうことによる、心身の弊害、日常生活や人間関係等の影響を理解させる。また、インターネットの利用方法や心構えについて話し合わせ、自ら節度をもって利用する意識や、健康への関心を高めさせる。

児童生徒の利用が多いゲームを題材にした指導を行うことによって、リアリティを感じさせながらネット依存について考える機会とさせる。

### 指導時のポイント・留意点

児童生徒が、ゲーム依存の問題点や仕組み、対処の仕方を理解し、話し合う中からネット依存に陥らず、上手にインターネットと付き合う心構えを見い出させる。そのために、オンラインゲームには、「ゲームでの待ち合わせ」や「ゲームレベル」等、それにのめり込んでしまう要素があることを理解させる。また、ゲーム依存に陥ってしまうことによる、心身の弊害、日常生活や人間関係等の影響を理解させる。そして、話し合い活動等を通して、インターネットと安全に付き合う心構えを考えさせる。

道徳では、ゲームを自分ではやめることができなくなってしまったひろしさんの気持ちや動機、原因等を、自分との関わりで考えさせる。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画は、ひろしさんがゲームを続けてしまうオンラインゲームの仕組み、心身の弊害、日常生活や人間関係の影響等を取り扱っている。ゲームを自分ではやめることができなくなってしまったひろしさんの気持ちがどのような状態にあったか、ゲームをやめることができなくなってしまった理由や問題点、どうすればよかったのかなどを考えさせながら導入動画を視聴させる。

解説動画では、ゲーム依存の問題点や仕組み、対処の仕方等の説明をしている。心や体の健康に気を付けてゲームやインターネットと適切に付き合うには、どのようなことに注意したらよいかを考えさせながら、視聴させる。

## 取扱い教科等

### ① 主たる取扱い教科等

小学校

道徳 1 主として自分自身に関すること

特別活動 学級活動 (2) イ 基本的な生活習慣の形成

特別活動 学級活動 (2) カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

中学校

道徳 1 主として自分自身に関すること

特別活動 学級活動 (2) キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

### ② ①以外の教科等での取扱い

中学校

技術・家庭(技術分野) D 情報に関する技術

保健体育(保健分野) (4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。

### ③ ②の教科等での取扱いのポイント

本教材には心身の健康への弊害の問題が含まれているため、中学校 保健体育(保健分野) で事例として取り上げることで理解を深めさせることができる。解説動画にゲームを続けてしまう仕組みや心身の健康への弊害等の内容を含むため、必要に応じて理解を助ける教材や説明を加えて一人一人に理解させる。

中学校 技術・家庭(技術分野) で扱う場合は、問題点や仕組み、対処の仕方を理解させる。

## 情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応

「3.安全への知恵」

小学校 f3-1：健康を害するような行動を自制する

中学校 f4-1：健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる

## 2.1 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

### 本時の目標

ネット依存の入り口の1つであるゲーム依存に着目して、その傾向や問題点を理解させ、日常生活に支障を来さないように、けじめをつけてインターネットを利用する態度を養う。

### 授業実施前の準備・事前指導

ネット依存が身近にあることや自分たちの実態をもとにして一人一人の児童生徒に考えさせるため、ゲームに費やす時間や、ゲームをする時間を守れなかった経験等について、事前にアンケートを採り調べておく。その結果は、表やグラフにまとめ、授業の導入部分で具体的に自分の生活を振り返る機会とさせる。

また、本教材は、携帯電話やスマートフォンの所持を認めたり、勧めたりしているものではなく、携帯電話やスマートフォンを使い始めたときに、起こるかもしれない問題について正しく判断できるよう考えさせる教材であることを事前に伝えて、児童生徒と保護者の理解を得ておく。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：7分〕</b></p> <p>1 アンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームに費やしている時間が多いことを知る</li> <li>・家の人との約束が守れない人がいることを知る</li> <li>・自分の意志でゲームをやめることができないことはネット依存の状態の1つであることを知る</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ゲームがやめられない状態」にならないようにするためには、どのようにしたらよいのか考えよう。</p> </div> <p><b>〔原因を追求する：小学校 24分，中学校 26分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し，問題点と原因，どのようにすればよかったのかをワークシートに書き，グループで話し合い，全体で共有する。</p> <p><b>【問題点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームをやめられなくなった</li> <li>・朝，起きることができなくなった</li> <li>・学校の友達と遊ばなくなった</li> <li>・宿題ができなくなった …</li> </ul> <p><b>【原因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいから</li> <li>・続きがたくさんあるから</li> <li>・どこでもできるから</li> <li>・友達と競い合えるから</li> <li>・お金をはらえば強くなるから …</li> </ul> <p><b>【どのようにすればよかったか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約束を守る</li> <li>・家の人に見守ってもらう …</li> </ul> <p>4 解説動画を視聴し，ゲームをやめることができなくなる仕組みを理解し，オンラインゲームとどのように関わっていったらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間といっしょにするので，やめられなくなる</li> <li>・続きがたくさんある</li> <li>・レベルが上がる</li> <li>・強くなりたい …</li> </ul> <p><b>〔解決方法を考える：小学校 7分，中学校 10分〕</b></p> <p>5 どのようにオンラインゲームと関わっていったらよいか考え，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決めたルールを守る</li> <li>・時計をセットし，家の人に声をかけてもらう</li> <li>・時間になったら家の人にゲーム機を預かってもらう</li> <li>・ペアレンタルコントロールを設定してもらう</li> </ul> <p><b>〔個人目標を自己決定する：7分〕</b></p> <p>6 発表の内容を参考にしながら，自分の完成目標をワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインゲームに夢中になって約束を守れなくなってしまったり，やめようと思ってもやめることができなかつたりする人がいることを知る。</li> <li>・ネット依存について説明する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインゲームがやめられなくなってしまったひろしさんのお話です。問題点と原因，どのようにすればよかったのかを考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインゲームに夢中になってしまった結果，心身の弊害，日常生活や人間関係の影響等があることを整理し，明確にする。</li> <li>・なぜやめることができなかつたのかについて，意志が弱いからやめられなかつたこと以外に，役割と成長等オンラインゲームにのめり込ませる仕組みがあることを考えさせる。</li> <li>・ルールを守ってインターネットを利用することが大切であり，むやみに心配させる必要はない。</li> <li>・どのようにすればよかったのかを自分の経験から考えさせ，発表させる。そのことが具体的か，実現できるのかを考えさせる。</li> <li>・「お互いの家のルールを伝え合うことも大切」ということも伝える。</li> <li>・ワークシートを持ち帰り，学校だけの学習で終わらせるのではなく，学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。</li> </ul>

「ゲームがやめられない状態」にならないようにするためには、どのようにしたらよいのかを考えよう

アンケート結果



原因

- ・楽しいから
- ・続きがたくさんあるから
- ・どこでもできるから
- ・友達と競い合えるから
- ・お金を払えば強くなるから



やめられなくなる仕組み

- ・仲間といっしょにするのでやめられなくなる
- ・続きがたくさんある
- ・レベルが上がる
- ・強くなりたい

問題点

- ・ゲームをやめられなくなった
- ・朝、起きることができなくなった
- ・学校の友達と遊ばなくなった
- ・宿題ができなくなった



◎どのようにすればよいか

- ・決められたルールを守る
- ・時計をセットし、家の人に声をかけてもらう
- ・時間になったら家の人にゲーム機を預かってもらう
- ・ペアレンタルコントロールを設定してもらう

友達の家のルールを聞き、自分の家のルールを伝える

事後指導

- ①家庭等で作成した「ゲームをするときのルール」を朝の会や帰りの会等で交流させる。また、定期的にルールの運用について交流させたり、アンケートを採って考えさせたりして、ルールの実践を図る。
- ②保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。
- ③既にネット依存になっている児童生徒の場合、必要に応じて、医療機関、カウンセラー等の力を借りてネット依存から抜け出る方法を具体的に示す。その対応は、児童生徒の状態や状況によって異なり、「時間を守る」「約束を守る」だけでは、効果的な対応とはならない場合がある。そのため、家庭での過ごし方や、心身ともに健康な生活等について考える学習につないだり、保護者や医療機関、カウンセラー等と連携して生活環境を変えさせたりするなど、継続的な指導を行う必要がある。

シナリオ・スライド → p.34

ゲームについてのアンケート

年 組 番 名前

---

- 1 ゲームをしていますか。どちらかに○を付けてください。  
( ) はい ( ) いいえ → アンケートはこれで終わりです。
  
- 2 1で、「はい」に○をつけた人は、以下の質問に答えてください。
  - (1) ゲームは週に何日くらいしますか。当てはまるものに○を付けてください。  
( ) 毎日 ( ) 4～6日 ( ) 1～3日
  
  - (2) ゲームをする時間は1日にどれくらいですか。( ) に数字を書いてください。  
  
平日（学校のある日）( ) 時間 ( ) 分  
土日（学校のない日）( ) 時間 ( ) 分
  
  - (3) ゲーム機はインターネットにつないでいますか。どちらかに○を付けてください。  
( ) はい ( ) いいえ
  
  - (4) ゲームをする時間を守れなかったことがありますか。どちらかに○を付けてください。  
( ) はい ( ) いいえ
  
  - (5) 「ゲームをする時間を短くしたいがなかなか減らない」と思ったことがありますか。  
どちらかに○を付けてください。  
( ) はい ( ) いいえ
  
  - (6) ゲームの利用料金が高くなってしまったことがありますか。  
当てはまるものに○を付けてください。  
( ) はい ( ) いいえ ( ) ゲームにお金を使っていない
  
  - (7) 家の人とのゲームの約束を守れなかったことがありますか。  
当てはまるものに○を付けてください。  
( ) はい ( ) いいえ ( ) 約束は決めていない



ネットゲームに夢中になると…

年 組 番 名前

教材  
1

課題

1 ひろしさんはどうしてこんなことになってしまったのだろう。問題点, 原因, どのようにすればよかったか考えてみましょう。

問題点
原因
どのようにすればよかったか

2 ゲームをやめられなくなる仕組みにはどのようなものがあるか書いてみましょう。

3 ゲームをするとき, これから自分はどのようなことに気を付けるか書きましょう。

学んだことを家の人に伝えて話し合い, 意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉

## 2.2 モデル指導案：道徳学習指導案

### 本時の目標

自分の生活を見つめ、節度を守り、節制に心掛けようとする態度を養う。

### 授業実施前の準備・事前指導

事前にアンケートを採り、ゲームをする時間を守れなかった経験や、平日（学校のある日）と休日（学校のない日）にゲームをする時間等について調べ、導入で紹介できるようにする。（アンケートは特別活動と共通）

また、本教材は、携帯電話やスマートフォンの所持を認めたり、勧めたりしているものではなく、携帯電話やスマートフォンを使い始めたときに、起こるかもしれない問題について正しく判断できるよう考えさせる教材であることを事前に伝えて、児童生徒と保護者の理解を得ておく。

### 本時の展開

※道徳については、解説動画は視聴しない。

学習活動	指導のポイント
<p>[導入：8分]</p> <p>1 「節度」という言葉の意味を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・度をこさないこと</li> <li>・行き過ぎないこと</li> </ul> <p>2 アンケート結果からどのようなことを思ったのか、全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長い時間ゲームをしている人がいる</li> <li>・家の人と約束を決めている人がいる</li> <li>・家の人との約束が守れない人がいる</li> </ul> <p>[展開：小学校 32分，中学校 37分]</p> <p>3 導入動画を視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「節度」という言葉の意味を確認し、価値への方向付けをする。</li> <li>・アンケートをもとに、ゲームに夢中になって約束を守れなくなったり、やめようと思ってもやめることができなくなったりする人がいることを知る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;導入動画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインゲームがやめられなくなってしまったひろしさんのお話です。ひろしさんはどのようなことを考えていたか、度を越したことは何かを考えながら見ましょう。</li> </ul> </div>
<p>4 ゲーム機を買ってもらったときのひろしさんの気持ちを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんとの約束は守る</li> <li>・約束はぼくのためだ</li> </ul> <p>5 最初の頃は1日1時間という約束を守っていたのに、次第に守れなくなった、ひろしさんの気持ちを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少しやりたい</li> <li>・1番面白い所なんだ</li> <li>・区切りのつくところまでやろう</li> <li>・勉強ができなくなってしまうとまずいな</li> </ul> <p>6 学校では友達との付き合いもほとんどなくなったひろしさんの考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早く帰ってゲームをしたい</li> <li>・友達よりゲームの仲間が大切だ</li> <li>・友達と遊べないのは、やっぱりさみしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は約束を守ることができるという思いを自分との関わりで考える。</li> <li>・自分のやりたいことを続けたいという欲求、自分の行為の正当化、やり過ぎの自覚等、多様な意見を引き出し、自分の思いを自分の言葉で語らせる。</li> <li>・自分の欲求を抑えきれない状況を考え、節度を守ることの大切さについて考えさせる。</li> </ul>

7 時間を守ると約束し、自分でもやめたいのはわかっているひろしさんの考えていたことをワークシートに書き、グループで話し合う。

- ・ どうしてこんなことになってしまったんだ
- ・ 家族にも迷わくをかけている
- ・ とにかくゲームはやめよう
- ・ けじめのある生活をしよう

8 これまで節度を守って行動できなかった経験があったか、具体的に自分の生活を振り返り、節度ある生活について考え、ワークシートに書き、グループで話し合う。

〔終末：5分〕

9 教師の説話

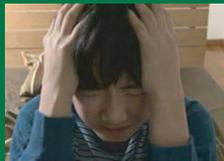
・ 度を超してしまうとどのようになるかを考えさせ、どのようなことでもやりすぎは禁物であることを押さえる。

・ 自分の節度ある生活について具体的に考えさせる。

・ ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

### 板書計画

ゲームをするときのルールを決める  
ルールを決めたら必ず守る



学校では友達との付き合いもほとんどなくなった

早く帰ってゲームをしたい  
友達よりゲームの仲間が大切だ  
友達と遊べないのは、やっぱりさみしい

ゲームを買ってもらったひろしさん

お母さんとの約束は守る  
約束はほくのためだ



何でやめられないんだ

・ 度をこさないこと  
・ 行き過ぎないこと

もつ少しやりたい  
一番面白い所なんだ  
区切りのつくところまでやる  
勉強ができなくなってしまつとまずいな

一日一時間の約束を守れなくなった

もう少しやりたい  
一番面白い所なんだ  
区切りのつくところまでやる  
勉強ができなくなってしまつとまずいな

早く帰ってゲームをしたい  
友達よりゲームの仲間が大切だ  
友達と遊べないのは、やっぱりさみしい

時間を守ると約束したし、自分でも  
やめたいのはわかっているひろしさん  
どうしてこんなことになってしまったんだ  
家族にも迷わくをかけている  
とにかくゲームはやめよう  
けじめのある生活をしよう

クラスでのゲーム利用の実態をまとめたグラフ



### 事後指導

- ① 保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせる。
- ② 既にネット依存になっている児童生徒の場合、必要に応じて、医療機関、カウンセラー等の力を借りてネット依存から抜け出る方法を具体的に示す。その対応は、児童生徒の状態や状況によって異なり、「時間を守る」「約束を守る」だけでは、効果的な対応とならない場合がある。そのため、家庭での日常の過ごし方や、心身ともに健康な生活等について考える学習につないだり、保護者や医療機関、カウンセラー等と連携して生活環境を変えさせたりするなど、継続的な指導を行う必要がある。



ネットゲームに夢中になると…

年 組 番 名前

---

1 頭をかかえて動くことができないひろしさんはどのようなことを考えていたでしょう。

2 度をこしてしまったことにはどのようなことがあるか振り返ってみましょう。

学んだことを家の人に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉

1. ネット依存とは

2011年7月に久里浜医療センターでインターネット(以下、ネットとする)依存専門治療外来を開設してから、もうすぐ5年になるうとしている。この間、日本全国から約700名以上の方々が受診された。そのうちの8割以上が中高大学生であるが、ここ1年は小学生の受診が増えてきており、この問題の低年齢化が進んでいることを実感している。

彼らが依存しているサービスには様々なものがあるが、8割以上がゲームである。スマートフォン(以下、スマホとする)で行っている場合、いくつかのゲームをダウンロードし、次々とゲームを渡り歩いて常にスマホが手放せなくなっていることが多い。このため成績が急落したり、不登校になったりする。家庭用ゲーム機やパソコンで行うゲームでは、ネット上のサーバーを介して、不特定多数の人と知り合い、数人程度でチームを組んで文字や音声で会話しながら一緒に狩りや戦いに出かけるので、チーム内で役割ができ、約束を守る責任も生まれるという特徴がある。また、22時頃チームメンバーが集合し、明け方までプレイするということが多く、あっという間に昼夜逆転し、睡眠障害をおこすようになる。不登校、引きこもりが長期化すると、身体的にも影響がでることがある。たとえば骨密度が低下したり、栄養が偏ったり、エコノミークラス症候群に近い状態になる児童生徒もいる。

—日本全国に、このようなネット依存の傾向にある中高生がどれくらいいるのか、我々研究チームは、2012年に、全国から無作為に抽出した中高あわせて164校の生徒約10万人を対象とした調査を行った<sup>1)</sup>。ネット依存の推定にはYoungにより作成されたDQ(Diagnostic Questionnaire)の邦訳版を使用した<sup>2)</sup>。この結果、全国

の中高生のうちネット依存の強く疑われる者が、51万8千人にのぼることが明らかになった。さらに、中高生が平日に勉強以外にネットを使用している時間が5時間以上の者は、中学生の男女はそれぞれ8.9%、9.2%、高校生は13.8%、15.2%であった。休日にはさらに増えて、中学生がそれぞれ13.7%、14.2%、高校生がそれぞれ20.5%、

22.1%であった。

2. ネット依存のチェックリスト

先の研究で我々が使用した、ネット依存のチェックリストを掲載する。学校で使用するには、このようなスクリーニングテストは問題のある人を広く拾いあげる性質があるので、たとえネット依存の疑いがあるからと言って、直ちにネット依存であるとレッテルを貼るのではなく、ネットの使い方について児童生徒と一緒に見直し、本人に自らのネット使用について問題意識をもたせ、経過をみながら関わってゆくためのきっかけとして使用することが重要である。

表 1. Diagnostic Questionnaire<sup>2)</sup> の邦訳版

1. あなたはインターネットに夢中になっていると感じていますか？(たとえば、前回にネットをしたことを考えたり、次回ネットをすることを待ち望んでいたり、など)
2. あなたは、満足を与えるために、ネットを使う時間をだんだん長くしていかなければならないと感じていますか？
3. あなたは、ネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがたびたびありましたか？
4. ネットの使用時間を短くしたり、完全にやめようとした時、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じますか？
5. あなたは、使い初めに意図したよりも長い時間オンラインの状態ですか？
6. あなたは、ネットのために大切な人間関係、学校のことや、部活のことを台無しにしたり、あやうくしたりするようなことがありましたか？
7. あなたは、ネットへの熱中のしすぎをかくすために、家族、学校の先生やその他の人たちにうそをついたことがありますか？
8. あなたは、問題から逃げるために、または、絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込み等といったいやな気持ちから逃げるために、ネットを使っていますか？

評価方法：5項目以上該当すれば「インターネット依存の疑い」とする。



### 3. 各国における状況と対策

ネット依存についてはわが国だけでなく、各国において有病率の推計値が報告されている。使用する質問票の種類や、調査方法によって有病率にばらつきが認められる。例えば、青少年を対象とした調査で、ヨーロッパでは2.0～15.2%、北米4.0%、中国0.6～26.7%、韓国1.6～38.9%といった具合である<sup>3-6)</sup>。もちろん、このような実態を受けて、諸外国においても対策が行われている。

治療方法についてもまだ十分なエビデンスは得られていないが、認知行動療法や家族教育等が有効であることが示されている。また、アメリカや中国、韓国では合宿形式の治療プログラムが行われているが、その有効性に関する研究は少ない。

依存を含む精神疾患について、現在、世界的に使われている診断ガイドラインは2種類ある。このうち、2013年5月に改訂が行われた米国精神医学会が定めている精神疾患の診断と分類の手引き第5版(DSM-5)においては、インターネットゲーム障害(Internet Gaming Disorder)の診断基準が初めて収載された。しかし、この病名は「Conditions for further study, さらなる研究の必要な障害」に入っており、現時点では使用できない。今回のDSM-5作成上の課題としてあげられたことは、ネット依存や買い物依存のような行動嗜癖は、ギャンブル障害を除いて研究データが不十分なため、このような行動嗜癖をDSM-5に加えることは時期尚早であり、データが蓄積された段階で診断カテゴリーへ加えることを考慮する、とのことである。

さて、わが国の日常診療で使われているのは、WHOが定めている国際疾病分類第10版(ICD-10)である。しかし、このガイドラインには、ネット依存の診断ガイドラインは存在しておらず、現状ではその診断には「F63.8 その他の習慣および衝動の障害」という項目を使用している。ICD-10は2年後の2018年に改訂され、ICD-11となる。現在、改訂作業が進行しているが、紆余曲折の末、現時点ではネット依存は掲載されないことが判明している。この状況を覆すべく、私どもは2014年8月に東京で、また、2015年8月には韓国のソウルで、WHOの専門家会議を行った。その結果、ネット依存の診断ガイドラインの草稿を作成し、今から始まるICD-11のfield testingでその有効性を確認していくことになった。また、私どもの久里浜医療センターが、このプロセスをリードすることで合意し、2014年よりプロジェクトが動き始めている。

### 4. ネット依存の背景と対処法

ネット内の世界は頑張れば頑張るほど成果を出すことができ、それにより他から認められ、容易に居場所ができるなど、問題は急速に進行する。まずは早期発見、早期対応が不可欠である。授業中の居眠り、遅刻、欠席、成績の急降下等の背景に、ネット依存の問題がないか、注意してみていく。特に夏休み等の長期休暇中に生活が乱れ、そのあとに問題が出てくるケースもみられる。また、部活や成績面での挫折やいじめ等、現実生活での居場所を失ったことが、ネットにのめりこむ引き金となっているケースも多い。早期であれば、代替となるやりがいを見付けることで立ち直ることも多い。さらに注意欠如多動性障害やアスペルガー症候群等の発達障害が、背景に認められる場合もある。彼らは、衝動のコントロールが不得手で自分が興味を持ったものにはのめり込みやすく、ネット依存になりやすい傾向を持っているといえる。この場合は、薬物治療等で衝動のコントロールがよくなるケースもあるため、専門家による診断・治療が必要である。

### 5. ネット依存の予防

ITテクノロジーは今後ますます発展してゆくので、それに伴いその負の側面であるネット依存関連問題は、常に形を変え、さらに深刻化してゆくものと思われる。テクノロジーと正しく付き合い、その恩恵を享受してゆくためには、テクノロジーの発展のそもそもの目的や、そのメリット、デメリットを日ごろから充分話し合い、考える力を付けてゆくことが、今後ますます重要になってくるものと思われる。また、我々大人がその危険性を知り、ネットを使わせないのでも、ただ自由に使わせて放任するのでもなく、節度ある使用を児童生徒のころから学ばせてゆくことも必要なのではないだろうか。

そのためには、スマホやパソコン、家庭用ゲーム機等、インターネットにつながる機器を買い与える際には、保護者もその機器でどんなことができるのか、フィルタリングにはどんなものがあるのかを、知っておく必要がある。そして、本人と一緒に、その機器の使用の仕方についてルールを作る必要がある。ルールを作る際には、使用時間・使用場所・使用内容等について決めていく必要がある。また、ルールの内容以上に大切なことが、どうしてそのルールが必要なのか、その理由を児童生徒が理解するということである。また、ネット以外にも現実生活の中で、楽しいと思えること、自信を持って取り組めることを増やしてゆくことも非常に大切である。児童生

徒をネット依存にさせないために、我々大人は意識して取り組んでいかなければならない段階に来ている。

- 1) 大井田 隆. 厚生労働科学研究「未成年者の喫煙・飲酒状況に関する全国実態調査研究」平成 24 年度報告書.
- 2) Young K. Internet addiction: the emergence of a new clinical disorder. *Cyberpsychol Behav* 1: 237-244, 1998.
- 3) Moreno MA et al. Problematic Internet use among US youth: a systematic review. *Arch Pediatr Adolesc Med* 165: 797-805, 2011.
- 4) Durkee T et al. Prevalence of pathological Internet use among adolescents in Europe: demographic and social factors. *Addiction* 107: 2210-2222, 2012.
- 5) Kuss DJ et al. Internet addiction: a systematic review of epidemiological research for the last decade. *Curr Pharm Des* 20: 4026-4052, 2014.
- 6) Spada MM. An overview of problematic Internet use. *Addict Behav* 39: 3-6, 2014.



# 身近にひそむ ネット依存

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

インターネットに接続できる機器や手段が増え、中学生、高校生にとってインターネットが身近なものになってきている。しかし、インターネットへの過度の依存は、学校生活や日常生活、さらには健康に支障を来してしまうこともある。本教材では、このようないわゆる「ネット依存」と呼ばれる状態に陥ることを未然に防ぐために、健康や社会生活等を意識しながら、インターネットの適切な活用方法を考えさせる。

※「ネット依存」については11・12ページ参照。

### 指導観

インターネットにつながるパソコンや携帯電話、スマートフォン、ゲーム機、音楽プレイヤー等が普及し、これらの利用に多くの時間を費やし、勉強や生活に支障を来す生徒がおり、中には、自分からはやめることができない依存状態に陥る場合もある。

このような問題を自らのこととして捉え、インターネットの特性や心理的・身体的な影響を理解させることを通して、心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣を確立させるとともに、自分や仲間の健全な成長につながるインターネットの活用方法を考えさせる。

### 指導時のポイント・留意点

コンテンツの視聴や無料通話アプリ、SNS、オンラインゲーム等の利用により、1日中インターネットでのやりとりで夢中になるといった「ネット依存」の状態に陥ることがある。その結果、不登校になったり、日常生活に支障を来したりする弊害が起こりうる危険性を理解させ、生徒が主体的に判断し、適切にインターネットを活用できるよう指導する。

指導に当たっては、既にネット依存に近い状態の生徒がいる場合も考えられるので、危険性ばかりを過度に強調することなく、友達同士の関わりの中で適切な使い方を考えさせ、解決に向けての意欲を持たせることができるよう留意する。

情報機器との関わりは個人差が大きいいため、グループでの話合いや全体での意見発表を通し、各個人の体験や考えを共有させることが重要である。スマートフォンを所持していない生徒にも、やがては自分も関わる問題になり得ることを意識させ、適切な使い方を学んでおく大切さを理解させる。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、インターネットへの依存の度合いが大きいまさやさんの休日の様子を共感的に視聴させ、依存の状態やその弊害に気付かせる。

解説動画では、ネット依存の種類や特徴、ネット依存により引き起こされる様々な問題を確認させながら視聴させる。

**取扱い教科等**

## ① 主たる取扱い教科等

中学校

特別活動 学級活動 (2) オ 望ましい人間関係の確立

特別活動 学級活動 (2) キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

高等学校

特別活動 ホームルーム活動 (2) ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立

## ② ①以外の教科等での取扱い

中学校

保健体育（保健分野） (4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする

高等学校

情報 社会と情報 (3) 情報社会の課題と情報モラル

情報 情報の科学 (4) 情報技術の進展と情報モラル

**情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応**

## 「3.安全への知恵」

中学校

d4-1：安全性の面から、情報社会の特性を理解する

f4-1：健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる

高等学校

d5-1：情報社会の特性を意識しながら行動する

f5-1：健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる

**2 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案****本時の目標**

コンテンツの視聴や無料通話アプリ、SNS、オンラインゲーム等の利用により、1日中インターネットでのやりとりに夢中になり、ネット依存の状態に陥ってしまったときの弊害を理解させ、ネット依存に陥ることなく、適切にインターネットと関わるような自己管理の在り方について考え、実践できる態度を養う。

**授業実施前の準備・事前指導**

コンピュータ、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機等のインターネットに接続する機器の利用時間等について、平日と休日に分けて事前にアンケートを採り把握しておく。アンケート結果から、これらの機器の利用時間について、生徒がどのような認識を持っているか、やめたいのにやめられない状況に陥っていないかなどの自分たちの実態を把握させるとともに、自分がどのような状況にあるのか客観的に認識させる。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：10分〕</b></p> <p>1 事前アンケートの結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2時間以上インターネットを利用している人がいる</li> <li>・ネット依存だと思っている人がいる</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分や友達がネット依存にならないようにするためには、どのようにしたらよいか考えよう。</p> </div> <p><b>〔原因を追求する：13分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し、「なぜ手放せなくなったのか」、「今後の展開」について、ワークシートに書き、グループで話し合い、発表し、共有する。</p> <p><b>【なぜ手放せなくなったのか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を失いたくない</li> <li>・すぐに反応しないと相手に悪い</li> <li>・話題についていけなくなる</li> <li>・次から次へとクリアする目標がある（ゲーム）</li> <li>・対戦相手が待っている（ゲーム） …</li> </ul> <p><b>【今後の展開】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜逆転の生活になる</li> <li>・学校をやめることになるかもしれない</li> <li>・病気になる</li> <li>・就職ができなくなる</li> <li>・親ともめる</li> <li>・気付いてネットの利用をやめる …</li> </ul> <p><b>〔解決方法を考える：20分〕</b></p> <p>4 解説動画を視聴し、いわゆるネット依存と考えられるものの種類と問題点をワークシートに書く。</p> <p><b>【ネット依存】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツ依存 動画 …</li> <li>・つながり依存 SNS …</li> <li>・ゲーム依存 オンラインゲーム …</li> </ul> <p><b>【問題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体面 視力低下、運動不足 …</li> <li>・精神面 昼夜逆転、睡眠障害 …</li> <li>・学業面 成績低下、遅刻 …</li> <li>・経済面 浪費、他人のお金を盗む …</li> <li>・家族関係・対人関係 嘘をつく、家族への暴言 …</li> </ul> <p>5 自分や友達がネット依存に陥らないようにするためにすべきことをグループで話し合い、発表する。</p> <p><b>【自分のため】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規律を守る</li> <li>・時間を決めて使う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット依存について簡単に説明する。</li> <li>・インターネットを利用している時間が長い人がいることに気付かせる。特に、なぜ長いのか、なぜ短いのか、時間の使い方の違いを意識させる。利用時間が長ければ依存であるとは限らない。インターネット（スマホ）の使い方の違いによっても利用時間が変わってくることに注意したい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>&lt; 導入動画 &gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンが手放せなくなってしまったまさやさんのお話です。なぜ手放せなくなってしまったのか、今後の展開はどうなるのかを考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の気持ちになって考えることで、誰もがネット依存になる可能性があることに気付かせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット依存にはいろいろな種類があることに気付かせる。</li> <li>・ネット依存により引き起こされる問題を整理して、まとめる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを使わなければいいという短絡的な考えにとどまらないように、「インターネットに依存せずに便利な道具として使いこなす」観点で考えるように促す。</li> <li>・自分と友達の立場で、具体的に個人目標を決める。</li> </ul>

【友達のため】

- ・夜遅くまでやり取りしない
- ・直接会って会話する

〔個人目標を自己決定する：7分〕

6 発表した内容を参考にしながら、自分の実践目標をワークシートにまとめる。

- ・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

板書計画

### アンケート結果



#### 自分や友達がネット依存にならないようにするためには、どのようにしたらよいか考えよう

なぜ手放せなくなったのか	今後の展開
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を失いたくない</li> <li>・すぐに反応できないと相手に悪い</li> <li>・話題についていけない</li> <li>・次から次へとクリアする目標がある(ゲーム)</li> <li>・対戦相手が待っている(ゲーム)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜逆転の生活になる</li> <li>・学校をやめることになるかもしれない</li> <li>・病気になる</li> <li>・就職ができなくなる</li> <li>・親ともめる</li> <li>・気付いてネットの利用をやめる</li> </ul>

#### 依存しないために

**自分のため**

- ・規律を守る
- ・時間を決めて使う

**友達のため**

- ・夜遅くまでやり取りしない
- ・直接会って会話する

#### ネット依存

コンテンツ依存

動画 …

つながり依存

SNS …

ゲーム依存

オンラインゲーム …

#### ネット依存により引き起こされる問題

身体面	視力低下・運動不足・腰痛・骨密度低下・栄養の偏り・エコミークラス症候群等
精神面	昼夜逆転・睡眠障害・ひきこもり等
学業面	成績低下・遅刻・授業中の居眠り・留年・退学等
経済面	浪費・親や友達のお金を盗むなど
家族関係 対人関係	嘘をつく・家族への暴言・暴力・友人関係の悪化・リアルな友達を失うなど

独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター

事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。
- ②既にネット依存になっている生徒の場合、必要に応じて、医療機関、カウンセラー等の力を借りてネット依存から抜け出る方法を具体的に示す。その対応は、生徒の状態や状況によって異なり、「時間を守る」「約束を守る」だけでは、効果的な対応とならない場合がある。そのため、家庭での日常の過ごし方や、心身ともに健康な生活等について考える学習につなげたり、保護者や医療機関、カウンセラー等と連携して生活環境を変えさせたりするなど、継続的な指導を行う必要がある。

シナリオ・スライド → p.35

私の生活についてのアンケート

年 組 番 名前

1 インターネットの利用時間がどのくらいなのか振り返ってみましょう

	平日	休日
自分の利用時間	分	分

2 ネット依存とはどのような状態のことをいうのでしょうか。  
知っていることを書いてみましょう。

3 あなたのインターネット利用の仕方はどのような状態でしょうか。  
どちらかに○を付けてください。

- ネット依存だと思う
- ネット依存ではない

その理由



身近にひそむネット依存

年 組 番 名前

課題

--

1 なぜ手放せなくなったのでしょうか。また、今後の展開はどのようになるのでしょうか。

<p>なぜ手放せなくなったのか</p> <div style="text-align: center;">  <p>まさやさん</p> </div>	<p>今後の展開</p>
---	--------------

2 ネット依存の種類と問題点についてまとめてみましょう。

ネット依存の種類	問題点

3 自分や友達がネット依存にならないために自分ができるところを書きましょう。

<p>自分がネット依存にならないために</p>	<p>友達がネット依存にならないために</p>
-------------------------	-------------------------

学んだことを保護者に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

<p>保護者からの言葉</p>
-----------------

## 教材3 ネット被害（小5～中1）

# そのページ，確認 しなくて大丈夫？

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

無料を装って個人情報を取得するウェブサイトやアプリでトラブルに巻き込まれる児童生徒がいる。本教材では、インターネット上には、無料を装って個人情報を取得するウェブサイトやアプリが存在することを理解させ、安全に賢くインターネットを利用する態度を育てる。

### 指導観

インターネット上には無料であることをアピールするゲームや占い等のウェブサイトやアプリがある。しかし、無料と引き換えに、氏名や住所、電話番号等の個人情報を提供させ、勧誘の電話がかかってきたり、迷惑メールが届いたり、有料のアイテムに誘導されて高額なお金を請求されたりするなどの被害に遭う児童生徒も少なくない。

無料には意味があることや、電話やメールの勧誘、高額請求等の被害に遭った場合の対処法等について理解を深め、被害に遭わないためにはインターネットをどのように活用すればよいのかを考えさせる。

### 指導時のポイント・留意点

導入動画の事例を基に、問題点や対策をグループで考えさせる。この際、危険を予測して事前に備えるといった視点を持たせる。

特に、「無料」の占いやゲームだからといって、自分や友達、家族等の個人情報を入力すると、悪用されることがあることや簡単には削除することができないことなどを理解させる。

また、安全に賢くインターネットを活用できるようにするとともに情報を正確に把握し、よく考えて利用できるような態度を育てる。自分では正しく判断できないような場合には、保護者や教員に相談して、安全にインターネットを利用するよう指導する。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、個人情報を書き込んでしまったあかねさんとしょうたさんの問題点を整理するとともにどのようにすればよかったのかについて、考えさせながら視聴させる。

解説動画では、入力した個人情報がどのように使われる可能性があるのかを理解させる。安全にインターネットを利用するためには、表示されている情報を正確に把握し、正しい判断を行う必要があるということを意識させながら視聴させる。

### 取扱い教科等

#### ① 主たる取扱い教科等

小学校

特別活動 学級活動 (2) カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

中学校

特別活動 学級活動 (2) キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

## ② ①以外の教科等での取扱い

小学校

社会 (4) イ 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり

中学校

技術・家庭(技術分野) D 情報に関する技術

エ 情報に関する技術の適切な評価・活用について考えること

## ③ ②の教科等での取扱いのポイント

小学校 社会(4) イ 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり でインターネットの有用性や影の部分の具体例として取り上げて理解させたり、中学校 技術・家庭(技術分野) D 情報に関する技術 で、情報の収集、整理、発信等でのインターネット利用のルールやマナー、危険性を理解させたりする場面で活用する。

## 情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応

## 「1. 情報社会の倫理」

小学校 a3-1：他人や社会への影響を考えて行動する

中学校 a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する

## 「2. 法の理解と遵守」

小学校 c3-3：契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わない

中学校 c4-1：違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない

## 「3. 安全への知恵」

小学校 d3-1：予測される危険の内容がわかり、避ける

中学校 d4-1：安全性の面から、情報社会の特性を理解する

d4-2：トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る

## 2 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

## 本時の目標

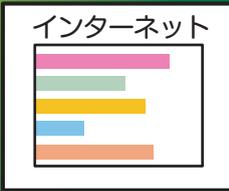
無料を装って個人情報を取得するウェブサイトやアプリが存在することを理解させることを通して、安全に賢くインターネットを活用しようとする態度を養う。

## 授業実施前の準備・事前指導

インターネットのウェブサイトやアプリに個人情報を書き込んだこと、アプリをダウンロードしたことなどについて、アンケートによる実態調査を事前に実施し、互いの経験を共有させる。また、朝の会や帰りの会等の時間を利用して、無料で配られているティッシュの見本や無料のウェブサイトをプリントアウトしたものを児童生徒に示し、無料で渡すという行為に対して渡す立場の意図等を事前に考えさせておく。このことによって、より実感を伴って教材のねらいに迫っていけるようにする。

学習活動	指導のポイント
<p><b>[課題をつかむ：7分]</b></p> <p>1 事前アンケートの結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報を書きこんだ人がある</li> <li>・アプリをダウンロードした人がある</li> <li>・迷わくメールがとどいて、こまった人がある</li> </ul> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>無料のウェブサイトやアプリの利用の仕方を考えよう。</p> </div> <p><b>[原因を追求する：小学校 18分，中学校 20分]</b></p> <p>3 導入動画を視聴し，トラブルが起きた問題点とどのようにすれば良かったかをワークシートに書き，発表する。</p> <p><b>【あかねさん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料でうらなってもらった</li> <li>・安心だと信じた</li> <li>・個人情報を書きこんだ</li> <li>・親に相談しなかった</li> </ul> <p><b>【しょうたさん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全なアプリだと信じた</li> <li>・許可するけん限を与えた</li> <li>・個人情報を書きこんだ</li> <li>・親に相談しなかった</li> </ul> <p>4 どのようにすれば良かったのか，グループで話し合い，学級で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全を確にんする</li> <li>・安易に個人情報を書きこまない</li> <li>・親に相談する</li> </ul> <p>5 解説動画を視聴し，トラブルを予防する方法について確認する。</p> <p><b>[解決方法を考える：小学校 12分，中学校 15分]</b></p> <p>6 トラブルに巻き込まれないためには，インターネットをどのように使ったらよいか考え，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の使われ方を確にんする</li> <li>・利用規約を確にんする</li> <li>・アプリに許可するけん限を確にんする</li> <li>・フィルタリングを活用する</li> <li>・無料の目的を考える</li> <li>・無料という言葉に引っかからない</li> </ul> <p><b>[個人目標を自己決定する：8分]</b></p> <p>7 発表の内容を参考にしながら，自分の実践目標をワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの長所について取り上げ，便利な道具であることを再認識させる。</li> <li>・無料をキーワードに，利用状況や無料という言葉が持つ魅力について考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;導入動画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報を書き込んでしまったあかねさんとしょうたさんのお話です。トラブルが起きた問題点とどうすればよかったのかを考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルに巻き込まれない予防処置について考えさせる。</li> <li>・必要に応じて，カードや付箋を使ったり，意見を集約するためにホワイトボード等の道具を活用したりする。</li> </ul> <p>・グループで話し合った意見を整理しながら，必要に応じて解説動画につながるように説明する。</p> <p>・無料の仕組みについては，日常生活の身近な無料のものも取り上げ，理解を深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親に相談する，安易に個人情報を書き込まないなど，情報社会における自分の責任や義務について考え，適切に行動することを押さえる。</li> <li>・安易に個人情報を書き込まないよう具体的な場面を挙げながら発表させる。</li> <li>・無料の意味を確認し，その目的をよく考えて利用するというを理解させる。</li> </ul> <p>・ワークシートを持ち帰り，学校だけの学習で終わらせるのではなく，学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。</p>

無料のウェブサイトやアプリの利用の仕方を考えよう



安全を確にんする  
安易に個人情報を書き  
こまない  
親に相談する

トラブルに巻きこまれない  
ようにするには？

- ・個人情報の使われ方を確にんする
- ・利用規約を確にんする
- ・アプリに許可するけん限を確にんする
- ・フィルタリングを活用する
- ・無料の目的を考える
- ・無料という言葉に引っかからない

あかねさん ↑ しょうたさん



問題点

- ・無料でうらなってもらった
- ・安心だと信じた
- ・個人情報を書きこんだ
- ・親に相談しなかった
- ・安全なアプリだと信じた
- ・許可するけん限をあたえた
- ・個人情報を書きこんだ
- ・親に相談しなかった

無料と言っておきながら  
後からもうけようとしている

事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。
- ②朝の会や帰りの会等で、実際の被害事例を紹介しながら理解を深めさせ、インターネットを安全に賢く使うことができるよう、実践の継続を図る。

シナリオ・スライド → p.36

わたしの生活についてのアンケート

年 組 番 名前

---

1 インターネットに接続でき、自分で使うことができる機器が家にありますか。  
当てはまるもの全てに○を付けてください。

- ゲーム機（通信機能付き）
- スマートフォン
- けい帯電話
- タブレット端末
- 音楽プレイヤー
- パソコン
- その他 インターネットに接続できる機器を具体的に書いてください。

インターネットは利用していない

2 インターネットを利用するルールを決めていますか。どちらかに○を付けてください。

決めている       決めていない

3 あなたは、これまでにインターネットのウェブサイトに、個人情報（名前や電話番号、郵便番号、メールアドレス等）を書き込んだことがありますか。どちらかに○を付けてください。

ある       ない

4 あなたはこれまでに、アプリ等をダウンロードしたことがありますか。

どちらかに○を付けてください。

ある       ない

5 アプリ等をダウンロードするときに、名前や電話番号、郵便番号、メールアドレスを入力したことがありますか。どちらかに○を付けてください。

ある       ない

6 メールを受信したとき、迷わくメールがとどいて困ったことがありますか。

どちらかに○を付けてください。

ある       ない



そのページ, 確にんしなくて大じょう夫?

年 組 番 名前

課題

--

1 トラブルが起きた問題点を書いてみましょう。

あかねさん		しょうたさん	
-------	---	--------	---

2 どのようにすればよかったのでしょうか。

--

3 トラブルに巻きこまれないために, これから自分がインターネットをどのように使うか書きましょう。

--

学んだことを家の人に伝えて話し合い, 意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉

--

# ネット詐欺などに巻き込まれないようにするために

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

インターネット上で、内容をよく確認しないで個人情報を書き込んだり、お金を支払ったりすると、ネット詐欺や不正請求等のトラブルに巻き込まれることがある。本教材では、ネット詐欺と不正請求の事例を基に、その問題点や安全に利用するためにはどのようにしたらよいかを考えさせ、インターネットを安全に利用できるようにするために必要な判断力を育てる。

### 指導観

インターネット上には売買掲示板等と称し、ゲームや漫画、イベントのチケット等の売買を目的としたウェブサイトがある。これらを悪用した詐欺や不正行為等の被害に、生徒が遭ってしまうトラブルが起こっている。

このような売買を目的とした掲示板やオークションサイト、インターネットショッピング及びコンテンツの利用等に関する問題点を理解させ、ネット詐欺や不正請求等のトラブルに巻き込まれないために必要な判断力を育てる。

### 指導時のポイント・留意点

インターネットショッピングや通信販売は、時間を気にせず買物ができたり、多くの商品の中から選ぶことができたりするなど、利便性が高く、消費生活を豊かにする光の部分がある。一方、インターネットショッピング等においては、ネット詐欺や不正請求等といった影の部分があることも意識させる必要がある。このような光と影の両面に留意し、インターネットショッピング等で表示される情報の信頼性の確認方法や、安全な利用をするために心がけること等を理解させる。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画には、ネット詐欺と不正請求に関する2つのトラブルの事例がある。トラブルに巻き込まれてしまった原因（問題点）と今後どのようになるかを考えさせながら視聴させる。

解説動画では、ネット詐欺と不正請求に共通する問題点、契約に関する知識や情報技術の特性、被害の拡大を防ぐ対処方法について解説している。今後インターネットショッピング等を利用していく際に、どのようなことに気を付ければよいか考えさせながら視聴させる。

### 取扱い教科等

#### ① 主たる取扱い教科等

中学校

技術・家庭（家庭分野） D 身近な消費生活と環境

高等学校

家庭 家庭基礎 (2) 生活の自立及び消費と環境

家庭 家庭総合 (3) 生活における経済の計画と消費

#### ② ①以外の教科等での取扱い

中学校

社会（公民的分野） 私たちと現代社会、私たちと経済

## 高等学校

公民	現代社会	(1) 私たちの生きる社会
家庭	生活デザイン	(2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立
情報	社会と情報	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション
情報	社会と情報	(3) 情報社会の課題と情報モラル
情報	情報の科学	(1) コンピュータと情報通信ネットワーク
情報	情報の科学	(4) 情報技術の進展と情報モラル

**情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応**

## 「2. 法の理解と遵守」

中学校 c4-3：契約の基本的な考え方を知り，それに伴う責任を理解する

高等学校 c5-3：契約の内容を正確に把握し，適切に行動する

## 「3. 安全への知恵」

中学校 d4-2：トラブルに遭遇したとき，主体的に解決を図る方法を知る

e4-1：情報の信頼性を吟味できる

e4-2：自他の情報の安全な取り扱いに関して，正しい知識を持って行動できる

高等学校 d5-2：トラブルに遭遇したとき，さまざまな方法で解決できる知識と技術を持つ

e5-1：情報の信頼性を吟味し，適切に対応できる

e5-2：自他の情報の安全な取り扱いに関して，正しい知識を持って行動できる

## 「4. 情報セキュリティ」

中学校 g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける

高等学校 g5-1：情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ，適切な行動ができる

## 2 モデル指導案：技術・家庭（家庭分野）学習指導案

**本時の目標**

インターネット上での契約や個人情報を入力する際に，トラブルに巻き込まれないようにするための注意点を理解させ，トラブルに巻き込まれたときに解決を図るための判断力を養う。

**授業実施前の準備・事前指導**

インターネットショッピングの利用状況及びトラブルの遭遇状況について，事前にアンケートを採っておく。

また，ネット詐欺・不正請求，不正アクセス等について，インターネットや文献，新聞等を用いて，実態や原因と対策について調べさせる。

学習活動	指導のポイント
<p><b>[導入：10分]</b></p> <p>1 インターネットショッピング利用についてのアンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットショッピングをした人がいる</li> <li>・トラブルに遭った人もいる</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ネット詐欺や不正請求を回避するには、どのようにしたらよいのか考えよう。</p> </div> <p><b>[展開：20分]</b></p> <p>3 導入動画を視聴し、それぞれの行動の問題点とこの後の展開について、考えたことをワークシートに書く。その後、グループで話し合い、学級で共有する。</p> <p><b>【問題点（ゆきさん、めぐみさん）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい情報が確かめない</li> <li>・個人情報を知らせた</li> <li>・クレジットカード番号を知らせた</li> </ul> <p><b>【今後（ゆきさん、めぐみさん）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あやしいメールが届く</li> <li>・不正請求が届く</li> <li>・催促電話がかかる</li> </ul> <p><b>【問題点（みなみさん）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい情報が確かめない</li> <li>・個人情報を知らせた</li> <li>・お金を振り込んだ</li> </ul> <p><b>【今後（みなみさん）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退会できない</li> <li>・不正請求が届く</li> <li>・催促電話がかかる</li> </ul> <p><b>[終末：20分]</b></p> <p>4 解説動画を視聴し、トラブルに巻き込まれないようにするために知っておきたい知識を整理する。</p> <p><b>【契約に関する知識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JADMA（ジャドマ）マーク、オンラインマークを確かめる</li> <li>・利用規約をきちんと読む</li> <li>・エスクローサービスを利用する</li> </ul> <p><b>【情報技術の特性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暗号化通信技術 https, URL（ドメイン）を確認する</li> <li>・セキュリティソフトを利用する</li> </ul> <p>5 トラブルや被害に遭ったときどのように対応するかをワークシートにまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に相談する</li> <li>・警察に届ける</li> <li>・消費生活センターに相談する</li> <li>・人権関係の相談窓口相談する</li> <li>・被害の拡大防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なところでインターネットショッピングをしている人がいることに気付かせる。インターネットショッピングの便利さにも触れる。</li> <li>・ネット詐欺や不正請求で被害に遭う人がいることを伝え、本時の課題につなぐ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>&lt;導入動画&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット詐欺や不正請求のトラブルに遭ったゆきさんとめぐみさん、みなみさんのお話です。問題点とこの後の展開を考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルは1回で終わらず、次々と続くことがあることを考えさせる。また、できるだけ多くのトラブルが発生する可能性について考えさせる。</li> <li>・正しい情報が確かめない、簡単に個人情報を知らせたといった共通点があることに気付かせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解説動画を見ながらキーワードでまとめる。契約に関する知識、情報技術の特性は、資料を掲示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>JADMA マーク、オンラインマーク、エスクローサービス、暗号化通信技術、https, URL, セキュリティソフトについては、37 ページ教材 4 シナリオ・スライド参照</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットショッピングやコンテンツ利用には危険が付きまとう。便利さだけでなく、危険性や、安全な利用方法について理解し、よりよい消費行動がとれるよう意識させる。</li> </ul>

- ・ワークシートを持ち帰り，学校だけの学習で終わらせるのではなく，学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

## 板書計画

### ネット詐欺や不正請求を回避するためには、どのようにしたらよいのか考えよう

#### アンケート結果

ネットショッピング

ある	■
ない	■

- ・ネットショッピングをした人がいる
- ・トラブルに遭った人もいる

ゆきさん めぐみさん	みなみさん
<p><b>問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい情報が確かめない</li> <li>・個人情報を知らせた</li> <li>・クレジットカード番号を知らせた</li> </ul>	<p><b>問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい情報が確かめない</li> <li>・個人情報を知らせた</li> <li>・お金を振り込んだ</li> </ul>
<p><b>今後</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あやしいメールが届く</li> <li>・不正請求が届く</li> <li>・催促電話がかかる</li> </ul>	<p><b>今後</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退会できない</li> <li>・不正請求が届く</li> <li>・催促電話がかかる</li> </ul>

#### 契約に関する知識

(ジャドマ)  
**JADMAマーク**



オンラインマーク



利用規約

Eスクローサービス



#### 情報技術の特性

SSL 暗号化 (https://) を確認する

**暗号化通信技術**

URL (ドメイン) を確認する

セキュリティソフトを導入する

#### トラブルが起きたら

- ・保護者に相談する
- ・警察に届ける
- ・消費生活センターに相談する
- ・人権関係の相談窓口  
に相談する
- ・被害の拡大防止

教材 4

## 事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し，学んだことを振り返らせる。
- ②契約とクーリングオフについて知り，インターネットショッピングがクーリングオフの対象とならないことを理解させる。(中学校 / 技術・家庭)
- ③契約成立によって生じる権利と責任を理解させる。(中学校 / 技術・家庭)
- ④消費者基本法及び消費者保護に関する施策を理解させる。(中学校 / 技術・家庭) (高等学校 / 家庭)
- ⑤販売方法の特性とその対応方法を理解させ，安全で豊かな消費生活の実現を図る。(中学校 / 技術・家庭)

シナリオ・スライド → p.37

75

私のネットショッピング利用についてのアンケート

年 組 番 名前

---

- 1 あなたはインターネットショッピングを利用したことがありますか。  
どちらかに○を付けてください。

( ) ある ( ) ない

- 2 ネットショッピングを利用したことがある人は利用した理由、利用したことがない人は利用したことがない理由を書いてください。

- 3 ネットショッピングはどのようなところが便利だと思うかを書いてください。

- 4 ネットショッピングで自分がトラブルに遭ったり、ニュース等でトラブルを聞いたりしたことがあれば、書いてください。



ネット詐欺などに巻き込まれないようにするために

年 組 番 名前

課題

1 ネット詐欺や不正請求のトラブルに遭った、ゆきさんとめぐみさん、みなみさんの行動の問題点と、この後の展開について考えてみましょう。

問題点	ネット詐欺	 ゆきさんとめぐみさん	不正請求	 みなみさん
	今後			

2 トラブルや被害に遭ったとき、どのように対応すればよいでしょう。

学んだことを保護者に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

保護者からの言葉

教材  
4

# 軽い気持ちのID交換から…

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

児童生徒がインターネットに関連したトラブルや犯罪に巻き込まれる事案が後を絶たない。本教材では、インターネット上で見知らぬ人とやり取りすることの危険性や、写真や個人情報を安易に提供することの危険性を理解させ、安全にインターネットを利用しようとする態度を身に付けさせる。

### 指導観

児童生徒が出会い系サイトやコミュニティサイト等で見知らぬ人と知り合い、トラブルや犯罪に巻き込まれる事案が続いている。また、性的な写真や動画の流出による被害も後を絶たない。深刻な犯罪に巻き込まれた児童生徒が利用していた機器は、スマートフォンであることが多いが、本教材の対象である中学生1年生以下の利用が比較的多い音楽プレイヤーや携帯ゲーム機にも、今日ではインターネットに接続できる機能があり、同様の危険性がある。

本教材では、携帯ゲーム機での事例を取り上げ、児童生徒に身近な問題であることを意識させながら、携帯電話やスマートフォンの所有率が上がる前に、インターネット共通の問題として、見知らぬ人とやり取りすることや、写真や個人情報を安易に提供することの危険性を理解させ、安全にインターネットを利用しようとする態度を身に付けさせる。

### 指導時のポイント・留意点

気軽に使用しているゲーム機等でも、使い方によっては、怖い思いをすることに気付かせた上で、そのような状況になってしまう原因を明らかにし、自分自身が今後どのように行動していくべきかを考えさせる。

特に、写真や個人情報を安易に提供することは、意図しない形でインターネット上での公開や、予想外の個人情報の流出につながることで、インターネット上に公開された写真は、世界中の人から見られる可能性があり、容易に消すことができないことを理解させることが大切である。

また、インターネット上では見知らぬ人でも簡単に信用してしまい、個人情報を提供してしまう危険性があることにも気付かせ、トラブルに遭った場合の解決方法について理解させることも必要である。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、携帯ゲーム機の通信機能を通して知り合った人からの要求が次第にエスカレートし、最終的には脅迫めいた内容が送られてきてしまうという被害に至る過程を共感的に視聴させる。

解説動画では、被害に遭わないための方法、被害に遭った場合の対処法の説明をしており、安全にインターネットを利用する態度の育成につながる事項について、確認しながら視聴させる。

### 取扱い教科等

① 主たる取扱い教科等

小学校

特別活動 学級活動 (2) ウ 望ましい人間関係の形成

中学校

特別活動 学級活動 (2) オ 望ましい人間関係の確立

② ①以外の教科等での取扱い

中学校

技術・家庭（技術分野） D 情報に関する技術

**情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応**

「3. 安全への知恵」

小学校 d3-1：予測される危険の内容がわかり，避ける

d3-2：不適切な情報であるものを認識し，対応できる

e3-2：自他の個人情報を，第三者にもらさない

中学校 d4-1：安全性の面から，情報社会の特性を理解する

d4-2：トラブルに遭遇したとき，主体的に解決を図る方法を知る

e4-1：情報の信頼性を吟味できる

e4-2：自他の情報の安全な取り扱いに関して，正しい知識を持って行動できる

## 2 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

**本時の目標**

インターネット上で知り合った見知らぬ人と安易に ID 交換することの危険性や，安易に写真や個人情報を提供することの危険性に気付かせることを通して，安全にインターネットを利用しようとする態度を養う。

**授業実施前の準備・事前指導**

ゲーム機やスマートフォン等の利用状況，インターネットに関連したトラブルや犯罪，それらへの対応に関して知っていることなどについて，事前にアンケートを実施し把握しておく。結果は，表やグラフにまとめ，授業の導入部分で，インターネットの利用が具体的にどのような危険につながる可能性があるかを意識させ，今後どのように使っていくべきかを考えるきっかけとして利用する。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：7分〕</b></p> <p>1 アンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット上で知り合った人にゆうかいされた</li> <li>・知らない人とメールをしない</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>インターネットを利用する際、トラブルや犯罪に巻き込まれないようにするにはどのようにしたらよいか考えよう。</p> </div> <p><b>〔原因を追求する：小学校 20分，中学校 23分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し，怖いと感じたところ，怖いと感じた理由をワークシートに書き，全体で共有する。</p> <p><b>【こわいと感じたところ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の女の子だと思ったのに大人だった</li> <li>・インターネットのけい示板に写真をはられた</li> <li>・友達の写真を要求された</li> <li>・写真を悪まに変えられた</li> <li>・カタツムリが本名を知っていた</li> </ul> <p><b>【こわいと感じた理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だまされていたから</li> <li>・たくさんの人に写真を見られてしまうから</li> <li>・写真が消せないから</li> <li>・ほかにも要求されるかもしれないから</li> <li>・ほかにも何かされるかもしれないから</li> <li>・ほかにも何か知っているかもしれないから</li> </ul> <p>4 けいこさんがトラブルに巻き込まれてしまった原因をワークシートに書き，グループで話し合い，全体で共有する。</p> <p><b>【なぜまきこまれてしまったか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタツムリをかん単に信用したから</li> <li>・よく考えずにIDを交かんしたから</li> <li>・写真を送ってしまったから</li> <li>・大人に相談しなかったから</li> </ul> <p>5 解説動画を視聴し，3で確認したこわいと感じた場面とその理由，4で確認したトラブルに巻き込まれてしまった原因について，解説動画からわかったことを発表する。</p> <p><b>〔解決法を考える：小学校 10分，中学校 12分〕</b></p> <p>6 インターネット上でやり取りするときに，どのようなことに気を付けたらよいか考え，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット上で知り合った人をつかん単に信用しない</li> <li>・自分の写真や個人情報をつかん易に送らない</li> <li>・他人の写真を勝手に送らない</li> <li>・こまったときはすぐに相談する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果をグラフ化して提示する。</li> <li>・危険性について知っていることを全体で確認し，本時の導入につなげる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>&lt; 導入動画 &gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けいこさんがゲーム機の通信機能で知り合った相手とのやり取りで怖い思いをしたお話です。怖いなあと感じた場面やどうして被害に遭ってしまったのかに注目して見てみましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人にだまされた，写真を悪魔に変えられたなど，導入動画から直接的に感じる危険性だけでなく，児童生徒によっては，余り危険性を感じられない場面でも更に大きな危険につながっていくことに気付かせる。</li> <li>・児童生徒の発達の段階や実態によっては，解説動画を見た後の発表に時間を割いてもよい。</li> <li>・けいこさんがトラブルに巻き込まれてしまった原因を考えさせ，解説動画視聴時の理解につなげる。</li> <li>・発表された意見は，まとめた部分に追記していく。</li> <li>・何が危険なことか，なぜ危険に遭遇してしまうのか，遭遇しないためにはどうしたらよいかをそれぞれ理解させる。</li> <li>・だまされる手口も認識させる。</li> <li>・学習した内容を，自分の言葉でまとめさせる。</li> <li>・動画教材のまとめ部分を黒板に掲示してもよい。</li> <li>・トラブルへの対処については，自分勝手な判断をせず，できる限り早く保護者や学校の先生等に相談することを強調する。</li> </ul>

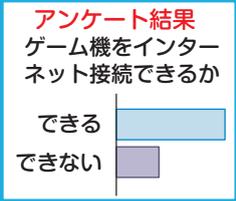
〔個人の目標を自己決定する：8分〕

7 発表の内容や教師のまとめを参考にしながら、これから自分が気を付けることをワークシートにまとめる。

- ・被害者の多くが、危険性を分かっていたが「自分は大丈夫」と思って被害に遭っている実態を知らせる。
- ・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

板書計画

インターネットを利用する際、トラブルや犯罪に巻き込まれないようにするにはどのようにしたらよいか考えよう



こわいと感じたところ	こわいと感じた理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の女の子だと思ったのに大人だった</li> <li>・インターネットのけい示板に写真をはられた</li> <li>・友達の写真を要求された</li> <li>・写真を悪まに変えられた</li> <li>・カタツムリが本名を知っていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だまされていたから</li> <li>・たくさんの人に写真を見られてしまうから</li> <li>・写真が消せないから</li> <li>・ほかにも要求されるかもしれないから</li> <li>・ほかにも何かされるかもしれないから</li> <li>・ほかにも何か知っているかもしれないから</li> </ul>



**なぜまきこまれてしまったか**

- ・カタツムリをかん単に信用したから
- ・よく考えずに ID を交かんしたから
- ・写真を送ってしまったから
- ・大人に相談しなかったから

**どのようなことに気を付けたらよいか**

- ・インターネット上で知り合った人をかん単に信用しない
- ・自分の写真や個人情報を安易に送らない
- ・他人の写真を勝手に送らない
- ・こまったときはすぐに相談する

事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。
- ②朝の会や帰りの会等で、実際の被害事例を紹介しながら、写真や個人情報の安易な提供の危険性の理解を深めさせ、インターネットを安全に使うことができるよう指導を続ける。

シナリオ・スライド → p.38

インターネットの利用に関するアンケート

年 組 番 名前

1 家庭でインターネットを使うとき、どのような機器を使っていますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン       けい帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレットたん末  
 その他

インターネットは利用していない

2 ゲーム機を持っている場合、ゲーム機はインターネット接続できますか。当てはまるものに○を付けてください。

- はい  
 いいえ  
 わからない

3 インターネットは便利なものですが、使い方をまちがえるとあぶないこともあります。あぶないことについて、ニュースで聞いた話等、知っていることを書いてください。

4 「3」のようなあぶない目にあわないように、インターネットを使うときに、どのようなことに気を付けていますか。



軽い気持ちのID 交かんから…

年 組 番 名前

---

課題

1 こわいと感じたところはどこですか。それはどうしてですか。

こわいと感じたところ	こわいと感じた理由

2 けいこさんはなぜトラブルにまきこまれてしまったのでしょうか。

3 インターネット上でやり取りするとき、これから自分が気を付けることを書きましょう。

学んだことを家の人に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉

# 写真や動画が流出する 怖さを知ろう

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

近年、性的な写真や動画がインターネット上に流出する事案が続いている。本教材は、生徒がこのようなトラブルや犯罪の被害者にも加害者にもならないようにするために、事態を深刻にするインターネットの特性について理解させ、危険を予測し身を守ろうとする態度と、情報に関する他者の権利を尊重しようとする態度を身に付けさせる。

### 指導観

近年、元交際相手等の性的な写真や動画を、嫌がらせや復しゅう目的で公表するいわゆるリベンジポルノ等、性的な写真や動画がインターネット上に流出する事案が続いている。写真や動画が公表された被害者の精神的な苦痛は甚大であり、生徒に、このような危険から身を守ろうとする態度を身に付けさせる必要がある。

また、スマートフォン等の普及に伴い、手軽に写真や動画をインターネット上に投稿することができるようになったために、生徒がトラブルや犯罪に加害者として関わってしまう可能性も大きくなっている。そのために、加害者にならないよう、情報に関する他者の権利を尊重する態度を身に付けさせることも大切である。

性的な写真や動画の流出の被害の多くは、男女交際のトラブルが原因となっているが、より多くの生徒が身近な問題として捉えられるように、本教材では、友人関係のトラブルから、恥ずかしい写真が流出するという事例を取り扱っている。生徒に自分自身にも起こり得る問題であることを意識させながら、このような問題が起きてしまった原因や、どのように行動すべきであったかを考えさせることを通して、事態を深刻にするインターネットの特性を理解させるとともに、被害者にも加害者にもならないようにしていこうとする態度を身に付けさせる。

### 指導時のポイント・留意点

性的な写真や動画をインターネット上に投稿する行為は、「刑法」や「児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律（児童ポルノ禁止法）」、「私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律（リベンジポルノ防止法）<sup>※</sup>」等によって罰せられる可能性がある。生徒の発達段階に応じて、具体的な法律名や罰則を伝えたり、新聞記事等で報じられた事例を取り上げたりすることによって、このような行為の罪の重さを認識させることも考えられる。

なお、「リベンジポルノ」という言葉をインターネットで検索すると、不適切なウェブサイトにつながるなど、本教材の内容は、取扱いによっては不適切な指導につながるおそれもあるため、十分な配慮が必要である。

※「私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律」の通称は、「リベンジポルノ防止法」であるが、性的な画像を公開したり提供したりする行為は、いわゆるリベンジポルノの事由でなくとも、法による処罰の対象となり得ることに留意すること。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、どのような点が問題であったか、それぞれの登場人物はどのように行動すべきだったかを考えさせながら視聴させる。登場人物が多いため、写真を黒板に貼り確認するなど、生徒が話の展開をつかみ、自分自身にも起こり得る問題であることを意識できるよう工夫する。

解説動画では、事態を深刻にするインターネットの特性や、このような事案を防止するための法律があること、写真や動画の流出の被害に遭わないための考え方等について解説しており、被害者にも加害者にもならないようにしていこうとする態度の育成につながる事項について、確認しながら視聴させる。

## 取扱い教科等

### ① 主たる取扱い教科等

中学校	特別活動	学級活動 (2) ウ	社会の一員としての自覚と責任
	特別活動	学級活動 (2) オ	望ましい人間関係の確立
高等学校	特別活動	ホームルーム活動 (2) ウ	社会生活における役割の自覚と自己責任
	特別活動	ホームルーム活動 (2) オ	コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立

### ② ①以外の教科等での取扱い

中学校	社会（公民的分野）(1) 私たちと現代社会
	技術・家庭（技術分野） D 情報に関する技術
高等学校	公民 現代社会 (1) 私たちの生きる社会
	情報 社会と情報 (3) 情報社会の課題と情報モラル
	情報 情報の科学 (4) 情報技術の進展と情報モラル

### ③ ②の教科等での取扱いのポイント

本教材には、インターネットの特性を踏まえた情報モラルについての内容が含まれる。そこで、中学校 技術・家庭（技術分野）の「D 情報に関する技術」や 高校教科 情報 等の学習活動と関連させることでより効果的に利用することもできる。

また、本教材には、現代社会の影の部分が色濃く出ているため、中学校 社会（公民的分野）「(1) 私たちと現代社会」や 高等学校 現代社会「(1) 私たちの生きる社会」で取り上げることで、理解を深めることが可能である。

## 情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応

### 「1. 情報社会の倫理」

中学校	b4-1：個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する
高等学校	b5-1：個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する

### 「2. 法の理解と遵守」

中学校	c4-1：違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない
	c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る
高等学校	c5-1：情報に関する法律の内容を積極的に理解し、適切に行動する
	c5-2：情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する

### 「3. 安全への知恵」

中学校	d4-1：安全性の面から、情報社会の特性を理解する
	d4-2：トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る
高等学校	d5-1：情報社会の特性を意識しながら行動する
	d5-2：トラブルに遭遇したとき、さまざまな方法で解決できる知識と技術を持つ

## 2 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

### 本時の目標

性的な写真や動画がインターネット上に流出する事案について、このような問題が起きてしまった原因や、どのように行動すべきであったかを考えさせることを通して、事態を深刻にするインターネットの特性を理解させるとともに、被害者にも加害者にもならないようにしていこうとする態度を養う。

### 授業実施前の準備・事前指導

インターネットを利用している機器や、写真や動画の投稿等の経験の有無、投稿に関するトラブルや犯罪について知っていることを事前にアンケートを実施し把握しておく。結果は、表等にまとめ、授業の導入部分で、写真や動画が流出するとどのようなことになるかを意識させ、トラブルや犯罪に巻き込まれないためにどうしたらよいか考えるきっかけとして利用する。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：7分〕</b></p> <p>1 アンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の写真を投稿するときは、許可を得るようにしている</li> <li>・不適切な写真をネット上に公開した人が逮捕された</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>写真や動画が流出するトラブルや犯罪に巻き込まれないためにどのようにしたらよいか考えよう。</p> </div> <p><b>〔原因を追求する：27分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴して、導入事例の問題点と、それぞれの登場人物がどのように行動すればよかったのかを、ワークシートに書き、グループで話し合い、全体で共有する。</p> <p><b>【問題点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まみさんが、よく考えずに写真を送った</li> <li>・まみさんが、自分が悪いことをわかっていなかった</li> <li>・なおさんが、写真をその場で消させなかった</li> </ul> <p><b>【まみ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写った時点で削除する</li> <li>・陰湿なことをしない</li> </ul> <p><b>【りさ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写されていないか確認する</li> <li>・すぐに大人に相談する</li> </ul> <p><b>【なお】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を消させる</li> </ul> <p><b>【きよみ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷静に注意する</li> <li>・すぐに大人に相談する</li> </ul> <p><b>【SNSの仲間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はやし立てない</li> <li>・あちこちに拡散しない</li> </ul> <p>4 解説動画を視聴し、事態が深刻になる原因となったインターネットの特性についてまとめる。</p> <p>(公開性)：全世界に公開される可能性がある</p> <p>(記録性)：一度発信した情報を全て消し去ることはできない</p> <p><b>〔解決法を考える：8分〕</b></p> <p>5 今後、写真や動画のやりとりをする際にトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするために、どのようなことに気を付けたらよいか考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしい写真や動画は、撮らない・撮らせない・送らない</li> <li>・SNS等で知り合った人に安易に写真や動画を送らない</li> <li>・危険を感じたら被害に遭う前に相談する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果はグラフや表で示す。</li> <li>・生徒の発達の段階に応じて、新聞記事等によって、問題の深刻さを認識させることもできる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>&lt;導入動画&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人の登場人物の中で写真をめぐって起こるトラブルの話です。4人それぞれの生徒の様子と問題点を考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達がトラブルに巻き込まれず、情報を安全に利用するためには、どうしたらよいかを考えさせる。</li> <li>・登場人物が多いので写真を黒板に貼るなどして混乱しないようにする。</li> <li>・性的な写真や動画の流出という問題が身近なものとしてとらえられない生徒にも、簡単にインターネット上に写真や動画が投稿できるようになった今日において、自分や友達もトラブルに巻き込まれる可能性があるということを意識させ、自分自身の問題として考えさせる。</li> <li>・インターネットには、公開性・記録性という特性があり、それによって事態が深刻化することを理解させる。</li> <li>・被害に遭ってしまったら一刻も早く保護者や先生、警察や人権相談の窓口相談する必要があることを知らせる。</li> <li>・加害者は法律により罰せられることがあることを知らせる。生徒の理解によっては、具体的な法律名や罰則を伝えることによって、罪の重さを認識させてもよい。</li> <li>・インターネットの利用方法を誤ると一生後悔する事態に陥ることになりかねない点に気付かせる。</li> </ul>

〔個人の目標を自己決定する：8分〕

6 発表した内容を参考にしながら、自分がこれから気を付けることをワークシートにまとめる。

・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

## 板書計画

### 写真や動画が流出するトラブルや犯罪に巻き込まれないためにどのようにしたらよいか考えよう

#### アンケート結果

##### 利用している機器



#### 【問題点】

- ・まみさんが、よく考えずに写真を送った
- ・まみさんが、自分が悪いことをわかっていなかった
- ・なおさんが、写真をその場で消さなかった

#### インターネットの特性

##### (公開性)

全世界に公開される可能性がある

##### (記録性)

一度発信した情報を全て消し去ることはできない

#### 登場人物はどのように行動すればよかったか



##### まみ

- ・写った時点で削除する
- ・陰湿なことをしない



##### りさ

- ・写されていないか確認する
- ・すぐに大人に相談する



##### なお

- ・写真を消させる



##### きよみ

- ・冷静に注意する
- ・すぐに大人に相談する

#### SNSの仲間

- ・はやし立てない
- ・あちこちに拡散しない

#### 写真や動画のやりとりで気を付けること

- ・恥ずかしい写真や動画は、撮らない 撮らせない 送らない
- ・SNS等で知り合った人に安易に写真や動画を送らない
- ・危険を感じたら被害に遭う前に相談する

## 事後指導

①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに実践の継続化につなげる。

シナリオ・スライド → p.39

インターネットの利用に関するアンケート

年 組 番 名前

- 1 家庭でインターネットを使うとき、どのような機器を使っていますか。  
当てはまるもの全てに○を付けてください。

パソコン       携帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレット端末  
 その他

インターネットは利用していない

- 2 インターネットを利用して、写真や動画を添付したり、投稿したりした経験はありますか。どちらか一方に○を付けてください。

はい       いいえ

「はい」と答えた人は、どのようなことに気を付けましたか。

「いいえ」と答えた人は、写真や動画を投稿するときに、どのようなことに気を付けるべきだと思いますか。

- 3 インターネット上での写真や動画のやりとりに関するトラブルや犯罪について、ニュース等で知っていることを書いてください。



写真や動画が流出する怖さを知ろう

年 組 番 名前

課題

Blank box for the topic.

1 なぜこのようなことになってしまったのか、問題点をあげましょう。

Blank box for the answer to question 1.

2 それぞれの登場人物は、どのように行動すればよかったですか。

 <p>まみさん</p>	 <p>りささん</p>
 <p>なおさん</p>	 <p>きよみさん</p>
<p>SNSの仲間</p>	

3 事態が深刻になったのは、インターネットにどのような特性があるからですか。

( )  
( )

4 写真や動画のやりとりをする際にトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするために、これから自分がどのようなことに気を付けるか、まとめましょう。

Blank box for the answer to question 4.

学んだことを保護者に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

保護者からの言葉

# ひとりよがりの使い方にならないように

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

SNS等を用いて、インターネット上で気軽にやりとりを楽しむ児童生徒が増えてきている。一方、インターネット上でのコミュニケーションの特性を十分に理解しないで利用した結果、トラブルに巻き込まれる児童生徒もいる。本教材では、インターネットがいつでもどこでも利用できるとは限らないことを理解させ、相手の状況や気持ちを考え、思いやりをもって接する心を育てる。

### 指導観

学校や学級内での携帯電話やスマートフォンの所有率が高くなってくると、友達との仲間意識を高める目的で必要以上に連絡を取り合おうとする児童生徒の姿が見られることがあり、その中でトラブルも生じやすくなる。

SNS等は、部活動の連絡をしたり、休日に遊ぶ相手と連絡を取ったりする際には便利であるが、発信したメッセージは、必ず相手がすぐに確認できているとは限らない。また、相手がメッセージを読んでいても、返信できないこともある。このような状況を考えず、相手がいつでも利用できるという意識でいると、返信がすぐに来ないことに不満を抱いてしまい、そのことが原因でトラブルが起こることがある。

本教材では、インターネットを利用できない場所や、利用しない方がよい場面等があることを理解させ、相手の立場や気持ちを思いやる心を持つなど、情報発信について気を付けなければならないことを考えさせる。

### 指導時のポイント・留意点

SNSで常に友達とつながり、友達関係を維持することに必死になったり、すぐに返信が来ないと感情的に相手を責めてしまったりする児童の事例を通して、相手の立場になって考えることの大切さを理解させ、誤解を招かないようなインターネット上でのコミュニケーションの在り方について具体的に考えさせる。

道徳では、SNS上のコミュニケーションでトラブルになってしまった、はなえさん、あかねさん、わかさんの行動や気持ちや動機、原因等を自分との関わりで考えさせる。

なお、授業の際は、携帯電話やスマートフォンを所有していない児童生徒も前向きに取り組めるような配慮が必要である。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、SNSを利用したコミュニケーションでトラブルとなってしまった原因、そのときの登場人物の気持ち、どのようにすれば防げたのかを考えさせながら視聴させる。

解説動画では、誤解を招かないようなインターネット上のコミュニケーションの在り方を考えさせながら視聴させる。

### 取扱い教科等

#### ① 主たる取扱い教科等

小学校

道徳 2 主として他の人とのかかわりに関すること

道徳 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

特別活動 学級活動 (2)カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

中学校

道徳 2 主として他の人とのかかわりに関すること

道徳 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

特別活動 学級活動 (2) キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

② ①以外の教科等での取扱い

小学校

社会 第5学年 (4) 我が国の情報産業や情報化した社会の様子

総合的な学習の時間 指導計画の作成と内容の取扱い 2-(8) 情報に関する学習

中学校

技術・家庭(技術分野) D 情報に関する技術

③ ②の教科等での取扱いのポイント

小学校 総合的な学習の時間 , 社会 第5学年 (4) 我が国の情報産業や情報化した社会の様子 , 中学校 技術・家庭(技術分野) D 情報に関する技術 で、インターネット上のコミュニケーションの在り方や安全な情報発信の理解を深めさせる事例として扱う。

### 情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応

「1. 情報社会の倫理」

小学校 a3-1: 他人や社会への影響を考えて行動する

中学校 a4-1: 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する

「3. 安全への知恵」

小学校 e3-2: 自他の個人情報を、第三者にもらさない

f3-1: 健康を害するような行動を自制する

中学校 e4-2: 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる

f4-1: 健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる

## 2.1 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

### 本時の目標

インターネットは、いつでもどこでも利用できるとは限らないこと、対面ではないコミュニケーションは誤解によるトラブルが生じやすいということを理解させ、相手の状況や気持ちを考え、思いやりを持って接する態度を養う。

### 授業実施前の準備・事前指導

携帯電話やスマートフォンの利用率、インターネット利用状況、インターネット上でのコミュニケーションに関するトラブルの遭遇状況等について、事前にアンケートで確認し、児童生徒の利用実態に応じた指導につなげる。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：7分〕</b></p> <p>1 アンケートの結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話やスマートフォンを使っている人がいる</li> <li>・インターネット上でのやりとりでトラブルになった人がいる</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>インターネット上でやりとりするとき気を付けることを考えよう。</p> </div> <p><b>〔原因を追求する：小学校 20分，中学校 22分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し，トラブルの原因とどのようにすれば防ぐことができたのかをワークシートに書き，グループで話し合い，発表する。</p> <p><b>【原因】</b></p> <p>はなえさんとあかねさん：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場が分からない</li> <li>・勝手にルールを破られたと思った</li> </ul> <p>わかかなさん：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・返信ができなかった</li> <li>・お母さんとの約束を伝えていない</li> </ul> <p><b>【対さく】</b></p> <p>はなえさんとあかねさん：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無理なルールを作らなければよかった</li> <li>・イライラせずに気長に待てばよかった</li> </ul> <p>わかかなさん：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無理なルールだと事前に伝えておく</li> <li>・お母さんとの約束を事前に伝えておく</li> </ul> <p>4 解説動画を視聴して，どのようなときに携帯電話やスマートフォンが使えないのか気付いたことをワークシートに書き，全体で共有する。</p> <p><b>【どのようなときに使えないのか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使ってはいけない場所がある えい画館，病院，授業中 など</li> <li>・使わない方がいい場面がある 勉強中，食事中 など</li> <li>・使いたくても使えない状況がある 電波が届いていない，バッテリー切れ など</li> </ul> <p><b>〔解決方法を考える：小学校 10分，中学校 13分〕</b></p> <p>5 これからインターネット上で友達とやりとりをするときに気を付けたいことを，グループで話し合い，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・返信できないこともあるので気長に待つ</li> <li>・友達と無理なルールを作らない</li> <li>・インターネット上でも相手の立場や気持ちを考える</li> <li>・送ってよい内容かどうかを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を示し，インターネット上でのコミュニケーションのトラブルを取り上げる。携帯電話やスマートフォンを所有していない児童生徒がほとんどである場合は，手紙等での友達同士のやりとりを取り上げる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はなえさんとあかねさん，わかかなさんがインターネット上でのやりとりでトラブルになってしまったお話です。トラブルになった原因と，どのようにすれば防ぐことができたのかを考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかかなさんの状況を確認し，相手の状況や気持ちを考えず，返信がなかったことから誤解が生じ，仲間外れが起こったことを確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット上では，相手の状況がよく分からないことを確認する。</li> <li>・誰でも，返信したくてもできないことがあることを確認する。</li> <li>・「使ってはいけない場所」「使わない方がいい場面」「使えない状況」を付箋に書き，グループで話し合い，付箋を整理し，理解を深めさせるという工夫も考えられる。</li> <li>・「使わない方がいい場面」は人によって（家族によって）異なることに注目させる。</li> <li>・必要に応じて位置情報がついた写真をアップしないよう指導する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が返信できないこともあることを前提に考えさせる。</li> <li>・やりとりの内容も気を付けなくてはならないことを伝える。</li> </ul>

〔個人の目標を自己決定する：8分〕

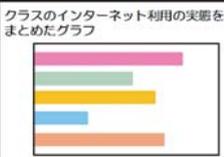
6 発表した内容を参考にしながら、自分がこれから気を付けることをワークシートにまとめる。

・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

## 板書計画

**アンケート結果**

クラスのインターネット利用の実態をまとめたグラフ



**インターネット上でやりとりするときに気を付けることを考えよう**

**どのようなときに使えないのか**

使ってはいけない場所がある	・ えい画館 ・ 病院 ・ 授業中 など
使わない方がいい場面がある	・ 食事中 ・ 勉強中 など
使いたくても使えない状況がある	・ 電波が届いていない ・ バッテリー切れ など

**原因**

<b>はなえさんとあかねさん</b>	<b>わかなさん</b>
・ 相手の立場が分からない ・ 勝手にルールを破ったと思った	・ 返信ができなかった ・ お母さんとの約束を伝えていない

**対さく**

・ 無理なルールを作らなければよかった ・ イライラせずに気長に待てばよかった	・ 無理なルールだと事前に伝えておく ・ お母さんとの約束を事前に伝えておく
--	---

↓

・ 返信できないこともあるので気長に待つ  
・ 友達と無理なルールを作らない  
・ インターネット上でも相手の立場や気持ちを考える  
・ **送ってよい内容かどうかを考える**

## 事後指導

- ①本時の学習内容を保護者に伝え（保護者会や学級通信等）、家庭でスマートフォンやインターネットの利用について話し合い、家庭のルールを決めるよう伝える。
- ②学級活動等で、家庭での話し合いをもとに、インターネットの利用について話し合わせる。
- ③保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。

シナリオ・スライド → p.40

インターネットの利用に関するアンケート

年 組 番 名前

1 家庭でインターネットを使うとき、どのような機器を使っていますか。

当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン       けい帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレット端末  
 その他

- インターネットは利用していない

2 インターネットをどのようなことに使っていますか。

当てはまるもの全てに○を付けてください。

- ホームページやブログを見る       動画を見る  
 メールをする       ゲームをする       音楽を聴く  
 SNS を利用する       無料通話アプリを利用する  
 その他

3 家庭でインターネットを使うときのルールはありますか。どちらかに○を付けてください。

「ある」と答えた人はその内容を具体的に書いてください。

- ある

- ない

4 インターネット上で友達とやりとりしているとき、何かトラブルになったことはありますか。

どちらかに○を付けてください。「ある」と答えた人はその内容を具体的に書いてください。

- ある

- ない

5 電話や手紙、メールで返事が来なかったことがありますか。どちらかに○を付けてください。

「ある」と答えた人はそのときの気持ちを書いてください。

- ある

- ない



ひとりよがりの使い方にならないように

年 組 番 名前

課題

1 トラブルの原因, どのようにすれば防ぐことができたのか (対さく) をまとめましょう。

原因	 はなえさん	 あかねさん	 わかなさん
	対さく		

2 解説動画を見て, どのようなときにけい帯電話やスマートフォンが使えないのか気付いたことをまとめましょう。

3 インターネット上で友達とやりとりするとき, これから自分が気を付けることを書きましょう。

学んだことを家の人に伝えて話し合い, 意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉

## 2.2 モデル指導案：道徳学習指導案

### 本時の目標

相手の立場に立って、思いやりをもって接しようとする心情を育てる。

### 授業実施前の準備・事前指導

携帯電話やスマートフォンの利用率、インターネット利用状況、インターネット上でのコミュニケーションに関するトラブルの遭遇状況等について、事前にアンケートで確認し、児童生徒の利用実態に応じた指導につなげる。(アンケートは特別活動と共通)

### 本時の展開

※道徳については、解説動画は視聴しない。

学習活動	指導のポイント
<p><b>[導入：8分]</b></p> <p>1 アンケートの結果を確認し、電話や手紙、メールで友達に連絡を取ったのに、返信がなかった経験について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・返信がないと心配</li> <li>・返信がすぐないと、がっかりする</li> <li>・自分はすぐに返信するのに返信がこないとはらが立つ</li> </ul> <p><b>[展開：小学校 32分，中学校 34分]</b></p> <p>2 導入動画を視聴する。</p> <p>3 スマートフォンを買ってもらったわかかなさんは、どのような気持ちだったのかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでもつながっている</li> <li>・友達と連らくできて、楽しい</li> <li>・お母さんとの約束を守る</li> </ul> <p>4 わかかなさんが返信できなかったときはなえさんとあかねさん、わかかなさんの気持ちをワークシートに書き、グループで話し合い、学級で共有する。</p> <p><b>【わかかなさん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あせる ・早く返信したい ・おこられる</li> <li>・謝りたい ・理由を話そう</li> <li>・ルールを伝えれば ・どうしよう …</li> </ul> <p><b>【はなえさん】</b>                      <b>【あかねさん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたんだろう                      ・なんで返信くれないの</li> <li>・ルールを守ってよ                      ・宿題できなくてこまった</li> <li>・読んでいるのにひどい                      ・自分だけ宿題するつもり</li> <li>・もういい                      ・ひどい</li> </ul> <p>5 はなえさんとあかねさんはどのようにしたらよかったのかを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を提示し、インターネット上でのコミュニケーションのトラブルを取り上げる。相手のことを思いやることができればトラブルにならなかったかもしれないことを押さえて、価値への方向付けをする。</li> <li>・実態に応じて手紙等でのやり取りを取り上げてよい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はなえさんとあかねさん、わかかなさんの行動や気持ちを考えながら見ましよう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや願いがかなったときの気持ちを自分との関わりで考えさせる。</li> <li>・相手のおかれた状況や気持ちを考え、相手を思いやる必要があることを気付かせる。</li> <li>・相手の立場や気持ちを考えることができないことが、相手に悲しい思いをさせてしまうことについて考えさせる。</li> <li>・相手のおかれた状況や気持ちを考えて、相手を思いやる具体的な行動を考えさせる。</li> </ul>

- ・おたがいの家のルールを確にんする
- ・冷静に待つ
- ・今、何か用事があるのかな
- ・後で話し合う

- 6 インターネット等で返信がすぐに来ないのは、相手がどのようなときかを全体で協議し、どのようなことに気を付けていきたいかをワークシートに書き、発表する。
- ・やさしく冷静に待つ
  - ・理由や状況を考えて
  - ・相手のことを思いやる

[終末：小学校5分，中学校8分]

7 教員の説話

- ・次のような場面を想定して具体的に考えさせ、実践への意欲づけとする。
  - ・使わない方がよい、あるいは、使ってはいけない場所（習い事、病院等）
  - ・使いたくても使えない状況（充電 等）

- ・相手の状況や気持ちを思いやる心を持つ大切さ等を指導する。メールのやり取り以外の例を話すようにする。
- ・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

板書計画

**クラスのインターネットの利用実態をまとめたグラフ**

はなえさん    あかねさん

わかなさん

**返信できないわかなさん**

あせる  
早く返信したい  
おこられる  
謝りたい  
理由を話そう  
ルールを伝えれば  
どうしよう

**思いやり**

おたがいの家のルールを確にんする  
今、何か用事があるのかな  
冷静に待つ  
後で話し合う

**返信がこないとき**

習い事    病院  
お風ろ    ルール  
じゆう電    なくした…

やさしく冷静に待つ  
理由や状況を考えて  
相手のことを思いやる

**思いやり**

いつでもどこでも、つながるの？

いつでもつながっている  
友達と連らくできて、楽しい  
お母さんとの約束を守る

なんで返信くれないの  
宿題できなくてこまった  
自分だけ宿題するつもり  
ひどい

どうしたんだろっ  
ルールを守ってよ  
読んでいるのにひどい  
もついい

仲間はずれ

事後指導

- ①本時の学習内容を保護者に伝え（保護者会や学級通信等）、家庭でスマートフォンやインターネットの利用に関して話し合うことを呼びかける。
- ②保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせる。
- ③学校や学級内での携帯電話やスマートフォンの所有率が高くなってくると、友達との仲間意識を高める目的でSNS等を利用して、必要以上に連絡を取り合おうとする児童生徒の姿が見られることがある。自分やクラスの実態を把握し、本時の学習内容を振り返らせるために定期的に実態調査を実施する。



ひとりよがりの使い方にならないように

年 組 番 名前

1 わかなさんから返信がなかったときの、それぞれの登場人物の気持ちを考えましょう。

 <p>はなえさん</p>	 <p>あかねさん</p>	 <p>わかなさん</p>
--	--	--

2 はなえさんとあかねさんは、どのようにしたらよかったのでしょうか。

3 返信が来ないとき、これからあなたはどのようなことに気を付けていきたいですか。

学んだことを家の人に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉

1. ソフトウェアの脆弱性<sup>ぜいじゃくせい</sup>への攻撃

コンピュータやスマートフォンは、システム全体を管理する基本ソフトウェア（OS と呼ばれる）と、さまざまな機能を使えるようにするアプリケーションソフトウェアで構成されている。

どちらも、プログラマーによってプログラミングされるが、出来上がったソフトウェアは 100% 完璧なものではない。設計上のミスや、プログラムの不具合によって必ず脆弱性（ぜいじゃくせい。セキュリティホールと呼ばれることもある）が存在する。この脆弱性が攻撃されると、乗っ取りや、保存している連絡先情報等が盗まれる危険がある。

2. アップデートが重要

ソフトウェアの開発会社は、放置すると利用者に危険がおよぶ脆弱性を解決するために、アップデート版を提供している。使用しているソフトウェアに対するアップデート版が出た場合には、どのような問題が解決されるのか、どのような機能が追加されるのか、などを確認して適用するようにする。

コンピュータウイルスの対策ソフトについても、このアップデートがとても重要になる。新種や亜種のコンピュータウイルスが一日に作り出される数は、数千とも数万とも言われている。つまり、これらの新たなウイルスの情報を取り込まなければ、コンピュータやスマートフォンは、新種のウイルスに対抗することができないの

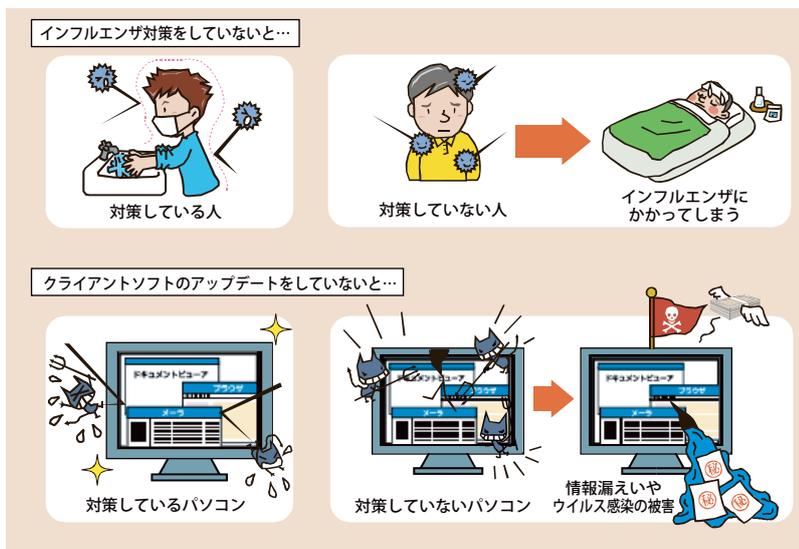
である。これでは、せっかくウイルス対策ソフトをインストールしていても、危険な状態を回避することができない。使用期限切れになっていないか、定期的にアップデートしているかを必ずチェックすることが重要である。

3. 不審なファイルは開かないなど、感染に注意

コンピュータウイルスの発見の仕方には、映像で紹介したパターンマッチングと呼ばれる方法のほかにサンドボックスというものがある。パターンマッチングはあらかじめウイルスの情報を取り込んでおき、その情報と一致した性質のプログラムをウイルスと見なして処理するものである。一方、サンドボックスは、コンピュータの中に仮想空間を作り、その中で怪しいプログラムを動かし、悪さをしそうな場合にウイルスだと判断する。これによって、新種のウイルスとして情報が提供される前であっても、危険なプログラムを見付けることができるようになった。しかし、ウイルスの中には、仮想空間の中では眠ったふりをするように動きを見せなかったり、ウイルスとしての挙動をするまでに時間がかかるようなプログラムをされていたりと、厄介なものもあり、完全にウイルスを検知できる訳ではない。ウイルス対策を導入しているからと過信せず、不審な添付ファイルは開かない、安易に URL をクリックしない、など日ごろからウイルス感染に注意を払うことも大切である。

コンピュータウイルスには、コンピュータ内のファイルを勝手に暗号化し、「解除するためには身の代金を払え」と金銭を要求するランサムウェアや、ウェブサイトを閲覧ただけで、利用者のパソコンにウイルスを感染させてしまうドライブ・バイ・ダウンロード（Drive-by Download）攻撃、利用者のパソコンが遠隔操作されてしまうウイルス等がある。

アップデートしていないクライアントソフト



2010年版 10大脅威『あぶり出される組織の弱点』  
(IPA 独立行政法人情報処理推進機構セキュリティセンター) より

# 情報の記録性，公開性の重大さ

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

SNS 等を用いて様々な情報をインターネット上に公開することができるようになった。一方，インターネット上への安易な投稿が自分や他人にどのような影響を与えるかをよく考えずに，不適切な投稿をしてしまいトラブルになってしまう生徒も多い。本教材では，インターネット上への投稿が自分や他人に及ぼす影響や，投稿によって不利益を被ることがあることを理解させ，情報社会における責任や義務について考えさせる。

### 指導観

SNS 等へ投稿する場合は，肖像権等のプライバシーの権利や，記録性や公開性等のインターネットの特性を理解しておかなければならない。このようなことを理解せずに安易に投稿してしまうと，他人に迷惑をかけたり，自分がトラブルに巻き込まれたりすることがある。

そこで，インターネットの利用におけるモラルやリスクについて幅広い視野で考えさせ，正しい知識を持って適切に利用する能力と態度を育てる必要がある。また，インターネットには利便性と危険性の両面があることに気付かせるとともに，インターネットを正しく使うことの重要性にも気付かせる。

### 指導時のポイント・留意点

インターネットの特性として，発信した情報は，全世界に公開される状態にあること（情報の公開性），一度発信された情報はコピーされてしまうと回収することができず，完全に削除することが難しいこと（情報の記録性）を理解させる。また，発信してよい情報かどうかを，発信する前によく考えることの大切さを理解させる。更に，情報には，肖像権等のプライバシーの権利が伴うものがあることにも気付かせ，ルールとマナーを遵守してインターネットを利用する能力と態度を育てる。

なお，高等学校においては，インターネットの利便性と危険性の両面について理解させるとともに，適切に対応することにより危険性を回避しつつ，利便性をできるだけ失わない工夫をすることが重要であることも理解させる。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では，情報発信によりトラブルとなってしまった3つのストーリーを取り上げており，トラブルになったことについて，何が問題で，どのようなことに注意すればよかったのかを考えながら視聴させる。

解説動画では，肖像権，情報の記録性，情報の公開性について，それぞれの意味と，具体的にどのようなことに気を付けて情報発信すればよいのかを考えさせながら視聴させる。

### 取扱い教科等

#### ① 主たる取扱い教科等

中学校

技術・家庭（技術分野） D 情報に関する技術

高等学校

情報 社会と情報 (3) 情報社会の課題と情報モラル

情報 情報の科学 (4) 情報技術の進展と情報モラル

② ①以外の教科等での取扱い

中学校

社会（公民的分野）（1）私たちと現代社会

特別活動 学級活動（2）キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

高等学校

公民 現代社会（1）私たちの生きる社会

③ ②の教科等での取扱いのポイント

発信した情報により他人に迷惑をかけることがあることなど、高度に情報化された社会における問題について、中学校 社会（公民的分野）（1）私たちと現代社会 や 高等学校 現代社会（1）私たちの生きる社会 で事例として取り上げることができる。

**情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応**

「1. 情報社会の倫理」

中学校 a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する

b4-1：個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する

高等学校 a5-1：情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす

b5-1：個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する

「2. 法の理解と遵守」

中学校 c4-1：違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない

c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る

高等学校 c5-1：情報に関する法律の内容を積極的に理解し、適切に行動する

c5-2：情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する

「3. 安全の知恵」

中学校 e4-2：自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる

高等学校 e5-2：自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる

## 2 モデル指導案：技術・家庭（技術分野）学習指導案

**本時の目標**

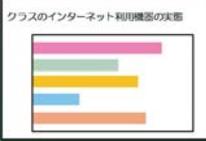
SNS 等への投稿に伴って発生する可能性のある問題と、投稿者としての責任について理解させるとともに、情報社会における自分の責任や義務を考えながら行動できる能力と態度を養う。

**授業実施前の準備・事前指導**

アンケートを事前に実施して、インターネット上でのやり取りで困ったことなどを調査し、その調査結果を授業の導入の資料として提示して、本時の課題につなぐ。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔導入：8分〕</b></p> <p>1 事前アンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うわさを投稿された</li> <li>・投稿した写真が無断で使われた …</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>インターネット上へ情報発信をしていくときに、どのようなことに注意すべきか考えよう。</p> </div> <p><b>〔展開：17分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し、起こった問題をワークシートに書く。</p> <p><b>【起こった問題】</b></p> <p>ストーリー1：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の悪口を投稿した内容を他人に見られた</li> </ul> <p>ストーリー2：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影禁止の場所で記念写真を撮影し、ブログに書き込んだ</li> </ul> <p>ストーリー3：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の写真を無断で撮影し、公開した</li> </ul> <p>4 投稿するときに、どのようなことを確認すべきだったかをグループで話し合い、学級でまとめる。</p> <p><b>【確認すべきだったこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来見られても大丈夫か</li> <li>・ルールを破っていないか</li> <li>・広まってもいい内容か</li> <li>・権利を侵害していないか</li> <li>・自分がされたら嫌な思いをしないか</li> </ul> <p><b>〔終末：25分〕</b></p> <p>5 解説動画を視聴し、インターネットの特性を踏まえてインターネット上へ情報発信をするとき、どのようなことに注意すべきかをワークシートに書き、学級で共有する。</p> <p><b>【情報発信をするときに注意したいこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肖像権を侵害していないか</li> <li>・コピーされても誰も困らないか</li> <li>・誰に見られても問題ないか</li> <li>・将来見られても問題ないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投稿，発信で不快に思ったこと，困った経験について発表させ，本時の課題につなぐ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>&lt; 導入動画 &gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信でトラブルとなってしまった3つのストーリーです。何が問題で、どのようなことに注意すべきだったのかを考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画内の事例等を挙げながら，影響が広範囲であり，将来にもわたっていることに気付かせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習してきた情報のデジタル化やネットワークの仕組み等を元に，インターネットの特性（公開性，記録性）を確認させる。</li> <li>・インターネット上に流出した情報は回収できないこと，それが友達や自分の将来に影響を及ぼす可能性があることに気付かせる。</li> <li>・高等学校の場合は，肖像権が日本国憲法第13条で保護される「幸福追求権」から導かれる権利であることを説明する。</li> <li>・リスクや危険を強調しすぎないようにし，自分の意思で回避できるものであること，インターネットには利点も多く存在することにもふれ，どのように利用していくかという視点でまとめを行う。</li> <li>・ワークシートを持ち帰り，学校だけの学習で終わらせるのではなく，学校で話したことや考えたことを家庭でも話し合うよう伝える。</li> </ul>

**アンケート結果**



インターネット上へ情報発信をしていくときに、  
どのようなことに注意すべきか考えよう

**ストーリー1**



**起こった問題**  
友達の悪口を投稿した内容を他人に見られた

**ストーリー2**



撮影禁止の場所で記念写真を撮影し、ブログに書き込んだ

**ストーリー3**



他人の写真を無断で撮影し、公開した

**確認すべきだったこと**

- ・将来見られても大丈夫か
- ・ルールを破っていないか
- ・広まってもよい内容か
- ・権利を侵害していないか
- ・自分がされたら、嫌な思いをしないか

**情報発信をするときに注意すべきこと**

- ・肖像権を侵害していないか
- ・コピーされても誰も困らないか
- ・誰に見られても問題ないか
- ・将来見られても問題ないか

**事後指導**

- ①朝の会や帰りの会等で本テーマに関連した資料を紹介し、理解を深めさせる。
- ②再度アンケートを採り、自分やクラスの実態を知らせて、学んだことの振り返りをさせる。
- ③学級活動等で学級の SNS 活用ルールや利活用ハンドブック等を作成して、実践意欲を持たせることも考えられる。
- ④保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせる。

シナリオ・スライド → p.41

インターネットの利用に関するアンケート

年 組 番 名前

- 1 家庭でインターネットを使うとき、どのような機器を使っていますか。  
当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン       携帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレット端末  
 その他

- インターネットを利用していない → アンケートはこれで終わりです。

- 2 SNS を利用していますか。どちらかに○を付けてください。  
「利用している」と答えた人は利用している SNS を具体的に書いてください。

- 利用している

- 利用していない

- 3 インターネットを使った交流で気になったことがありますか。  
当てはまるもの全てに○を付けてください。

- 時間が束縛される       写真等の無断投稿  
 気持ちがわかりにくい       悪口, 陰口  
 他のグループとの交流       返信が来ない  
 メッセージの多さ       情報がすぐ拡散する  
 削除ができない       特にない

- 4 インターネットを使った交流で、良い使い方だと思った事例はありますか。  
それはどのような使い方であったかを具体的に書いてください。

- 5 インターネット上でのやり取りで、これまで不快に思ったこと、困ったことがありましたか。具体的に書いてください。



情報の記録性，公開性の重大さ

年 組 番 名前

---

課題

1 3つのストーリーを見て，起こった問題をあげてみましょう。また，投稿するときどのようなことを確認すべきだったかを考えてみましょう。

【起こった問題】	【確認すべきだったこと】
ストーリー1	
ストーリー2	
ストーリー3	

2 解説動画を踏まえて，インターネット上へ情報発信をするとき，どのようなことに注意すべきかをまとめてみましょう。

学んだことを保護者に伝えて話し合い，意見や感想を書いてもらいましょう。

保護者からの言葉

# SNS への書き込みの影響

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

近年、SNS に他人をひぼう中傷する書き込みをしたり、本人の許可を得ないで勝手に写真を掲載したりするトラブルが発生している。本教材では、不適切な書き込みの問題点と影響を考えさせることを通して、インターネット上に情報を発信する際の責任を理解させ、インターネットを適切に利用しようとする態度を身に付けさせる。

### 指導観

軽い気持ちで SNS に他人のひぼう中傷を書き込んだり、本人の許可を得ないで勝手に写真を掲載したりして、トラブルになってしまう事例が後を絶たない。そこで、指導に当たっては、不適切な発言の問題点や、自分自身や他人の人生、社会に与える影響を考えさせることを通して、インターネットの特性と、インターネット上に情報を発信することの責任を理解させることが大切である。

SNS 等は使い方を間違わなければ便利なツールであり、児童生徒は、今後、様々な場面でインターネット上に情報を発信することが求められていくと考えられる。SNS 自体を危険なものとするのではなく、正しい知識に基づいて適切に利用していこうとする態度を養うことが必要である。

### 指導時のポイント・留意点

軽はずみな発言が本人だけでなく多くの人々に影響を与えてしまうことに気付かせた上で、そのような状況になってしまった原因を明らかにし、自分自身が今後どのように行動していくべきかを考えさせることが大切である。

特に、SNS への不適切な書き込みによってトラブルとなる原因として、インターネットの特性である「公開性」や「記録性」があることを、はじめに理解させることが大切である。その上で、日常の生活でやってはいけないことは、インターネット上でもやってはいけないのだということも含めて、インターネット上に情報を発信する際の責任について理解させる必要がある。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、「ウソの書き込みをする」という軽はずみな行動が、少年が所属する野球チームのホームページの炎上や、書き込みをした少年の特定と批判等、大きな影響を及ぼしてしまったことに気付かせるとともに、何が問題であったのか考えさせながら視聴させる。

解説動画では、インターネットの特性や自分の将来や他人に与える影響について解説しており、インターネットを適切に利用しようとすることにつながる大切な事項について確認しながら視聴させる。

### 取扱い教科等

#### ① 主たる取扱い教科等

##### 小学校

- |      |      |       |                    |
|------|------|-------|--------------------|
| 特別活動 | 学級活動 | (2) ウ | 望ましい人間関係の形成        |
| 特別活動 | 学級活動 | (2) カ | 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 |

##### 中学校

- |      |      |       |                       |
|------|------|-------|-----------------------|
| 特別活動 | 学級活動 | (2) ウ | 社会の一員としての自覚と責任        |
| 特別活動 | 学級活動 | (2) オ | 望ましい人間関係の確立           |
| 特別活動 | 学級活動 | (2) キ | 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 |

② ①以外の教科等での取扱い

小学校

道徳 1 主として自分自身に関すること

道徳 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

中学校

技術・家庭（技術分野） D 情報に関する技術

道徳 1 主として自分自身に関すること

道徳 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

③ ②の教科等での取扱いのポイント

本教材は、日常のモラルの重要性という意味で、道徳において、また、インターネットの特性を踏まえた情報モラルという意味で技術・家庭（技術分野）の「D 情報に関する技術」において指導することも考えられる。

**情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応**

「1. 情報化社会の倫理」

小学校 a3-1：他人や社会への影響を考えて行動する

b3-1：情報にも、自他の権利があることを知り、尊重する

中学校 a4-1：情報化社会における自分の責任や義務について考え、行動する

b4-1：個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する

「2. 法の理解と遵守」

小学校 c3-1：何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない

c3-2：「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する

中学校 c4-1：違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない

c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る

「3. 安全への知恵」

小学校 d3-1：予測される危険の内容がわかり、避ける

中学校 d4-1：安全性の面から、情報社会の特性を理解する

## 2 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

**本時の目標**

SNS への不適切な書き込みの問題点と影響を考えることを通して、インターネット上に情報を発信する際の責任を理解させ、インターネットを適切に利用する態度を養う。

**授業実施前の準備・事前指導**

使用している情報通信機器の種類、利用している SNS のサービス、SNS の使用上で困ったこと、「ウソの書き込み」を見たことがあるかなどについて事前アンケートを実施し把握しておく。結果は、表やグラフにまとめ、授業の導入部分で、SNS の魅力や便利な点を踏まえて、どのように使っていきべきかを考えるきっかけとして利用する。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：7分〕</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SNS を使っている人がいる</li> <li>見られてこまることを書かない</li> <li>他人の悪口を書かない</li> </ul> </li> <li>本時の課題を理解する。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     インターネット上に書きこむときに気を付けることを考えよう                 </div> </li> </ol> <p><b>〔原因を追求する：小学校 23 分，中学校 28 分〕</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>導入動画を視聴し，はやとさんの行動について，その問題点及び自分や周りの人への影響をワークシートに書き，全体で共有する。 <p><b>【問題点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット上にウソの書きこみをした</li> <li>くやしい気持ちをインターネットにぶつけた</li> </ul> <p><b>【はやとさんとはやとさんの家族】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野球チームをやめることになった</li> <li>自たたくに無言電話がかかってきた</li> <li>個人情報をもれた</li> </ul> <p><b>【野球チームのかんとくと選手】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かんとくへのクレームがあった</li> <li>多くの選手がやめてしまい，選手が減ってしまった</li> </ul> </li> <li>はやとさんの行動がなぜ大きな問題に発展してしまったか，ワークシートに書き，グループで話し合い，全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット上に書きこんだから</li> <li>多くの人が見えるところに書きこんだから</li> <li>書きこみが広がってしまったから</li> </ul> </li> <li>解説動画を視聴した後，インターネットの特性について説明を聞き，インターネット上に書き込むときに気を付けなければならないことを，ワークシートの空欄に各自で書く。 <ol style="list-style-type: none"> <li>インターネットの特性として（公開性）があり，全世界に公開される可能性がある</li> <li>インターネットの特性として（記録性）があり，コピーされた内容はさくじょできない</li> </ol> </li> </ol> <p><b>〔解決法を考える：8分〕</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>これからインターネット上に書き込みをするときにどのようにしたらよいか考え，発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>書きこむ前に，書きこんでもよい内容かよく確にんをする</li> <li>周りの人へのえいきょうを考えて書きこみをする</li> <li>しょう来のことを考えて書きこみをする</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称）という名称，サービス，利用に当たって気を付けている点等を共有する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はやとさんの SNS への書き込みが大きな問題を起こしてしまったお話です。はやとさんの行動の問題点や，その行動による影響に注意しながら見ましよう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに問題点及び自他にどのような影響を与えたか。自分の考えを書かせる。</li> <li>インターネット上の書き込みの影響力の大きさに気付かせる。</li> <li>インターネットの特性を説明し，ワークシートに書かせる。</li> <li>SNS への書き込みには「インターネットの特性」が伴うことを理解させる。</li> <li>学習したことを自らの生活の中で主体的に判断し，情報社会に責任を持って参画する態度を身に付けさせる。</li> <li>SNS の書き込みも日常生活と同様に他人への思いやりを持って行うことが大切であることを理解させる。</li> </ul>

〔個人の目標を自己決定する：7分〕

7 発表の内容を参考にしながら、これから自分が気を付けることをワークシートにまとめる。

・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

## 板書計画

### インターネット上に書きこむときに気を付けることを考えよう

#### アンケート結果



はやとさん

#### なぜ大きな問題に発展してしまったか

- ・インターネット上に書きこんだから
- ・多くの人が見えるところに書きこんだから
- ・書きこみが広がってしまったから

#### 書きこむときに気を付けなければならないこと

1. (公開性) 全世界に公開される可能性がある
2. (記録性) コピーされた内容はさくじょできない。

#### 問題点

- ・インターネット上にウソの書きこみをした
- ・くやしい気持ちをインターネットにぶつけた

#### はやとさんとはやとさんの家族

- ・野球チームをやめることになった
- ・自たくに無言電話がかかってきた
- ・個人情報もれた

#### 野球チームのかんとくと選手

- ・かんとくへのクレームがあった
- ・多くの選手がやめてしまい、選手が減ってしまった

#### まとめ

- ・書きこむ前に、書きこんでもよい内容かよく確にんをする
- ・周りの人へのえいきょうを考えて書きこみをする
- ・しょう来のことを考えて書きこみをする

## 事後指導

①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。

シナリオ・スライド → p.42

インターネットの利用に関するアンケート

年 組 番 名前

1 家庭でインターネットを使うとき、どのような機器を使っていますか。  
あてはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン       けい帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレット端末  
 その他

インターネットは利用していない → アンケートはこれで終わりです。

2 あなたは、SNS を使ったことがありますか。どちらかに○を付けてください。

- ある  
 ない → アンケートはこれで終わりです。

(1) 「ある」と答えた人は、どのような SNS のサービスを利用していますか。

(2) 「ある」と答えた人は、どのようなことに気を付けて SNS を利用していますか。

(3) 「ある」と答えた人は、ウソの書きこみを見たことがありますか。



SNS への書きこみのえいきょう

年 組 番 名前

課題

1 はやとさんの行動のどのような点が問題でしたか。また、はやとさんの行動によって、はやとさんとはやとさんの家族、野球チームのかんとくと選手にはどのようなことが起きたでしょうか。

【問題点】

【はやとさんとはやとさんの家族】

【野球チームのかんとくと選手】



2 なぜ大きな問題となってしまったのでしょうか。

3 インターネット上に書きこむときに気を付けなければならないことをまとめましょう。

1.インターネットの特性として（ ..... ）があり,全世界に公開される可能性がある

2.インターネットの特性として（ ..... ）があり,コピーされた内容はさくじょできない

4 インターネット上に書きこみをするときに、これから自分が気を付けることを書きましょう。

学んだことを家の人に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉

# 軽はずみな SNS への投稿

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

SNS の普及に伴い、不適切な発言や写真の投稿により、社会や投稿者自身の将来に影響を及ぼしてしまう問題が生じている。本教材では、不適切な写真を SNS に投稿することの問題点と、そのことにより社会や自分の将来へ及ぼす影響について考えさせることを通して、インターネット上に情報を発信する際の責任を理解させ、インターネットを適切に利用しようとする態度を身に付けさせる。

### 指導観

SNS の普及によって、友達とより気軽にコミュニケーションがとれるようになった。一方で、若者の間で、笑いを取りたい、目立ちたいという思いから、SNS へ不適切な投稿をしてしまうという問題も生じている。これらの不適切な投稿は、社会的な影響はもちろん、投稿者自身のその後の人生にまで影響を与えてしまう場合もあることから、生徒がこのようなトラブルを起こさないよう、未然に防止する指導を行う必要がある。

特に、問題である行動の写真を一度 SNS に投稿してしまうと、取り返しがつかず、想像以上に大きな問題となってしまうことまで思い至らない生徒がいることから、インターネットの特性とインターネット上に情報を発信する際の責任を理解させることが大切である。

SNS は使い方を間違わなければ便利なツールであり、生徒も今後、様々な場面でインターネット上に情報を発信することが求められていくと考えられる。そこで、SNS は危ないので使わない方がよいものだという禁止するような指導を行うのではなく、インターネットの特性をよく理解させた上で、適切に活用していこうとする態度を養うことが必要である。

### 指導時のポイント・留意点

軽率な行動により、他人へ影響が及ぶだけではなく、自分の将来へも大きな影響を与えてしまうことに気付かせた上で、そのような状況になってしまった原因や問題点を明らかにし、自分自身が今後どのように行動していくべきかを考えさせることが大切である。

日常生活でやってはいけないこと、公開性や記録性といったインターネットの特性から気を付けなければならないことについて整理した上で、情報社会における責任や義務を意識させ、正しく判断することの大切さを理解させることも必要である。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、アルバイトの大学生の軽率な行動について、何が問題であったかを考えさせながら視聴させる。導入動画を見せる前に、生徒の実態に応じて、中学校での職場体験活動を想起させたり、アルバイトや就職を想起させたりすることで、生徒自身の身近な問題としてとらえさせることも考えられる。

解説動画では、日常生活でやってはいけないことはインターネット上でもやってはいけないということ、インターネットの特性により、自分の将来や他人に影響を与える可能性があるということについて説明しており、インターネットを適切に利用する態度につながる事項について確認しながら視聴させる。

### 取扱い教科等

- ① 主たる取扱い教科等

中学校

特別活動 学級活動 (2) ウ 社会の一員としての自覚と責任

特別活動 学級活動 (2) オ 望ましい人間関係の確立

高等学校

特別活動 ホームルーム活動 (2) ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任

特別活動 ホームルーム活動 (2) オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立

② ①以外の教科等での取扱い

中学校

社会（公民的分野）(1) 私たちと現代社会

技術・家庭（技術分野）D 情報に関する技術

高等学校

情報 社会と情報 (3) 情報社会の課題と情報モラル

情報 情報の科学 (4) 情報技術の進展と情報モラル

③ ②の教科等での取扱いのポイント

本教材には、インターネットの特性を踏まえた情報モラルについての内容が含まれる。そこで、技術・家庭（技術分野）の「D 情報に関する技術」や高校教科「情報」等の学習活動と関連させることでより効果的に利用することもできる。また、本教材には、現代社会の影の部分の色濃く出ているため、社会（公民的分野）「(1) 私たちと現代社会」や現代社会「(1) 私たちの生きる社会」で取り上げることで、理解を深めることが可能である。

情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応

「1. 情報社会の倫理」

中学校 a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する

高等学校 a5-1：情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす

「2. 法の理解と遵守」

中学校 c4-1：違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない

高等学校 c5-1：情報に関する法律の内容を積極的に理解し、適切に行動する

「3. 安全への知恵」

中学校 d4-1：安全性の面から、情報社会の特性を理解する

高等学校 d5-1：情報社会の特性を意識しながら行動する

「5. 公共的なネットワーク社会の構築」

中学校 i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する

高等学校 i5-1：ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する

## 2 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

本時の目標

SNS への不適切な写真の投稿の問題点とその後の影響について考えさせることを通して、インターネット上に情報を発信する際の責任を理解させ、インターネットを適切に活用する態度を養う。

授業実施前の準備・事前指導

SNS の利用状況、SNS への不適切な写真の投稿経験、SNS に関係するトラブルやそれらへの対応に関して知っていること等について、事前にアンケートを実施し把握しておく。結果は、表やグラフにまとめ、授業の導入部分で、SNS の魅力や便利な点を踏まえて、どのように使っていくべきかを考えるきっかけとして利用する。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：5分〕</b></p> <p>1 アンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽はずみに SNS に写真を投稿した人がいる</li> <li>・たくさんの人に簡単に連絡できる</li> <li>・写真を送るのが簡単</li> <li>・言葉の使い方に気を付けている</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>インターネット上に投稿するときどのようなことに気を付けたらよいか考えよう。</p> </div> <p><b>〔原因を追求する：31分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し、かずきさんのどのような行動が問題だったのかワークシートに書き、グループで話し合い、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タコを頭にのせた</li> <li>・仕事中にふざけた</li> <li>・お店の信頼を傷つけた</li> <li>・悪ふざけの写真を SNS に投稿した</li> <li>・顔の見える写真だった</li> <li>・よく考えずに投稿した</li> </ul> <p>4 かずきさんと周りの人が今後どのように変わっていくかを考え、ワークシートに書き、全体で共有する。</p> <p><b>【かずきさん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職がうまくいかない</li> <li>・信頼を失ってしまう</li> <li>・友達がいなくなってしまう</li> </ul> <p><b>【周りの人】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かずきさんの家族も学校や職場で非難される</li> <li>・店員が職を失う</li> <li>・店員の家族も生活に困る</li> </ul> <p>5 解説動画を視聴し、共有した板書の内容を確認し、インターネットの特性をよく理解した上で適切に活用することを学ぶ。</p> <p>6 インターネットのどのような特性によって、かずきさんの投稿が広まったのかをワークシートに記入し、発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（公開性） インターネット上に発信した情報は、世界中の人が見る可能性がある</li> <li>・（記録性） インターネット上の情報はコピーでき、コピーされた情報は削除できない</li> </ul> <p><b>〔解決法を考える：7分〕</b></p> <p>7 インターネット上への発信や写真を投稿するとき、どのようなことに気を付けたらよいかを考え、グループや全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常でやってはいけないことは投稿しない</li> <li>・投稿しても問題ない内容か考える</li> <li>・他人への影響も考え、責任のある行動をとる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS には便利な点があるが、気を付けるべき点もあることを押さえ、本時の課題につなげる。</li> <li>・ 職場体験活動を実施している場合、経験を聞き、動画視聴の動機付けとする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>&lt; 導入動画 &gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場体験活動で、アルバイトの大学生がインターネット上に不適切な投稿をしたお話です。どのような問題があったか考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題点が、日常モラルによるものと、インターネットの特性によるものに分けられることに気付かせる。</li> <li>・ インターネットの特性を考えて、適切に判断して投稿しないと自分の人生に大きく影響してしまう可能性があることに気付かせる。</li> <li>・ 不適切な投稿をすると、自分の人生だけでなく、多くの人に影響を与えてしまうことに気付かせる。</li> <li>・ 3 で気付かせたインターネットの特性が、公開性、記録性という特性によるものであることを理解させる。</li> <li>・ 日常モラルとインターネットの特性の両方を合わせて考えて、投稿してよいかを判断することが重要であることを理解させる。</li> <li>・ インターネットを正しく使うことで、便利で豊かな生活が送れることにも気付かせる。</li> </ul>

〔個人目標を自己決定する：7分〕

8 発表の内容を参考にしながら、これから自分が気を付けることをワークシートにまとめる。

・ワークシートを持ち帰り、学校だけでの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

## 板書計画

インターネット上に投稿するとき、  
どのようなことに気を付けたらよいか考えよう

### アンケート結果

軽はずみに SNS に  
写真を投稿したことが  
ある



今後どうなってしまう  
でしょうか

【かずきさん】

- ・就職がうまくいかない
- ・信頼を失ってしまう
- ・友達がいなくなってしまう

【周りの人】

- ・かずきさんの家族も学校や職場で避難される
- ・店員が職を失う
- ・店員の家族も生活に困る

### 大学生のかずきさんの問題点

- ・タコを頭にのせた
- ・仕事中にふざけた
- ・お店の信頼を傷つけた
- ・悪ふざけの写真を SNS に投稿した
- ・顔の見える写真だった
- ・よく考えずに投稿した



かずきさん

日常モラル

インターネットの特性

- ・公開性：インターネット上に発信した情報は、世界中の人が見る可能性がある
- ・記録性：インターネット上の情報はコピーでき、コピーされた情報は削除できない

### 投稿するとき気を付けること

- ・日常でやってはいけないことは投稿しない
- ・投稿しても問題ない内容か考える
- ・他人への影響も考え、責任のある行動をとる

## 事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。特に、インターネットの特性により、SNS への不適切な写真の投稿が将来に影響を及ぼすことを定着させたい。
- ②朝の会や帰りの会等で、現実に行っているアルバイトによる不適切な写真の投稿等の事例を紹介し、SNS の使い方について、考えを深める。また、生徒の実態に応じて、本時の学習活動にかかわる法律的な内容について紹介し、SNS への不適切な投稿について、理解を深めさせる。

シナリオ・スライド → p.43

インターネットの利用に関するアンケート

年 組 番 名前

---

- 1 あなたは、自分専用の携帯電話・スマートフォンを持っていますか。  
どちらかに○を付けてください。

( ) 持っている ( ) 持っていない

- 2 SNS を使ったことがありますか。どちらかに○を付けてください。

( ) 使っている ( ) 使っていない

- 3 SNS に軽はずみな気持ちで写真を投稿したことはありますか。どちらかに○を付けてください。

( ) ある ( ) ない

- 4 SNS に写真を載せたトラブルについて、どのようなことを知っていますか。

- 5 SNS はどのような点が便利だと思いますか。

- 6 SNS の投稿で、気を付けていること、気を付けた方がよいと思うことはありますか。



軽はずみな SNS への投稿

年 組 番 名前

課題

Blank box for the title of the assignment.

1 大学生のかずきさんのどのような行動が問題だったのか、書き出してみましょう。

Blank box for writing the answer to question 1.

2 かずきさんと周りの人は、今後どのようになってしまうでしょうか。

【かずきさん】
【周りの人】

3 インターネットのどのような特性によって、かずきさんの投稿が広まったのでしょうか。

( )  
( )

4 インターネットに投稿するときに、これから自分が気を付けることをまとめましょう。

Blank box for writing the answer to question 4.

学んだことを保護者に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

保護者からの言葉

# パスワードについて考えよう

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

パスワードの設定や管理が適切にされていないことに起因する情報漏えいや、不正アクセス等の問題が生じている。本教材では、パスワードを設定することの重要性と、パスワードを設定し、管理するときどのようなことに注意が必要かを理解させることを通して、情報セキュリティに対する適切な態度を養う。

### 指導観

パソコン、携帯電話、スマートフォン等の中には自分だけではなく他人の個人情報も記録されている。これらの機器をパスワードの設定をしていない状態で紛失し、悪意のある第三者が取得した場合、情報が漏えいし、悪用されるといった問題が発生することがある。また、インターネットを利用したサービスでパスワードの設定や管理が適切にされていないと、不正アクセスやなりすましといった被害に巻き込まれることもある。

本教材は、パスワードを設定することの重要性と、パスワードを設定し管理するときどのようなことに注意が必要かを理解させる。その上で、パスワードを適切に用いながら、情報機器やインターネットを利用したサービスを適切に利用しようとする態度を身に付けさせる。

### 指導時のポイント・留意点

携帯電話やスマートフォンを紛失した場合、連絡が取れなくなるという問題だけではなく、個人情報漏えいの危険が伴うことに気付かせ、パスワードを設定することの重要性を理解させる。また、パスワードを見られてしまったり、安易に設定して見破られてしまったりすると、これを悪用される危険性があるため、適切に設定し管理することが重要であることを理解させる。

学習のまとめとして、情報を守るために、パスワードを適切に用いるよう態度形成を促すことも重要である。

なお、授業では、児童生徒が自身のパスワードやそのヒントを公表しないよう、配慮が必要である。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画は、ストーリー1とストーリー2に分かれている。ストーリー1では、公園に携帯電話を置き忘れたことがどのような問題を引き起こすのかを考えさせながら視聴させる。ストーリー2では、パスワードを見られてしまう立場、パスワードを悪用する立場の両面から問題点に気付かせ、どのようにしたらよかったかについて考えさせながら視聴させる。

ストーリー1の解説動画では、パスワードを設定することの重要性を理解させる。ストーリー2の解説動画では、良いパスワードの作り方と、パスワードをどのように管理することが必要なかを理解させ、情報を守るためにはどうしたらよいか考えさせながら視聴させる。

### 取扱い教科等

① 主たる取扱い教科等

小学校

特別活動 学級活動 (2) カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

中学校

技術・家庭（技術分野） D 情報に関する技術

特別活動 学級活動 (2) キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

② ①以外の教科等での取扱い

小学校

総合的な学習の時間 2－(8) 情報に関する学習

中学校

社会（公民的分野）(1) 私たちと現代社会

③ ②の教科等での取扱いのポイント

総合的な学習の時間において、情報に関する学習を行う際に必要な情報モラルに対する考え方等を身に付けさせる場面で、本教材を用いて理解を深めさせる。

**情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応**

「1. 情報社会の倫理」

小学校 a3-1：他人や社会への影響を考えて行動する

中学校 a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する

「3. 安全への知恵」

小学校 e3-2：自他の個人情報を、第三者にもらさない

中学校 e4-2：自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識をもって行動できる

「4. 情報セキュリティ」

小学校 g3-1：不正使用や不正アクセスされないように利用できる

h3-1：情報の破壊や流出を守る方法を知る

中学校 g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける

h4-1：基礎的なセキュリティ対策が立てられる

## 2 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

**本時の目標**

情報機器の紛失等が個人情報の流出につながるため、パスワードの設定が必要であることを理解させる。また、安易なパスワード設定やパスワードの使い回しによって起こる問題について考え、よいパスワードを設定し、適切に管理することの重要性を理解させることを通して、パスワードを適切に用いて情報機器やインターネットを利用したサービスを利用しようとする態度を養う。

**授業実施前の準備・事前指導**

児童生徒の情報機器の利用の仕方や状況には差があることが想定されるため、あらかじめ児童生徒に対して、「どのような機器にパスワードを設定しているか」などについてアンケートで確認し、児童生徒の利用実態に応じた指導につなげる。

学習活動	指導のポイント
<p>〔課題をつかむ：10分〕</p> <p>1 アンケートの結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けい帯電話にパスワードをかけている人がいる</li> <li>・パスワードが他の人に使われたらなりすましをされる</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どのようなことに気を付けてパスワードを設定したらよいか考えよう。</p> </div> <p>3 ストーリー1 導入動画を視聴し、友達がいついた「大変なこと」とはどのようなことかを考え、全体で発表する。</p> <p>【「大変なこと」とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と連絡がとれない</li> <li>・他の人に使われてしまう</li> <li>・情報が見られてしまう</li> </ul> <p>4 ストーリー1 解説動画を視聴し、内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果としてパスワードの設定状況等を取り上げ、クラスの実態を共有する。</li> <li>・パスワードが他人に使われて困ることを紹介し、学習の動機付けとする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画は2本あることと、視聴後の活動を予告することで、学習の見通しをもたせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園に携帯電話を忘れてしまうさえかさんのお話です。友達の言葉に注意しながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を守るためにはパスワードを設定することが重要である旨助言し、「個人情報を守るためにパスワードをかけよう」等を板書し、まとめる。</li> </ul>
<p>〔原因を追求する：15分〕</p> <p>5 ストーリー2 導入動画を視聴し、2人の問題点とどうしたらよかったかをワークシートに書き、グループで話し合い、全体で発表する。</p> <p>【問題点：ゆうさくさん】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスワードを見た</li> <li>・パスワードを使ってなりすましをした</li> </ul> <p>【問題点：けんたさん】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入力画面をかくさなかった</li> <li>・かん単なパスワードだった</li> </ul> <p>【どうしたらよかったか：ゆうさくさん】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスワードを見ようとしな</li> <li>・なりすましは絶対にしない</li> </ul> <p>【どうしたらよかったか：けんたさん】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスワードを見せない</li> <li>・むずかしいパスワードにする</li> </ul>	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスワードをめぐるゆうさくさんとけんたさんのお話です。二人にどのような問題があったか考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本教材のねらいを踏まえ、ゆうさくさんの問題行動だけに偏らず、けんたさんの問題点についても考えさせる。</li> </ul>
<p>〔解決法を考える：小学校 15分、中学校 20分〕</p> <p>6 解説動画を視聴し「良いパスワードの作り方」として紹介されたパスワードがどのようなものだったかワークシートに書き、全体で確認した上で、動画のまとめを再確認する。</p> <p>【良いパスワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の<u>数</u>と<u>種類</u>が多い</li> <li>・自分だけがわかる文章の<u>頭文字</u></li> <li>・<u>ずい測</u>されにくく、<u>覚え</u>やすい</li> </ul> <p>7 携帯電話やスマートフォン、インターネットのサービスを安全に利用するために、これからどのようなことに気を付けたらよいか考え、全体で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて&lt;良いパスワードの作り方&gt;として紹介されている画面で一時停止する等し、確認をする。</li> <li>・最後のまとめ&lt;大切な情報をつかう場合は&gt;を印刷しておき黒板に貼り付けて要点を再確認することで、パスワードの管理も重要であることをおさえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生は携帯電話やスマートフォンの所有率が高いことから、この活動に時間をかけて、自分のこととしてしっかり考えさせる。</li> </ul>

【安全に利用するために】

- ・ けい帯電話には必ずロックをかける
- ・ 良いパスワードを設定する
- ・ パスワードを入力するときは、見られないように注意する

〔個人の目標を自己決定する：5分〕

8 解説動画の内容や、発表の内容を参考にしながら、これから自分が気を付けることをワークシートにまとめる。

- ・ ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

板書計画

**アンケート結果**  
パスワードをかけている機器

パソコン	■
けい帯電話	■
スマートフォン	■
ゲーム機	■
タブレット	■

**どのようなことに気を付けてパスワードを設定したらよいか考えよう**

**ストーリー1**  
「大変なこと」とは

- ・ 友達と連絡が取れない
- ・ 他の人に使われてしまう
- ・ 情報が見られてしまう

**ストーリー2**

ゆうさくさん



けんたさん



**問題点**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パスワードを見た</li> <li>・ パスワードを使っ てなりすましをした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入力画面をかくさ なかった</li> <li>・ かん単なパスワー ドだった</li> </ul>
--	--

**どうしたらよかったか**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パスワードを見よ うとしない</li> <li>・ なりすましを絶対 にしない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パスワードを見せ ない</li> <li>・ むずかしいパスワ ードにする</li> </ul>
---	---

**〈良いパスワード〉**

- ・ 文字の数と種類が多い
- ・ 自分だけがわかる文章の頭文字
- ・ すい測されにくく、覚えやすい

**〈大切な情報をつかう場合は〉**

- (1)パスワードを設定する
- (2)パスワードは他人に知られないようにする
- (3)すい測されにくく、覚えやすいパスワードを設定する
- (4)パスワードは定期的に変こうする
- (5)パスワードは使いまわさない

**安全に利用するために**

- ・ 携帯電話には必ずロックをかける
- ・ 良いパスワードを設定する
- ・ パスワードを入力するときは、見られないように注意する

**個人情報を守るためにパスワードをかけよう**



事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。
- ②朝の会や帰りの会等で、本テーマに関連した報道を取り上げることで、携帯電話やスマートフォン、インターネットのサービスを安全に利用するための方法について授業の内容を振り返らせる。

シナリオ・スライド → p.44

パスワードに関するアンケート

年 組 番 名前

1 家庭でインターネットを利用するときどのような機器を使っていますか。

当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン       けい帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレットたん末  
 その他

インターネットは利用していない

2 「1」で○を付けたものの中でパスワードをかけているものはどれですか。

当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン       けい帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレットたん末  
 その他

3 「2」でどれかに○を付けた人は、そのパスワードをどのように覚えていますか。

当てはまるものに○を付けてください。

- 自分で覚えている  
 ほかに人に覚えてもらっている  
 紙に書いている  
 けい帯電話・スマートフォンの中に保ぞんしている  
 その他

4 あなたはけい帯電話やゲーム機等をなくしたことがありますか。またあなたの周り（家族や友達）に、けい帯電話やゲーム機等をなくしたことがある人はいますか。

当てはまるものに○を付けてください。

- 自分がなくしたことがある       周りになくした人がいる  
 自分も周りの人もなくしたことがない

5 パスワードがほかの人に使われたら、どのようなことが起きると思いますか。

思いついたことを書いてみましょう。



パスワードについて考えよう

年 組 番 名前

課題

1 ゆうさくさんとけんたさんの問題点と、どうしたらよかったかを書きましょう。

	ゆうさくさん	けんたさん
問題点		
どうしたらよかったか		

2 「良いパスワードの作り方」としてしょうかいされていたパスワードはどのようなものだったか思い出して書きましょう。

**【良いパスワード】**

- ・文字の(            )と(                            )が多い
- ・(                            )だけがわかる文章の(                            )
- ・(                            )されにくく、(                            )やすい

3 けい帯電話やスマートフォン、インターネットのサービスを安全に利用するために、これから自分が気を付けることをまとめましょう。

学んだことを家の人に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉

# 大切な情報を守るために

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

パソコンやスマートフォン等を利用する際、適切なセキュリティ対策を行っていないと、コンピュータウイルスへの感染等の被害に遭い、結果として自分だけではなく他人にも影響を与えてしまうことがある。本教材では、情報セキュリティの観点からパソコンやスマートフォン等を利用する際に、身の回りにどのような危険があるのかを考えさせることを通して、被害に遭わないための対策を理解させ、安全に活用する能力と態度を養う。

### 指導観

パソコンやスマートフォン等に適切なセキュリティ対策を行わずにインターネットを利用すると、コンピュータウイルスの感染や情報の漏えい等の被害に遭う危険性がある。このような情報セキュリティ上の問題は、知らず知らずのうちに他者を巻き込み、甚大な被害をもたらすこともあるため、様々な脅威を正しく理解し、恒常的にセキュリティ対策を行うことが重要である。

そのため、インターネットを利用する際のセキュリティ上の危険と被害がどのようなものか考えさせた上で、情報セキュリティに関する科学的な知識を踏まえ、情報セキュリティ上の脅威に対して主体的に対策を立てることのできる能力と態度を養う。

### 指導時のポイント・留意点

情報セキュリティに対する理解や意識の程度は生徒によって異なり、セキュリティ対策の重要性が理解できていないこともある。そのため、被害と原因を踏まえて対策に結びつけ、自分に被害があるだけでなく、他人にも被害を与えかねないということと、何より自己防衛が重要であるという心構えを持たせる。あわせて、セキュリティ対策の仕組みを伝え、どのように機能しているのかを理解させることを通して、セキュリティ対策を有効に活用する能力と態度を養う。

なお、情報セキュリティ対策には、本教材で取り上げたウイルス対策等のほか、暗号化（情報漏えい）や、フィッシング対策（個人情報詐取）、スパイウェア対策（個人情報収集）等もある。生徒の実態や単元での取扱いにあわせ、本教材と関連付けて系統的に指導することも必要である。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、登場人物のそれぞれの行動に着目させながら、情報セキュリティ上の様々な被害がなぜ起きたのかを考えさせながら視聴させる。

解説動画では、セキュリティ対策の重要性に気付かせるために、どのような対策が必要なのかを考えさせ、自己防衛の態度が重要であるということを意識させながら視聴させる。

### 取扱い教科等

#### ① 主たる取扱い教科等

中学校

技術・家庭（技術分野） D 情報に関する技術

高等学校

情報 社会と情報 (3) 情報社会の課題と情報モラル イ 情報セキュリティの確保

② ①以外の教科等での取扱い

中学校

総合的な学習の時間 1-(5) 情報等の横断的・総合的な課題

高等学校

総合的な学習の時間 1-(5) 情報等の横断的・総合的な課題

③ ②の教科等での取扱いのポイント

本教材は、総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題についての学習活動において、適切なインターネットの利用の在り方を考えさせる場面での活用も可能である。また、情報セキュリティ関連企業の専門家による全校生徒を対象としたセキュリティ教室等の事前学習用の教材として利用することもできる。

**情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応**

「4. 情報セキュリティ」

中学校 g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける

h4-1：基礎的なセキュリティ対策が立てられる

高等学校 g5-1：情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる

h5-1：情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる

## 2 モデル指導案：技術・家庭（技術分野）学習指導案

**本時の目標**

セキュリティ対策をしていないことや情報セキュリティに対する意識が低いことで、自分や他人にどのような被害が起こりうるのかを考えさせることを通して、セキュリティ対策に関する知識を習得させるとともに、適切なセキュリティ対策を行う能力と態度を養う。

**授業実施前の準備・事前指導**

家庭でのインターネットの利用状況や、セキュリティ対策の状況等について事前にアンケート調査を行い、セキュリティ対策には差があることを認識させ、課題意識を持たせる。

また、事前アンケートの結果は、動画を視聴させた後に実態を踏まえたスローガンを考えさせる際の参考としても活用できる。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔導入：5分〕</b></p> <p>1 アンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンにセキュリティ対策をしている人が多い</li> <li>・スマートフォンの画面ロックをしている人が多い</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;">大切な情報を守るために何が必要か考えよう。</div> <p><b>〔展開：30分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し、問題があると思う場面をワークシートに書き、グループで話し合い、全体で発表する。</p> <p><b>【被害】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迷惑メールが多い</li> <li>・パソコンの動きが遅い</li> <li>・ファイルが消えた</li> <li>・迷惑電話がかかってきた</li> </ul> <p><b>【問題行動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの画面のロックをしていない</li> <li>・契約切れのウイルス対策ソフトを放置した</li> <li>・自動アップデートを無効にしようとした</li> </ul> <p>4 解説動画を視聴して、大切な情報を守るためにどのような「対策」が紹介されていたかワークシートにまとめ、全体で発表する。</p> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルス対策ソフトを利用する</li> <li>・OS等のソフトウェアを最新の状態にする</li> <li>・ふだんから自己防衛をする</li> <li>・スマートフォンにもセキュリティ対策をする</li> </ul> <p><b>〔終末：15分〕</b></p> <p>5 大切な情報を守るためのスローガンをワークシートに書き、全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画面ロックが守るのは友達との信頼関係</li> <li>・情報と信頼を守るウイルス対策</li> <li>・怪しいものに注意して明るい将来 …</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果はグラフ等視覚的に分かりやすい形で提示する。</li> <li>・アンケート結果から読み取れることを生徒に発表させ、クラス全体で共有・確認させてもよい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セキュリティ対策に問題があることで、様々な被害に遭ってしまうお話です。どのような被害や問題があるか考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題シーンについて、被害と、問題行動とに分類しながら板書する。</li> <li>・問題点が「被害」であるものと、きっかけとなる「問題行動」に分けられることに気付くよう支援する。</li> <li>・これまで学習してきた、情報のデジタル化やネットワークの仕組み等を元に対策の必要性を認識させる。</li> <li>・ただ対策をするだけではなく、自己防衛も重要であることを強調する。</li> <li>・スマートフォンはパソコンと同様な対策が必要なことに気付かせる。</li> <li>・必要に応じて解説動画を振り返る。</li> <li>・【問題行動】の適切な対処が【対策】につながる。板書を工夫し、個人で対策が実行できることに気付かせる。</li> <li>・今後自分としてどのようにセキュリティ対策を行っていくのかを考えさせた上で、スローガンにまとめさせる。</li> <li>・アンケート結果等からクラスの課題が明らかである場合は、課題に対するスローガンを考えさせてもよい。</li> <li>・発表させる際、理由も一緒に答えさせることで、どのような対策を意識しているのか確認するとよい。</li> <li>・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。</li> </ul>

## 大切な情報を守るために何が必要か考えよう

**アンケート結果**  
セキュリティ対策をしている機器

機器	対策の有無
パソコン	多い
けい帯電話	少ない
スマートフォン	少ない
ゲーム機	少ない
タブレット	少ない

**問題があると思う場面をあげよう**

- ・迷惑メールが多い
- ・パソコンの動きが遅い
- ・ファイルが消えた
- ・迷惑電話がかかってきた

被害

- ・スマートフォンの画面のロックをしていない
- ・契約切れのウイルス対策ソフトを放置した
- ・自動アップデートを無効にしようとした

問題行動

対策

- ・ウイルス対策ソフトを利用する
- ・OS等のソフトウェアを最新の状態にする
- ・普段から**自己防衛**をする
- ・スマートフォンにもセキュリティ対策をする

大切な情報を守るためのスローガン

- ・画面ロックが守るのは友達との信頼関係
- ・情報と信頼を守るウイルス対策
- ・怪しいものに注意して明るい将来

### 事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせる。
- ②自分たちで提案したスローガンが実際の行動として実施されているか、アンケート等を用いて確認を行う。実施できていない部分についてはその理由を考えさせる。

シナリオ・スライド → p.45

情報機器の利用に関するアンケート

年 組 番 名前

- 1 家庭でインターネットを使うとき、どのような機器を使っていますか。

当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン       携帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレット端末  
 その他

- インターネットは利用していない

- 2 そのうち「セキュリティ対策」をしている機器はどれですか。

当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン       携帯電話       スマートフォン  
 ゲーム機       音楽プレイヤー       タブレット端末  
 その他

- 3 セキュリティ対策をしている機器には、どのような「セキュリティ対策」をしていますか。

- 4 「セキュリティ対策」として思いつく方法はどのようなものがありますか。

- 5 スマートフォンやタブレットで画面のロックをしていますか。

どちらかに○を付けてください。

- はい       いいえ

「はい」と答えた人はどのような方法の画面のロックをしていますか。

当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パターン       パスワード       PIN コード  
 スライド       生体認証       わからない



大切な情報を守るために

年 組 番 名前

課題

- 1 動画の中での問題があると思う場面を思い付くだけ書き出してみましょう。

- 2 解説動画の中では大切な情報を守るためにどのような「対策」が紹介されていたか、書き出してみましょう。

- 3 大切な情報を守るためのスローガンを考えましょう。

学んだことを保護者に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

保護者からの言葉

## うまく伝わったかな？

## 1 動画教材を使うに当たって

## 教材のねらい

インターネットでのコミュニケーションでは、相手の表情が見えないため、お互いの状況や気持ちが十分に伝わらず、誤解が生じることがある。本教材では、インターネットでのコミュニケーションの特徴やその他のコミュニケーションツールの特徴を理解させ、相手の状況や気持ちを考え、思いやりを持ってやり取りしようとする態度を養う。

## 指導観

SNS等の普及によりインターネットでのコミュニケーションの機会が増え、児童生徒の間でもトラブルが生じることがある。

本教材では、友達との間で起きたコミュニケーションのトラブルの原因を考えさせることを通して、インターネットでのコミュニケーションの特徴や気を付けなければならないことを理解させる。また、コミュニケーションツールには、それぞれ利点と欠点があり、時と場合に応じて使い分ける必要があることを理解させる。

これらのことを通して、相手の状況や気持ちを考え、思いやりを持ってやり取りしようとする態度を養う。

## 指導時のポイント・留意点

インターネットでのコミュニケーションでは、対面のときと比べて、声や表情等相手の状況を判断する情報が乏しく、相手の意図が理解できなかったり、誤解してしまったりして、トラブルが生じることがある。具体的なトラブル事例について考えることで、このような状況を身近に感じさせながら、気持ちが十分に伝わらない原因を考えさせる。

また、様々なコミュニケーションツールの特徴を比較することで、インターネットでのコミュニケーションの特徴についての理解を深めさせる。

道徳では、オンラインゲームでのコミュニケーションでトラブルになってしまったひろしさんとかずやさんの気持ちや原因等を、自分との関わりで考えさせる。

## 動画教材視聴のポイント

導入教材は、仲のよいひろしさんとかずやさんが、どうしてトラブルになってしまったのか、考えさせながら視聴させる。

解説動画では、インターネットでのコミュニケーションの特徴やその他のコミュニケーションツールの特徴を整理するとともに、よりよいコミュニケーションの取り方を考えさせながら視聴させる。

## 取扱い教科等

① 主たる取扱い教科等

小学校

道徳 2 主として他の人とのかかわりに関すること

特別活動 学級活動 (2) ウ 望ましい人間関係の形成

中学校

道徳 2 主として他の人とのかかわりに関すること

特別活動 学級活動 (2) オ 望ましい人間関係の確立

特別活動 学級活動 (2) キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

② ①以外の教科等での取扱い

小学校 国語 伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

イ(カ) 語感, 言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つこと

③ ②の教科等での取扱いのポイント

国語科の該当する単元で, 本教材を基にして, それぞれのコミュニケーションツールの長所と短所や特性について話し合う場面で, 本教材を活用することによって語感や言葉の使い方に対する感覚等に関心を持たせることができる。

### 情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応

「1. 情報社会の倫理」

小学校 a3-1: 他人や社会への影響を考えて行動する

中学校 a4-1: 情報社会における自分の責任や義務について考え, 行動する

## 2.1 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

### 本時の目標

インターネットでのコミュニケーションの特徴やコミュニケーションツールには利点と欠点があることを理解させ, 相手の状況や気持ちを考え, 思いやりを持ってやり取りしようとする態度を養う。

### 授業実施前の準備・事前指導

事前に, 児童生徒が日常的にどのような手段で友達とコミュニケーションを取っているのか, トラブルに巻き込まれたことがないかなどについて, アンケートで確認する。その結果は導入の資料として紹介し, 本時の課題につなげる。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：7分〕</b></p> <p>1 アンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション方法はSNSが多い</li> <li>・急ぎの用事は電話で伝える</li> <li>・大事なことは手紙に書く</li> <li>・SNSで友達と言い合いになった</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>適切なコミュニケーションの取り方について考えよう。</p> </div> <p><b>〔原因を追求する：小学校 15分，中学校 17分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し，おたがいにどのようなことを思ったのか，どうして誤解したのかをワークシートに書き，グループで話し合い，発表する。</p> <p><b>【おたがいに思ったこと】</b></p> <p>ひろしさん：・負けっぱなしだ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイテムを使おう</li> <li>・何でいかりのスタンプ？</li> <li>・こっちも送ってやる</li> <li>・あれ，ゲームやめた，どうしたんだ</li> </ul> <p>かずやさん：・アイテム使ってきてずるい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いかりのスタンプ送ってやろう</li> <li>・何だよ，送り返してくるなよ</li> <li>・もういい，ねる</li> </ul> <p><b>【どうしてご解したのだろう】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンプだから相手の気持ちが分かりにくい</li> <li>・表情がないと気持ちがわからない</li> <li>・おたがいの気持ちを考えようとしなかった</li> </ul> <p><b>〔解決方法を考える：小学校 15分，中学校 18分〕</b></p> <p>4 解説動画を視聴し，どのようにしたら誤解しなかったかを考えながら，コミュニケーションツールを使うとき，気を付けることをワークシートに書き，全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔を合わせたコミュニケーションも入れる</li> <li>・ご解されないような言い方，書き方を考える</li> <li>・相手や相手の状況を想像しながらツールを選ぶ</li> </ul> <p>5 コミュニケーションを取るとき，気を付けたいことを考え，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや意図がきちんと伝わっているか考える</li> <li>・相手がどう思うか考える</li> <li>・実際に会ったときのことを考える</li> </ul> <p><b>〔個人目標を自己決定する：8分〕</b></p> <p>6 発表の内容を参考にしながら，これから自分が気を付けることをワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時と場合に応じて，コミュニケーションツールを使い分けていることを押さえる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>&lt;導入動画&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインゲームでのコミュニケーションでトラブルになってしまったひろしさんとかずやさんのお話です。どうしてトラブルになってしまったのかを考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方の立場での意見を比較できるように板書し，誤解していることに気付かせる。</li> <li>・誤解が生じたことにより，心情的な動き（つらい気持ち）にも言及できるように支援する。</li> <li>・コミュニケーショントラブルが起きている間のストレス，不安感を理解できるようにさせる。かつ，不安感は双方とも感じている気持ちであることを理解させる。</li> <li>・相手を思いやることが重要であることを理解させる。</li> <li>・コミュニケーションの手段を適切に判断し，使い分ける必要性に気付かせる。</li> <li>・具体的な実践方法を自己決定できるよう，話し合った工夫を参考にさせる。</li> <li>・ワークシートを持ち帰り，学校だけの学習で終わらせるのではなく，学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。</li> </ul>

アンケート結果

適切なコミュニケーションの取り方について考えよう

コミュニケーションの方法

ひろしさん

かずやさん

負けっぱなしだ  
アイテム使おう  
何でいかりのスタンプ？  
こっちも送ってやる  
あれ、ゲームやめた、どうしたんだ

アイテム使ってきて  
ずるい  
いかりのスタンプ  
送ってやろう  
何だよ、送り返してくるなよ  
もういい、ねる

どうしたらご解しなかつたろう

1. 顔を合わせたコミュニケーションも入れる
2. ご解されないような言い方、書き方を考える
3. 相手や相手の状況を想像しながらツールを選ぶ

気を付けたいことをまとめよう

- ・自分の思いや意図がきちんと伝わっているか考える
- ・相手がどう思うか考える
- ・実際に会ったときのことを考える

どうしてご解したのだろう

スタンプだから相手の気持ちが分かりにくい  
表情がないと気持ちが分からない  
おたがいの気持ちを考えようとしなかつた

事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。
- ②実践状況を話し合うなど、定期的に振り返りの時間を設け、実践意欲を持続させる。また、学習内容を学級だより等で保護者に伝え、家庭と連携しながら日常生活で実践していけるようにする。

シナリオ・スライド → p.46

コミュニケーションに関するアンケート

年 組 番 名前

1 友達と直接会って話をする以外に、よく利用するコミュニケーションの方法を多い順に数字で教えてください。

「その他」を選んだ人はコミュニケーション方法を具体的に書いてください。

- 電話
- 電子メール
- 紙に書く（手紙等）
- 無料通話アプリ
- SNS
- その他

2 直接会って話す以外に、どのようなときに、どのような方法で友達とコミュニケーションを取っていますか。多く使うコミュニケーション方法について具体的に書いてください。

3 インターネットで友達とやり取りしているとき、何かトラブルになったことはありますか。どちらかに○を付けてください。

「ある」と答えた人はその内容を具体的に書いてください。

- ある
- ない



うまく伝わったかな？

年 組 番 名前

課題

--

1 おたがいにどのようなことを思ったのか書き出してみましょう。

ひろしさん		かずやさん	
-------	---	-------	--

2 どうしてご解してしまったのでしょうか。

--

3 コミュニケーションツールを使うとき、気を付けることを書きましょう。

--

4 コミュニケーションを取るとき、これから自分が気を付けることを書きましょう。

--

学んだことを家の人に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

家の人からの言葉
----------

## 2.2 モデル指導案：道徳学習指導案

### 本時の目標

相手の状況や気持ちを考え、思いやりを持ってやり取りする心情を養う。

### 授業実施前の準備・事前指導

事前に、児童生徒が日常的にどのような手段で友達とコミュニケーションを取っているのか、トラブルに巻き込まれたことがないかなどについて、アンケートで確認する。その結果は導入の資料として紹介し、本時の課題につなげる。(アンケートは特別活動と共通)

### 本時の展開

※道徳については、解説動画は視聴しない。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔導入：8分〕</b></p> <p>1 アンケート結果を確認し、トラブルになった事例を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットで友達とやり取りをしてトラブルになった人がいる</li> </ul> <p><b>〔展開：小学校 32分，中学校 34分〕</b></p> <p>2 導入動画を視聴する。</p> <p>3 なぜ、お互いにかりのスタンプを送り合ったのかをワークシートに書き、発表する。 【どうしてかりのスタンプを送ったのか】</p> <p>かずやさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アイテムを使うひろしさんに頭にきた</li> </ul> <p>ひろしさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わけがわからなかった</li> <li>送られたかりのスタンプに頭にきた</li> <li>少し不安になった</li> </ul> <p>4 学校でひろしさんが考えていたことをワークシートに書き、発表する。 【学校でひろしさんが考えていたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どうしてゲームをやめたの？</li> <li>直接話そう</li> <li>かりのスタンプを送ってごめん</li> <li>仲良くしたい</li> </ul> <p>5 どうして気持ちが伝わらなかったのか、ワークシートに書き、グループで話し合っ、発表する。 【どうして気持ちが伝わらなかったのか】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタンプだけでは気持ちが正しく伝わらないから</li> <li>相手の気持ちを考えようとしなかったから</li> <li>直接会って話していないから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果をグラフ化して提示する。インターネットでのコミュニケーションではどのようなことが大切なのかたずね、価値への方向付けをする。</li> <li>トラブルの事例を共有する際は、個人の特定をしないなどの配慮をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひろしさんとかずやさんがインターネットのゲームでトラブルになってしまいました。どのようにすればトラブルにならないでインターネットでのコミュニケーションを取ることができるのかを考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面絵を活用してトラブルに陥ってしまったことを把握させる。</li> <li>「ひろしさん」と「かずやさん」の立場から自分の思いを自分の言葉で語らせる。</li> <li>相手の状況や気持ちを考えようとするときの思いを自分との関わりで考えさせる。</li> <li>相手の気持ちを考えたコミュニケーションの取り方について自分なりにまとめる。</li> </ul>

6 コミュニケーションを取るとき、うまく気持ちを伝えるために、どのようなことに気を付ければよいか、ワークシートに書き、発表する。

【うまく気持ちを伝えるために】

- ・ご解のない表現を心がける
- ・相手の気持ちを考えてやり取りする
- ・意味がわからなかったら直接話す
- ・返信がなくてもイライラしない

〔終末：小学校5分，中学校8分〕

7 教師の説話

・相手の気持ちを考えてやり取りするなど、相手を思いやる気持ちを持って、誤解のない表現を心がけたり、返信がなくてもイライラしたりしないなどの考えをまとめさせる。

・これからの自分の生活に関わって、具体的な場面を設定して考えさせ、実践への意欲付けとする。

・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

### 板書計画

ひろしさん かずやさん

SNS	人数
手紙	4
メール	3
電話	2

トラブル  
まらがって  
伝わった  
意味がわか  
らなかつた

思いやり  
うまく伝わったかな？

「どうしていかりのスタンプを送ったのか」

アイテムを使うひろしさんに頭に来た

いかりのスタンプ

わけがわからなかった  
送りたいいかりのスタンプに  
頭に来た  
少し不安になった

学校で「ひろしさん」が考えていたこと  
どうしてゲームをやめたの？  
いかりのスタンプを送ってごめん 仲よくしたい  
直接話そう

「どうして気持ちが伝わらなかったのか」  
スタンプだけでは気持ちが正しく  
伝わらないから  
相手の気持ちを考えようとしなかったから  
直接会って話していないから

「うまく気持ちを伝えるには」  
ご解のない表現を心がける  
相手の気持ちを考えてやり取りする  
意味がわからなかったら直接話す  
返信がなくてもイライラしない

教材13

### 事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせる。
- ②実践状況を話し合うなど、定期的に振り返りの時間を設け、実践意欲を持続させる。また、学習内容を学級だより等で保護者に伝え、家庭と連携しながら日常生活で実践していけるようにする。



うまく伝わったかな？

年 組 番 名前

1 どうして、いかりのスタンプを送ったのでしょうか。

<p>ひろしさん</p> 	<p>かずやさん</p> 
--	---

2 学校で「ひろしさん」はどのようなことを考えていたのでしょうか。

	
--	--

3 どうして気持ちが伝わらなかったのでしょうか。

--

4 これからコミュニケーションを取るとき、どのようなことに気を付ければよいのでしょうか。

--

学んだことを家の人に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

<p>家の人からの言葉</p>
-----------------

## 大切なものを守るパスワード

みなさんの中で、家には鍵がない、という人はいるかな？ 鍵がない家には誰でも出入りができるため、大切な財産を持ち出されてしまうばかりか、他の人が来て自分の生活を見られるなど、プライバシーが守られない状態になってしまう。

このため、どの家でも鍵を付けて、外部からの不正な侵入を防ぎ、持ち物やプライバシーを守ることで、安全で安心な生活を送れるよう備えている。

インターネットに接続して、電子メールを送受信したり、ゲームで対戦したり、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を使ってメッセージや情報を発信する際には、ID とパスワードを入力して使いたい機能にログインする。このパスワードは、例えると家の鍵に当たる。パスワードを使用することによって、大切なものを守るができるのである。

それでは、どのようなものが守られるのかを具体的に考えてみる。まず電子メールである。電子メールで家族や友達とやりとりした内容は、他の人には読まれたくないものもある。例として親しい人に送る自分の写真データや、待ち合わせの場所、電話番号等の連絡先等がある。このような情報は、「個人情報」と呼ばれ、取扱いは慎重にしなければいけないものである。もし、待ち合わせの場所を悪意のある人に知られてしまったら、その場所で待ち伏せされてしまうかもしれない。

また、自分の写真データをインターネット上に拡散されて、世界中のたくさんの人に見られてしまうこともある。写真データには、その写真を撮影した場所の位置情報が隠れていることがあり、自宅で撮った写真が悪い人の手に渡ると、自宅の場所まで突き止められてしまう危険がある。

パスワードは、保護者以外には知られないように、家の鍵と同様に大切に管理するようにする。

また、パスワードを設定する際には、他人に知られないための工夫も必要である。他の人に推測されてしまうような、誕生日や電話番号、出席番号等をパスワードに



するのは絶対にやめるようにする。

さらに、覚えるのが面倒だからといってパスワードを使い回して、電子メールも対戦ゲームも SNS も全て同じパスワードにすることは危険である。パスワードの情報が盗まれてしまうと、全ての機能を乗っ取られ、自分ではログインができなくなったり、操作ができなくなったりすることがある。全く異なるパスワードにすると覚えにくい、という場合には、機能ごとに違う文字や記号を加える方法を取り入れるようにする。

さて、動画教材では友達の名前とパスワードで、勝手にゲームや SNS にログインしていたが、これは、不正アクセス禁止法違反に当たる。実際に、ネット上で知り合った人の ID とパスワードを聞きだし、勝手にログインしたことで小学生が補導されるという事件が発生している。他の家に勝手に入り込むのと同じように、他の人のパスワードを使ってログインすることも犯罪になることを覚えておこう。

## 教材 14 適切なコミュニケーション（中2～高3）

# コミュニケーションの 取り方を見直そう

## 1 動画教材を使うに当たって

### 教材のねらい

現代社会では価値観が多様化し、様々な相手や世代によって考え方や感じ方などが異なる。特に、インターネットでのコミュニケーションは、相手の表情が見えないため、誤解が生じないように配慮が必要である。本教材では、自分や相手の置かれている状況や、相手の気持ちを考えて、適切な手段を選択し、思いやりの心を持ってコミュニケーションを取る態度を養う。

### 指導観

情報化社会の進展等、社会の急速な変化の中で、多様な価値観、考え方を受容できる力を育むことが必要となってきた。

本教材は、コミュニケーションの手段は、対象や状況によって適切な選択をしなければならないことを理解させ、よりよい人間関係の在り方について考えさせる。また、相手の顔が見えないコミュニケーションにおいても、他人への思いやりが必要であることを理解させる。

その上で、他人の意見に耳を傾け、相手の環境や状況に応じたコミュニケーションの手段を選択できる判断力と多様な価値観、考え方を受容できる柔軟な心を育む。

### 指導時のポイント・留意点

我々が生活する社会では、世代や人それぞれの経験や立場が異なることにより、考え方や感じ方が異なり、インターネットでのコミュニケーションでも、相手によって受け取り方が異なることに気付かせる。

また、コミュニケーションにおいては、相手のことを思いやり、自らの判断で手段を選択しなければならないことを理解させる。

### 動画教材視聴のポイント

導入動画では、生徒自身がいずれ社会人として様々な立場の人と適切なコミュニケーションを取らなくてはならないことを意識させながら、とおるさんと父の会話を通して、どのようなことを感じるのか考えながら視聴させる。

解説動画では、コミュニケーションギャップ、ジェネレーションギャップの存在について理解させ、コミュニケーションで大切にすることは何か、考えさせながら視聴させる。

### 取扱い教科等

#### ① 主たる取扱い教科等

中学校

特別活動 学級活動 (2) オ 望ましい人間関係の確立

特別活動 学級活動 (2) キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

高等学校

特別活動 ホームルーム活動 (2) オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立

② ①以外の教科等での取扱い

中学校

国語 第2学年 A 話すこと・聞くこと

国語 第3学年 A 話すこと・聞くこと

道徳 2 主として他の人とのかかわりに関すること

高等学校

国語 A 話すこと・聞くこと

③ ②の教科等での取扱いのポイント

道徳や特別活動、国語等、様々な教科において意思の疎通や相手を思いやる心、相手への配慮等の場面で本教材を用いて理解を深め、実践意欲を高めさせる。

**情報モラル指導モデルカリキュラム表への対応**

「1. 情報社会の倫理」

中学校 a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する

高等学校 a5-1：情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす

「5. 公共的なネットワーク社会の構築」

中学校 i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する

高等学校 i5-1：ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する

## 2 モデル指導案：特別活動（学級活動）指導案

**本時の目標**

コミュニケーションを取るときに、送り手と受け手の間に生じてしまう「ギャップ」について考えさせることを通して、自分や相手の置かれている状況や、相手の気持ちを考えて、適切な手段を選択し、思いやりの心を持ってコミュニケーションを取る態度を養う。

**授業実施前の準備・事前指導**

コミュニケーションの手段として、生徒がふだんからどのようなものを利用しているか、年齢の離れた人、異なる立場の人とインターネットを使ったやり取りをしたことがあるかなどについて、事前にアンケートを実施する。

また、コミュニケーションという視点で、話題となるような事例を集めさせる。例えば、新聞の投書欄、ニュース等を基に世代間のコミュニケーションギャップを扱った記事や、学校生活におけるコミュニケーションの不足により意思の疎通にすれ違いが生じた事例等を朝の会や帰りの会等で紹介させる。

学習活動	指導のポイント
<p><b>〔課題をつかむ：5分〕</b></p> <p>1 アンケートの結果をみて、年齢の異なる人とのコミュニケーションの取り方について気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な用件を伝えるときは、直接会って話すことが多い</li> <li>・相手によって連絡の取り方が違う</li> <li>・年齢の異なる人との会話では、分からない言葉が出てくることがある</li> </ul> <p>2 本時の課題を理解する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>様々な立場の人とのコミュニケーションでは、どのようなことを意識する必要があるか考えよう。</p> </div> <p><b>〔原因を追求する：30分〕</b></p> <p>3 導入動画を視聴し、とおるさんと父の会話からどのようなことを感じたのかグループで話し合う。</p> <p>4 とおるさんと父の立場に分かれて導入動画を再度視聴し、とおるさんと父の考えていることをグループごとに画用紙に書き、全体で共有する。</p> <p><b>【とおるさんと父の考えていること】</b></p> <p>とおるさん：・教えてあげればいいのに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして送らないの</li> <li>・すぐに送ることができるのに</li> </ul> <p>父：・大切なものを無料通話アプリで頼んでもいいの？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親しくない人に無料通話アプリで送っていいの？</li> <li>・大切な資料をメールで送っていいの？</li> </ul> <p>5 ギャップが生じる理由についてグループで話し合い、全体で発表する。</p> <p><b>【ギャップが生じている理由】</b></p> <p>とおるさん：・連絡しやすいから、いいじゃないか</p> <p>父：・重要なものは直接手渡す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話してから渡す</li> <li>・いきなり無料通話アプリで依頼するのは失礼だ</li> </ul> <p>6 ギャップが生じる理由を理解した上で、社会に出てからの自分を想像しながら、コミュニケーションの手段とその手段を使って関わる立場の人を選択し、ワークシートに書き、グループで意見交換し、発表する。</p> <p><b>【コミュニケーション手段】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接会って話す — 会社の人</li> <li>・手紙 — 友人</li> <li>・電話 — 友人・家族、会社の人</li> <li>・メール・無料通話アプリ — 友人・家族</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・差異を見つけようと教員が誘導するのではなく、結果から根拠を持って言えることを考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt; 導入動画 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんもいずれ社会人として様々な立場の人とコミュニケーションを取ることになります。とおるさんとお父さんの会話を通して、どのようなことを感じるのか考えながら見ましょう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方のギャップを見い出させ、ギャップの存在を共有できるように、支援する。</li> <li>・この親子の会話の食い違い（ギャップ）が生じた原因を話し合い、コミュニケーションの手段や内容は、相手や世代、内容によって異なることに気付かせる。</li> <li>・社会に出てからの自分を想像しながら、どのように振る舞うことが必要かを考えさせる。</li> <li>・人によって考え方は様々であり、インターネットを使う目的、使い方も異なる。インターネットには公共性があるということも確認させる。</li> <li>・具体的にギャップの事例を挙げながら、コミュニケーションを取るときに配慮することについて確認させる。</li> </ul>

〔解決方法を考える：7分〕

- 7 解説動画を視聴し、今後、コミュニケーションを取るときに自分が大切にしたいことを考え、発表する。
- ・人それぞれの価値観や考え方を大切にする
  - ・コミュニケーション手段は相手や内容に応じて選択する
  - ・思いやりを持って接する

〔個人目標を自己決定する：8分〕

- 8 発表の内容を参考にしながら、自分がこれから大切にするコミュニケーションの心得をワークシートにまとめる。

- ・ワークシートを持ち帰り、学校だけの学習で終わらせるのではなく、学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。

板書計画

### アンケート結果

家庭でのインターネット利用機器

機器	0人	5人	10人	15人
パソコン				13人
携帯電話			8人	
スマートフォン		5人		
ゲーム機			10人	
音楽プレイヤー		3人		
タブレット			7人	

様々な立場の人とのコミュニケーションでは、  
どのようなことを意識する必要があるか考えよう



とあるさん



父

世代による違い

親	メール
祖父母	無料通話アプリ
友人	電話
友人	無料通話アプリ
友人	メール
大人	電話

考えの違い

ギャップ

会社の人	友人・家族 会社の人
直接会って話す	電話
手紙	メール 無料通話アプリ
友人	友人・家族

教えてあげればいいのに

どうして送らないの

すぐに送ることができるのに

大切なものを無料通話アプリで頼んでもいいの？

親しくない人に無料通話アプリで送っていいの？

大切な資料をメールで送っていいの？

重要なものは直接手渡す  
話してから渡す  
いきなり無料通話アプリで依頼するのは失礼だ

ギャップが生じる理由

連絡しやすいから、いいじゃないか

人それぞれの価値観や考え方を大切にする

コミュニケーション手段は相手や内容に応じて選択する

思いやりを持って接する

事後指導

- ①保護者からのコメントを朝の会や帰りの会等で紹介し、学んだことを振り返らせるとともに、実践の継続化につなげる。
- ②朝の会や帰りの会等を利用して、本テーマに関連した資料を紹介させたり、話をさせたりして、理解を深めさせる。
- ③相手を思いやるコミュニケーションができた生徒は様々な機会に紹介し、生徒の意欲を持続させる。

シナリオ・スライド → p.47

コミュニケーションに関するアンケート

年 組 番 名前

1 家庭でインターネットを使うとき、どのような機器を使っていますか。  
当てはまるもの全てに○を付けてください。

- パソコン     携帯電話     スマートフォン  
 ゲーム機     音楽プレイヤー     タブレット端末  
 その他

インターネットは利用していない

2 一般的によく利用すると思われるものに○を付けてください。

- ①ニュースを見る     インターネット     テレビ     新聞     その他  
 ②調べ物をする     インターネット     書籍     新聞     図書館等  
 ③大切な用件を伝える     無料通話アプリ     電話     メール  
     手紙      直接会って話す

3 親、祖父母、友人、大人（家族以外）と連絡するとき、どの方法をとりますか。  
当てはまるもの全てに○を付けてください。

	メール	無料通話アプリ	電話	手紙	直接会って話す
親					
祖父母					
友人					
大人 (家族以外)					

4 年齢の離れた人、異なる立場の人とインターネットを使ったやり取りをしたことがありますか。そのとき、困ったこと、違和感を持ったことを具体的に書いてください。



コミュニケーションの取り方を見直そう

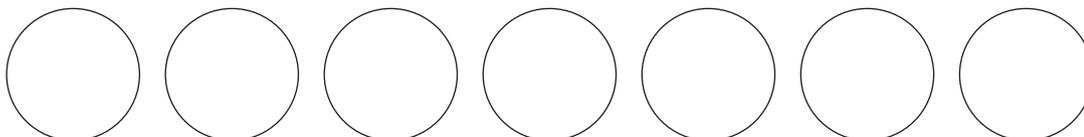
年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

課題

1 コミュニケーションの手段とその手段を使って関わる立場の人を選択しましょう。

- ① A～Dにはコミュニケーションの手段を書きましょう。
- ② 表の下にある○の枠にこれから関わりがあるであろう立場の人を書きましょう。  
(例:家族 先輩 友人等)
- ③ ○枠の中の人をそれぞれ選択してA～Dの外枠に書きましょう。

A	B
C	D



2 自分がこれから大切にするコミュニケーションの心得を3つ書きましょう。

- 
- 
-

学んだことを保護者に伝えて話し合い、意見や感想を書いてもらいましょう。

保護者からの言葉

石田 淳一

(独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター 普及グループ主幹)

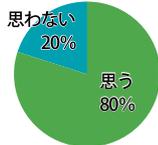
道具を「使っている」のか「使われている」のか

ある女子高生の生活を取り上げたテレビ番組が放送された。目を覚ますやいなやスマホをチェックし、LINEで友達に朝の挨拶をする。朝食をとりながらTwitterを確認し、通学中は複数の友人のブログを閲覧した。この日、彼女は、LINEで68件のコメント送信、Twitterでは418のツイート閲覧、ブログ4人分のチェックを行った。

息をつく暇もなさそうなその生活は、「スマホに振り回されている」という印象を残した。SNS、スマホ、インターネット、これらは全てコミュニケーションをとるための道具である。児童生徒はこれらの道具を使いこなしているようで、実は振り回されているのではないか。「ネット疲れ」なる言葉が生まれるほどに彼らは疲れているようにも見える。

「(無料通話アプリの)既読があることで相手に返信しなければいけないと思いますか?」との質問に80%の学生が「はい」と答えた。これは、2013年6月、関西大学で100人の学生を対象としたアンケート<sup>\*1</sup>の結果である。返信をしなければ、信頼関係の崩壊やいじめにつながる可能性があるという。相手がなぜ返信できないのか、その状況を思い描くことができないほどに想像力が欠乏しているのではないかと危機感を持ち、私は、年間50回ほど行っている児童生徒向け情報モラル・情報セキュリティ教室の中で、「現実の生活で返信できない状況とはどんなときか」を考えてもらい始めた。

既読があることで相手に返信しなければいけないと思いますか?



IPA<sup>\*2</sup>は、文部科学省をはじめとする関連省庁の後援を受け、情報モラル・情報セキュリティをテーマとした標語・ポスター・4コマ漫画のコンクールを実施している。高校生の約63%がインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為を経験している<sup>\*3</sup>、という現実から、インターネットの安全利用への意識向上はさらに重要度を増しており、平成28年度もコンクールを開催することを決定した。

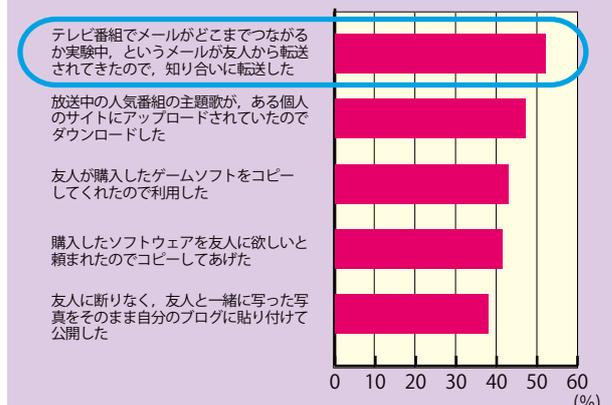
このコンクールの学校賞を受けた複数の学校では、作品制作の授業によって、生徒同士が情報モラル・セキュリティについて話す機会が増えたという。ワンクリック詐欺に遭ったことを親に相談できなかった、と誰かが話せば、周りの生徒は、詐欺がニュースだけの話ではなく、身近にある脅威だと感じたことだろう。また、自分のブログに書き込んだ内容を見直したい、と自分の行動を省みる生徒がその経験を共有することで、クラス全体の意識向上になったのではないだろうか。

犯罪に気づかない児童生徒

平成25年12月にIPAが発表した「情報セキュリティに対する意識調査」<sup>\*4</sup>の結果から、インターネットに関連した迷惑行為や違法行為を、問題視しない10代の青少年の実態が浮き彫りとなった。チェーンメールと思われるメールも、「テレビ番組の実験」だと言われればそれをうのみにして転送してしまう可能性がある若者の割合は50%を超える。さらに、ソフトウェア等の違法ダウンロード、違法コピーについても4割以上が、「問題ではない」と考えていた。

このように、児童生徒は、問題行為についての情報が不足しているようだ。実際に授業で、「〇〇は万引き犯だ」と公の場であるインターネット上に書き込む行為は「名

10代がインターネット上で問題ではないと思う行為



誉棄損罪」になり得る、という話をすると、ざわつきが起きる。また、設定によってはスマホ等で撮影した写真には位置情報が隠されていて、自宅で撮った写真をブログに載せると、自宅の場所まで公開することになる、という問題を説明すると、先生まで顔色を変えることがある。

児童生徒は知らずに事件や事故に巻き込まれていることが少なくない。インターネットを利用していながら、必要な情報を取得できていない児童生徒は「情報弱者」と言えるのではないだろうか。より具体的な対策や事故の例を挙げ、インターネットの世界における「善」「悪」を示すことが、今の10代に対する大人の在り方ではないかと考えている。

\*1 関西大学 谷本奈穂ゼミ 有志学生記者調べ  
 \*2 IPA (Information-technology Promotion Agency, Japan) : 独立行政法人情報処理推進機構コンクールサイト <http://www.ipa.go.jp/security/event/hyogo/>  
 \*3 内閣府 平成24年度 青少年のインターネット利用環境実態調査  
 \*4 IPA 「2013年度 情報セキュリティに対する意識調査」報告書について <http://www.ipa.go.jp/security/fy25/reports/ishiki/index.html>

## 児童会や生徒会の自治と情報モラル

児童会や生徒会活動は、学校における自分たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上を目指すために、児童生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動である。児童会や生徒会活動のひとつとして、スマートフォン等によるトラブルの防止を取り上げて、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育成し、成果をあげている学校が増えている。

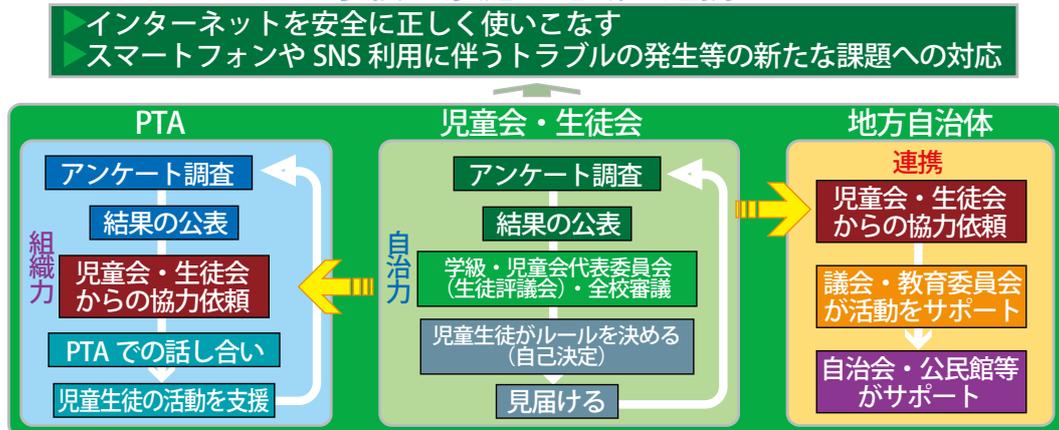
具体的には、この活動は児童会や生徒会が児童生徒の実態を調査することから始まる。児童会や生徒会は、調査結果としてトラブルの種類や件数、事例を収集する。また、平日や休日のゲームやインターネットの利用時間が明らかになる。小学校では「ゲームの時間を減らしたいが、なかなか減らない」、中学校では「インターネットの時間を減らしたいが減らない」等の悩みを抱える児童生徒の実態も明らかになる。問題が明らかになると、児童会や生徒議会が中心になって対策を話し合う。全校集会や生徒集会等で、調査結果を全校に周知し、全校の意見を集約する。この意見をもとに原案を作成し、全校で話し合ってルールや約束等を決める。

学校とPTAは、児童会や生徒会活動をバックアップする。児童会や生徒議会活動を支援したり、アドバイスしたりする。また、児童会長や生徒会長がPTA会長に取り組みの支援を求める場を設定する。「インターネットの時間を減らしたいという仲間がたくさんいるので、

自分たちで約束を決めて、全校で守っていききたい。インターネットは、家庭での利用がほとんどなので、各家庭で私たちに助言してもらいたい。」と生徒会長がPTA会長に依頼して、生徒会・PTA・学校が連携して活動するといった事例である。この事例では、PTAは「生徒が話し合っただけの約束なので、全ての家庭で生徒会の決めた約束が履行されるよう支援する」といった申合わせを全PTAに徹底して成果をあげている。さらに、生徒会は、同じ市や町の中学校と協力して、それぞれの学校で話し合い、市内や町内の共通する約束をつくり、市町の首長や教育長に協力を依頼して地域をあげて生徒会活動を支援した事例もある。これらの活動が児童生徒の自主性・主体性を育てるとともに、学校集団としての活力を高め、健全で豊かな学校生活が展開できるような集団を育成することにつながっている。

これら児童会や生徒会活動とともに行われているのが、計画的に進められる学校を中心とした情報モラル教育である。PTA総会や入学者説明会等で繰り返し情報モラルに関する話題を取り上げ、PTAと連携して研修等を継続して最新の情報を伝え続ける。また、情報モラルの題材を扱った授業を計画的に実施し、学校通信等で取りあげて保護者や地域に伝える。授業のワークシートに「おうちの人の意見欄」を設けて、授業の様子を児童生徒が親に説明したり、親子のコミュニケーションを図ってもらうよう工夫したりするといった取り組みである。

## 学校・家庭・地域の連携



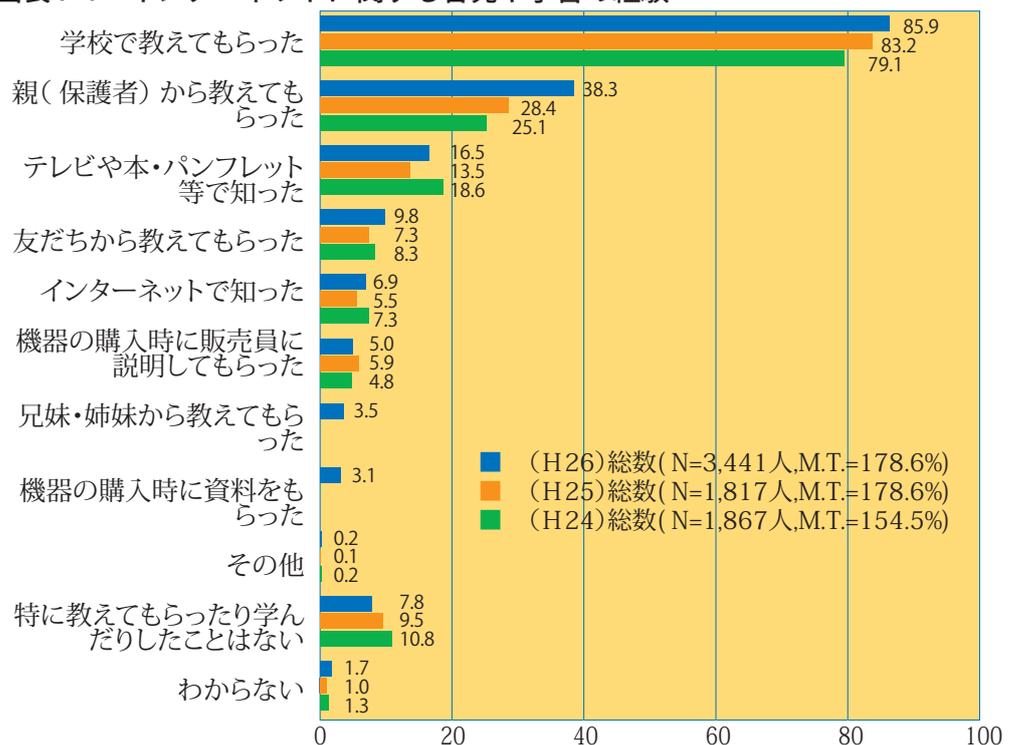
- 学校で実施する計画的な情報モラルの授業
- 情報モラルの話題を取り上げる家庭学習
- 学校から保護者や地域に配布される通信、ホームページ等での啓発
- PTA総会・新入生説明会等での研修
- 道徳科・教科等との連携
- 親子のコミュニケーション

## 保護者との連携

### 7.1 情報モラル教育に対する保護者の意識の高まり

情報モラルの指導では、ICT 機器を持たせる前後の教育を学校と家庭が連携して行うことが重要である。内閣府の調査では、児童生徒の約 38% がインターネットに関する啓発や学習を保護者から教えてもらっていると答えている。その傾向は年々増加し、平成 24 年から平成 26 年の 2 年間で約 1.5 倍になっており、平成 22 年 4 月に施行された「青少年インターネット環境整備法」の中にもうたわれている保護者の責務に対する意識が高まってきていることがうかがえる。【図表 7-1】

図表 7-1 インターネットに関する啓発や学習の経験



※1 平成24年度～25年度の選択肢は「携帯電話を買ったときに店員に説明してもらった」

※2 「兄弟・姉妹から教えてもらった」は平成26年度新設項目のため25年度以前のデータは存在しない

※3 「機器の購入時に資料をもらった」は平成26年度新設項目のため25年度以前のデータは存在しない

〈内閣府（2015）「平成 26 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」をもとに作成〉

一方、種々の ICT 機器を子供に与えるタイミングは家庭に委ねられており、必要な時期にそれらの扱いに関する教育を行うのは保護者の責務となる。第 1 部で見たように中高生の 8 割以上がインターネットを利用する現状では、学校と家庭が連携して指導を進めることが必要である。

## 7.2 家庭でのルールの実態

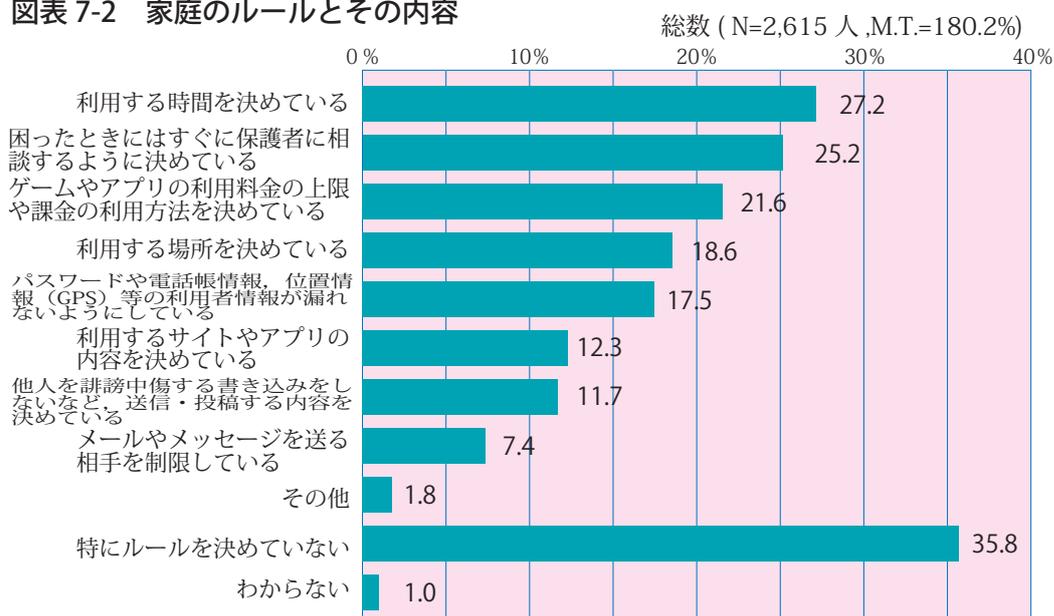


また、内閣府では、青少年育成（インターネット利用環境整備）のフィルタリングの説明の中で「インターネットの利用に関する判断基準は子どもの成長ともなって変わっていくため、保護者はインターネット上には有害情報が氾濫していることを認識した上で、子どものインターネットの利用のルールを決めて、しっかり見守ることが大切です。」※1とし、保護者の認識とともに、インターネットを使う場合のルール決めと見守りの大切さを説明している。

しかし、図表 7-2 にあるように、家庭のルールとその内容については、「利用時間の設定」や「困ったときの保護者への相談」、「課金の上限」などが 20%を超える一方、ルールを決めていない子供が約 36% いる実態がある。

※1 [http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/seibi\\_law/](http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/seibi_law/)

図表 7-2 家庭のルールとその内容



〈内閣府 (2015) 「平成 26 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」をもとに作成〉

本調査研究では、子供の実態、家庭での意識の実態、2013 年度の文部科学省委託事業「情報化の進展に伴う新たな課題に対応した指導の充実に関する調査研究」での調査で明らかになった課題等を参考に、保護者向け情報モラル教育の教材の開発を行った。また、開発した教材を活用するために、研修会例等をまとめた「講義ガイド」や、説明用のスライド資料、研修会等で配布するパンフレットも作成した。



## 7.3 保護者向け情報モラル教育の教材について

情報モラル教育の取り組みは学校教育だけでなく社会教育、家庭教育においても必要である。保護者がこの問題に対し関心を持つことは、青少年のインターネットの課題に対する解決への第一歩となる。そのため、PTA等の組織を中心に、多くの社会教育団体で実施されている研修においても、情報モラル教育に関する研修を実施していただきたい。

### 7.3.1 なぜ保護者の情報モラル研修が大切か

#### ①インターネット機器の所持は家庭の判断

スマートフォンや、音楽プレイヤー、ゲーム機等、子供を取り巻くインターネット機器と環境は急速な広がりを見せている。それらのインターネット機器を子供に所持させるかどうかは各家庭の判断であり、所持時や所持後の家庭内での情報モラル教育が大切である。

#### ②ネット機器の所持についての保護者の責務

2点目として、未成年である子供のインターネット利用は、保護者に見守る義務や監督の責任がある。法律にも明記されており、「保護者の責務」という文言で記載されている。

#### ③子供たちが起こすネット問題の多くは家庭で発生

小中学生は、学校へのインターネット機器の持込みは許されていない（高等学校は学校により異なる）。それらの機器を利用する多くは各家庭や校外となり、トラブルの発生も多くは学校外での利用時に生じている。

本事業で作成した教材は、インターネットのトラブルが家庭でも起こることとして理解してもらうため、ある家庭の日常を主題とした動画教材を中心に構成した。

### 7.3.2 動画教材の概要について

提供する動画は次のとおりである。

#### ①動画のタイトル

『話し合っていますか？家庭のルール』  
～安全で安心なインターネット利用のために～

#### ②動画の構成

動画は、単独でも利用が可能な「動画A」、「動画B」、「動画C」の3本で構成した。この3つを合わせた「通し動画」を含め、多様な研修にも応じられるようにした。

#### ③動画の主人公

父、母、長女（高校生）、次女（中学生）、弟（小学生）の5人家族。子供のネット利用を心配する母、ちょっと関心が低い父、しっかり者の長女、スマートフォンを手放せない次女、ゲームに夢中の弟が、どの家庭にでも起こり得るインターネットの問題を展開する。



#### ④動画のあらすじ

##### 【動画A】「はじめが大切」

スマートフォンの購入を母にお願いする次女。買ってもらった方がいいものの、利用に夢中になり、家族の会話が減った様子

##### 【動画B】「知らなかったでは済まされない」

弟が、携帯ゲーム機でホームページを閲覧していたことを知り、子供たちが機器で何をしているか不安になる母。

ママ友達に相談する中で、様々なことを教えてもらっている様子。

##### 【動画C】「家庭のルール」

スマートフォンの利用のルールを巡り、次女と母とが口げんか。長女が母に自分の体験を踏まえてアドバイスをし、ルールを作ることをの目的を父母が確認していく様子。



#### ⑤動画の使い方

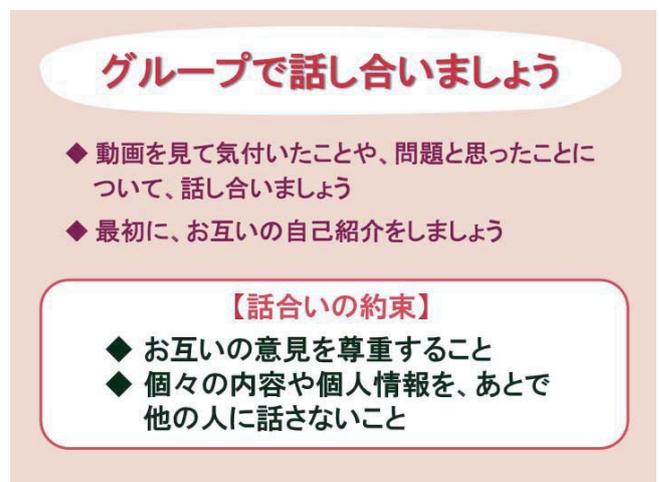
各動画の視聴後、動画の感想や気付いたことなどから、グループワークで話し合い、解決方法を考えるといった研修や、スライド資料を利用して、講師が説明を行うといった研修を想定している。

#### ⑥連結した「通し動画」の使い方

話し合い等の研修時間が確保出来ない場合、「通し動画」を視聴し、それに講師が説明をするなどの簡易な利用が可能となっている。

また、「通し動画」には適切な場面の台詞（せりふ）とともに「Point」というテロップが表示される。例えば、弟がゲーム機でホームページを見ている場面では、「スマホやケータイみたいなフィルタリングを、ゲーム機にもかけられないのかしら。」という母の台詞（せりふ）がある。この場面ではPointとして「ペアレンタルコントロールによる制限」という解決方法がテロップで表示される。「通し動画」では、動画の随所にこのような「Point」を付加し、

保護者が考えたり解決方法を知るきっかけとしている。



### 7.3.3 研修の進め方について

#### ①研修の時間

この動画の研修方法は、15分～90分の間のような様々な研修時間を想定している。

講師のインストラクションに従い、動画を視聴し、話し合いを行い、最後に講師がまとめをする内容で構成してある。

時間に余裕がある場合は、議論の時間を多く確保し90分の研修も可能であるが、あまり時間がないときには「通し動画」の視聴にとどめ短時間での研修も可能な構成にしている。

(詳細は提供された教材の中にある「講義ガイド」を参照のこと)

#### ②研修の講師

講師はPTA役員や地域で活動している啓発団体、あるいは学校の先生等、幅広い方に講師が務まるよう想定して作成されている。



### 7.3.4 提供する教材について

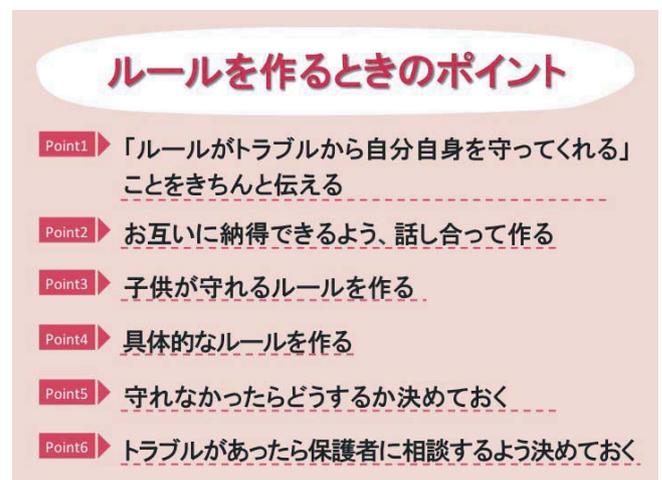
提供する教材については、以下の4種を準備した。

- ①動画 3つの動画(A, B, C), 及び, 連結した「通し動画」
- ②スライド資料 研修を進めるためのプロジェクター等に投影して活用できるスライド資料を準備した。その資料には解説をするための「台詞(せりふ)」もすべて盛り込んでいる。
- ③講義ガイド 研修の方法を詳しく説明してある。
- ④パンフレット 研修中や研修後に持ち帰るための啓発用のパンフレット。

### 7.3.5 まとめ

近年、情報モラル教育における保護者の啓発では、PTAの全国組織等でも「家庭のルールづくり」の重要性が強く叫ばれている。また、家庭のルールづくりをテーマとした研修も行われるようになった。そこで、今回の教材群はそれをメインテーマとして多様な研修ができるように教材を構成した。

家庭のルールづくりのための「大切なポイント」や、ルールが形骸化しないための基本的な考え等がしっかり学べるようになっていく。そして、家庭のルールづくりの取り組みは、親子のコミュニケーションを促進することにもつながる取り組みでもある。



この動画、及び、教材等が有効に活用され、保護者の情報モラル教育の取り組みが、更に発展することは、ひいては子供たちの情報モラル教育の向上にもつながる。

PTA等の保護者研修、あるいは、地域の社会啓発の研修、学校教育の場の研修と、あらゆる保護者研修の場で、この動画と関連教材が有効に活用されることを祈念している。



関連：内閣府で作成している保護者向け普及啓発リーフレット

「ネットの危険からお子様を守るために、保護者ができること」

[http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/koho/pdf/h27keihatsu/compact\\_p1.pdf](http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/koho/pdf/h27keihatsu/compact_p1.pdf)

[http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/koho/pdf/h27keihatsu/compact\\_p2.pdf](http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/koho/pdf/h27keihatsu/compact_p2.pdf)



## 8. レファレンス

### 関連図書・関連サイト

---

#### 教材 1

〔参考図書〕 ・ ネット依存 樋口 進著 PHP 新書

#### 教材 2

〔参考図書〕 ・ Young K,CyberPsychol Behav,1998

#### 教材 3

- 〔参考図書〕 ・ 「デジタル脳」が日本を救う 安西祐一郎著 講談社  
・ ひと目で分かる最新情報モラル 大橋, 森, 立田著 日経 BP ソフトプレス
- 〔Web サイト〕 ・ スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ デジタルアーツ社 <http://daj.jp/cs/sp/app/>  
・ 情報モラル指導ポータルサイト JAPET&CEC  
<http://jnk4.info/www/moral-guidebook-2007/>  
・ インターネット体験ドリル ニフティ株式会社  
<http://www.nifty.co.jp/csr/edu/school/>

#### 教材 4

- 〔参考図書〕 ・ 札幌市立平岡中学校 情報モラル教育実践資料（2012年2月）発行者：校長 高田稔己
- 〔Web サイト〕 ・ 警察庁サイバー犯罪対策課 <https://www.npa.go.jp/cyber/>  
・ 政府インターネットテレビ <http://nettv.gov-online.go.jp/>  
・ 内閣府の関連サイト「インターネット利用環境整備」  
<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/index.html>  
・ 安全にインターネットを使うために！ サイバー空間の脅威と対策  
<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg7751.html>  
・ 不審なメールにご注意！  
<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg6068.html>  
・ トrendマイクロ [http://is702.jp/download/partner/80\\_m/](http://is702.jp/download/partner/80_m/)  
・ インターネットセキュリティナレッジ  
<http://www.trendmicro.co.jp/jp/about-us/csr/is702/index.html>

#### 教材 5

〔Web サイト〕 ・ 平成 27 年上半期の出会い系サイト及びコミュニティサイトに起因する事犯の現状と対策について  
[https://www.npa.go.jp/cyber/statics/h27/h27\\_1.pdf](https://www.npa.go.jp/cyber/statics/h27/h27_1.pdf)

#### 教材 6

〔Web サイト〕 ・ リベンジポルノ等の被害を防止するために - 警察庁  
<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/shiseigazouboushi/>

## 教材 7

---

- 〔Web サイト〕
- ・ちょっと待って！ ケータイ 文部科学省  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afldfile/2013/07/17/1337989\\_4.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afldfile/2013/07/17/1337989_4.pdf)
  - ・ちょっと待ってケータイ&スマホ 文部科学省（2014 年度版）  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afldfile/2014/03/27/1345370\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afldfile/2014/03/27/1345370_01.pdf)
  - ・平成 27 年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果（速報） 内閣府  
<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h27/net-jittai/pdf/sokuhou.pdf>
  - ・青少年のインターネット利用環境整備等に関する調査研究 内閣府  
<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/>

## 教材 9

---

- 〔参考図書〕
- ・平成 27 年版電気通信サービス Q&A 総務省
  - ・文部科学省 学習指導要領 小学校 特別活動 道徳  
中学校 技術・家庭科 特別活動 道徳
  - ・文部科学省 ちょっと待ってケータイ & スマホ新聞（平成 27 年 2 月文部科学省：発行）
- 〔Web サイト〕
- ・学校教育—情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの手引書 文部科学省  
[http://jouhouka.mext.go.jp/information\\_moral\\_manual.html](http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html)
  - ・総合通信基盤局 平成 23 年度総務省調査研究「インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究」 総務省  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000173731.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000173731.pdf)
  - ・コピーライティング専門サイト  
<http://www.hitcopy.jp/web/attention.html>

## 教材 10

---

- 〔参考図書〕
- ・「正しく使おう！ インターネット 事例に学ぶ情報モラル 指導の手引（中高生版）」 グリー株式会社
  - ・「正しく使おう！ インターネット 事例に学ぶ情報モラル 指導の手引（小学生版）」 グリー株式会社

## 教材 11 及び 12

---

- 〔Web サイト〕
- ・国民のための情報セキュリティサイト 総務省  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/security/](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/)
  - ・情報セキュリティ啓発 IPA 情報処理推進機構  
<https://www.ipa.go.jp/security/keihatsu/features.html>
  - ・ケータイ・インターネットの歩き方 EMA 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構  
<http://ema-edu.jp/>
  - ・キッズ・パトロール 警視庁 <http://www.npa.go.jp/cyberpolice/kids/index.html>
  - ・インターネットセキュリティナレッジ is702 トレンドマイクロ  
[http://www.is702.jp/partner/12\\_t/](http://www.is702.jp/partner/12_t/)
  - ・インターネットをあんげんに楽しく使おう Norton <http://japan.norton.com/edu>
  - ・「安心してインターネットを使うために 国民のための情報セキュリティサイト」 総務省  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/security/basic/privacy/01-2.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/basic/privacy/01-2.html)

# 9. 作成委員

## 9.1 平成 25 年度 文部科学省委託事業の委員

(所属は平成 25 年度現在)

### (1) 調査研究委員会を構成する委員

原 克彦	座長	目白大学社会学部メディア表現学科教授	教育研究所所長
小豆川 裕子	委員	株式会社 NTT データ経営研究所	上席研究員
竹内 和雄	委員	兵庫県立大学環境人間学部	准教授
玉田 和恵	委員	江戸川大学メディアコミュニケーション学部	教授
堤 千賀子	委員	茨城県メディア教育指導員連絡会	会長
樋口 進	委員	独立行政法人 国立病院機構久里浜医療センター	院長

### (2) 作業部会を構成する委員

玉田 和恵	部会長	江戸川大学メディアコミュニケーション学部	教授
石田 淳一	委員	独立行政法人 情報処理推進機構	技術本部研究員
大西 久雄	委員	埼玉県越谷市教育委員会学校教育部指導課	主幹
河合 成典	委員	静岡県浜松市立三ヶ日西小学校	校長
佐和 伸明	委員	千葉県柏市教育委員会 柏市教育研究所	指導主事
鈴木 真一	委員	栃木県栃木市立栃木南中学校	校長
高田 稔己	委員	北海道札幌市立日章中学校	校長
川上 弘	委員	茨城県教育研修センター情報教育課	指導主事
土田 十司作	委員	茨城県つくば市立吾妻小学校	校長
三原 聡子	委員	独立行政法人 国立病院機構久里浜医療センター	臨床心理士
湯浅 吉則	委員	京都府亀岡市立南つつじヶ丘小学校	校長
横山 隆光	委員	岐阜県揖斐川町立揖斐小学校	校長
吉田 圭介	委員	千葉県立佐原高等学校	校長
鷲田 美加	委員	つくば市教育委員 茨城県生涯学習審議会委員	

### (3) 教材ワーキング委員

玉田 和恵	部会長	江戸川大学メディアコミュニケーション学部	教授
川上 弘	委員	茨城県教育研修センター情報教育課	指導主事
大西 久雄	委員	埼玉県越谷市教育委員会学校教育部指導課	主幹
佐和 伸明	委員	千葉県柏市教育委員会 柏市教育研究所	指導主事
清水 研志	委員	茨城県つくば市立吾妻小学校	教諭
菊地 寛	委員	静岡県浜松市立三ヶ日西小学校	教諭
広瀬 一弥	委員	京都府亀岡市立南つつじヶ丘小学校	教諭

### (4) オブザーバ団体・企業

安心ネットづくり促進協議会  
株式会社 NTT ドコモ  
グリー株式会社  
株式会社ディー・エヌ・エー

## 9.2 平成 27 年度 文部科学省委託事業の委員

(所属は平成 27 年度現在)

### (1) 教材作成委員会

原 克彦	座長	目白大学社会学部メディア表現学科教授 教育研究所所長
横山 隆光	WG①主査	岐阜女子大学文化創造学部文化創造学科准教授
竹野 英敏	WG②主査	広島工業大学情報学部知的情報システム学科教授
宮寺 庸造	WG③主査	東京学芸大学教育学部自然科学系教授
桑崎 剛	保護者用WG主査	安心ネットづくり促進協議会特別会員
三原 聡子	委員	独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター主任心理療法士

### (2) 教員用指導教材ワーキンググループ①

横山 隆光	主査	岐阜女子大学文化創造学部文化創造学科准教授
今度 珠美	委員	鳥取県教育委員会情報教育講師
小松 一智	委員	東京都立石神井高等学校主任教諭
三宅 健次	委員	千葉大学教育学部附属中学校主幹教諭
埴岡 靖司	委員	岐阜県山県市立桜尾小学校教諭

### (3) 教員用指導教材ワーキンググループ②

竹野 英敏	主査	広島工業大学情報学部知的情報システム学科教授
工藤 雄司	委員	茨城大学教育学部技術教育教室教授
田村 俊之	委員	茨城県牛久市立牛久第二小学校教頭
中山 勝志	委員	広島県東広島市教育委員会学校教育部青少年育成課課長補佐(兼) 青少年係長(兼) 指導主事
和田 俊雄	委員	川崎市総合教育センター情報・視聴覚センター指導主事

### (4) 教員用指導教材ワーキンググループ③

宮寺 庸造	主査	東京学芸大学教育学部自然科学系教授
天良 和男	委員	東京学芸大学教育学部自然科学系特任教授
後藤 貴裕	委員	東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭
野間 俊彦	委員	東京都北区立赤羽台西小学校校長
松山 雅彦	委員	神奈川県横須賀市立常葉中学校教頭

### (5) 保護者用啓発教材ワーキンググループ

桑崎 剛	主査	安心ネットづくり促進協議会特別会員
稲葉 弘和	委員	京都市教育委員会生涯学習部首席社会教育主事
酒井 統康	委員	岐阜県東濃教育事務所教育支援課学校教育係課長補佐
佐藤 修	委員	神奈川県相模原市立小山中学校校長
鈴木 慶子	委員	茨城県メディア教育指導員
鈴木 真一	委員	栃木県栃木市立栃木南中学校校長
猪飼 誉之	委員	神奈川県立金井高等学校教頭

### (6) オブザーバ団体・企業

独立行政法人 情報処理推進機構  
グリー株式会社  
株式会社 ディー・エヌ・エー

## (7) 事務局

千葉 忠司	株式会社エフ・エー・ブイ	総合プロデュース演出
武内 元彦	株式会社エフ・エー・ブイ	演出・編集
齊藤 真美	株式会社エフ・エー・ブイ	制作デスク
戸澤 菜央	株式会社エフ・エー・ブイ	制作デスク
白須 隼人	株式会社エフ・エー・ブイ	演出・編集補助
峯村 恒平	目白大学 教育研究所 助手	編集・制作
宮原 克彦	一般社団法人 日本教育情報化振興会	事務統括



文部科学省委託 情報モラル教育推進事業  
「情報モラルに関する指導の充実に資する調査研究」  
情報化社会の新たな問題を考えるための教材  
～安全なインターネットの使い方を考える～  
指導の手引き

---

平成 28 年 2 月 19 日 初版発行

発行 株式会社 エフ・エー・ブイ  
〒 102-0074 東京都千代田区九段南 3-4-5 番町ビル

協力 一般社団法人 日本教育情報化振興会 (JAPET&CEC)

資料提供 株式会社情報通信総合研究所

編集・DTP・図版 編集工房「白鷺」

イラスト 榎原 直人

印刷 デジタル・アド・サービス

---

●本手引書に記載されている会社名・サービス名・製品名等は、一般に各社の登録商標または商標です。  
なお本文中では、TM、(R) マークは明記していません。



# 情報化社会の新たな問題を 考えるための教材

～安全なインターネットの使い方を考える～

## 指導の手引き

情報モラルに関する指導の充実に資する調査研究委員会  
発行 株式会社 エフ・エー・ブイ



利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。  
[www.bunka.go.jp/jiyuriyo](http://www.bunka.go.jp/jiyuriyo)

※本手引書は、「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」と併せて活用して下さい。当該教材は以下のサイトからダウンロードできます。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm)